

1. 鉄筋の表示記号

Table with 4 columns: 鉄筋径 (Reinforcement diameter), 表示記号 (Symbol), 異形鉄筋 (Special reinforcement), 表示記号 (Symbol). Rows include D10, D13, D16, D19, D22 and their special reinforcement counterparts.

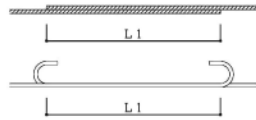
(注) 本図集において、鉄筋の表示方式は、上記の形式とする

2. 鉄筋の表示方式

Table with 2 columns: 表示方式 (Representation method), 表示内容及び内容 (Representation content and details). Rows show examples for 3-D16, D13 @ 250, D10 @ 150 (D), D10 D13 @ 250, and D13 @ 250 千鳥 (Staggered).

(注) 本図集において、鉄筋の表示方式は、上記の形式とする

・L1 (重ね継手) の長さは下記に示す値とする。



公共住宅標準詳細設計図集

3. 鉄筋の定着および継手長さ

Table with 7 columns: コンクリート設計基準強度 Fc (Concrete design strength), 鉄筋の種別 (Reinforcement type), フックの有無 (Hook presence), L1, L2, L3 (small and slab), and 床版 (Slab). Rows are categorized by Fc (18N/mm², 21N/mm², 27N/mm²) and reinforcement type (SD295A, SD295B, SD345, SD390).

継手の定着
○重ね継手と定着の長さは3の表を基準とする。ただし径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い方の公称直径による。
◇L1は継手並びに下記④及び⑤以外の定着長さを示す。
◇L2は異形鉄筋で割製破壊のおそれのない箇所での定着長さを示す。
◇L3は小梁及び床版の下端部の定着長さを示す。但し、基礎圧入部、これを受ける小梁などは除く。

仕

棟

附

記

事

項

名称 共通事項 (その1)

縮尺 R-1-1

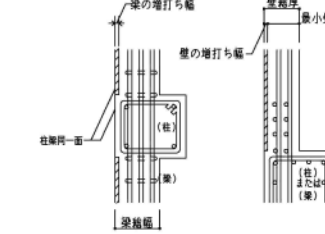
1. 鉄筋のかぶりの厚さの最小値 (mm)

Table with 3 columns: 構造部分の種別 (Structural part type), 床版 (Slab), 仕上がりあり (Finish), 仕上がりなし (No finish), and 全てのコンクリート (All concrete). Rows include 土に接しない部分 (Not in contact with soil) and 土に接する部分 (In contact with soil).

(注) 1. 目地がある場合のかぶり厚さは、目地底からとする。
2. 上表は、構造用軽量コンクリートの場合も含む。
3. 仕上げありとは、モルタル塗り・タイル張り等の仕上げのあるものとし、仕上げ塗材等などで鉄筋の耐久上有効でない仕上げのものを除く。(右図のかぶり厚さを参考)
4. 床版、梁、基礎および壁等に接する部分のかぶり厚さには、接コンクリートの厚さを含まない。
5. 柱基礎の場合のかぶり厚さは、杭天端からとする。

2. 梁壁の増打ち幅

廊下で柱と梁面が同一面では仕上げる場合については、納り上、最も外側になる鉄筋のかぶり厚さを確保し、梁の増打ち幅を決定する。柱梁と壁との取合いについても同様である。(下図参照)



公共住宅標準詳細設計図集

仕

棟

附

記

事

項

名称 共通事項 (その3)

縮尺 R-1-3

1. 鉄筋の折曲げ規準

Table with 4 columns: 折曲げ角度 (Bending angle), 折曲げ図 (Bending diagram), 全てのコンクリート (All concrete), and 使用箇所 (Usage). Rows show bending standards for 180°, 135°, 90°, and 90°/135° angles.

(注) Dは、曲げ内の寸法

(2) 中間部

Table with 4 columns: 折曲げ角度 (Bending angle), 折曲げ図 (Bending diagram), 全てのコンクリート (All concrete), and 使用箇所 (Usage). Rows show bending standards for 90° and 90°/135° angles in the middle section.

SD390を使用する場合は、( )内を適用する。

フックを必要とする末端部を次に示す。
1) 異形鉄筋では巻筋、あばら筋
2) 壁に用いる鉄筋 (壁の一部となる場合を含む)
3) 一般梁柱、梁 (基礎梁を除く) の出露部分の重ね継手
◇ひび割れ防止に用いる溶接金網及び鉄筋格子の定着長さ、支持部材の内側表面から溶接金網及び鉄筋格子の表外端の露出までの距離とし、その値は露出間隔に50mmを加えた長さ以上、かつ150mm以上とする。

仕

棟

附

記

事

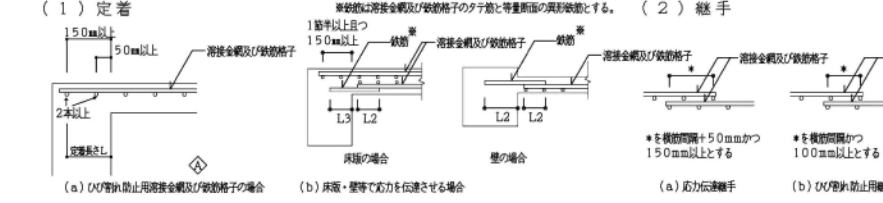
項

名称 共通事項 (その2)

縮尺 R-1-2

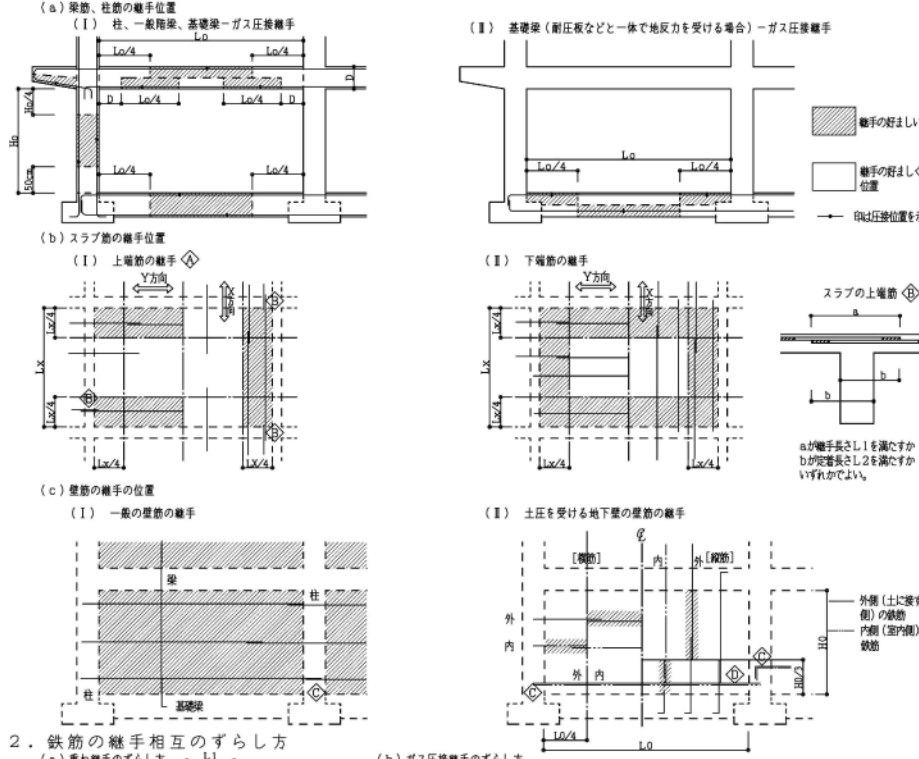
公共住宅標準詳細設計図集

2. 溶接金網及び鉄筋格子の定着と継手

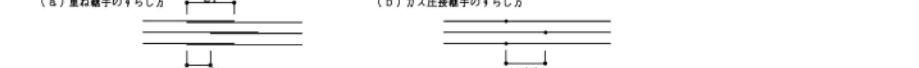


公共住宅標準詳細設計図集

1. 鉄筋の継手位置 (ラーメン構造用)



2. 鉄筋の継手相互のずらし方



仕

棟

附

記

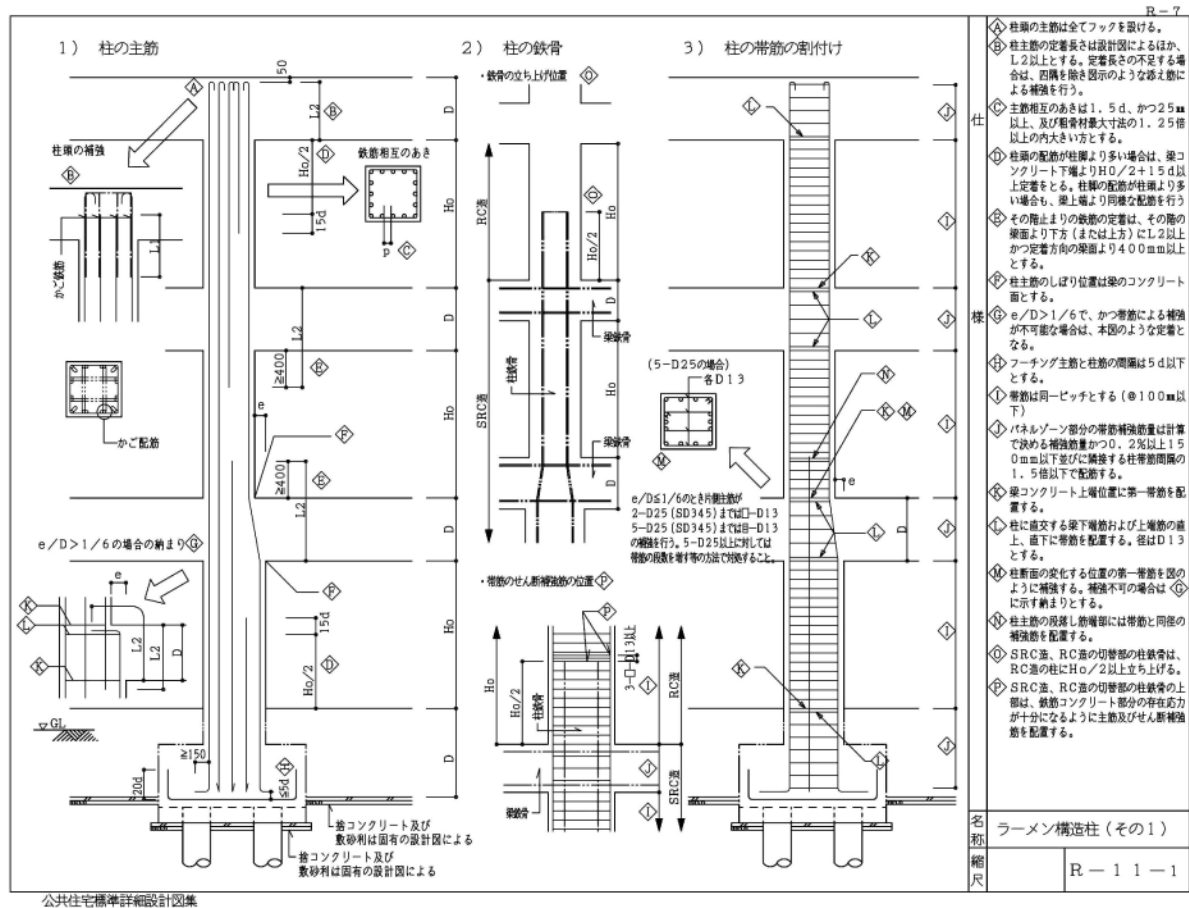
事

項

名称 共通事項 (その4)

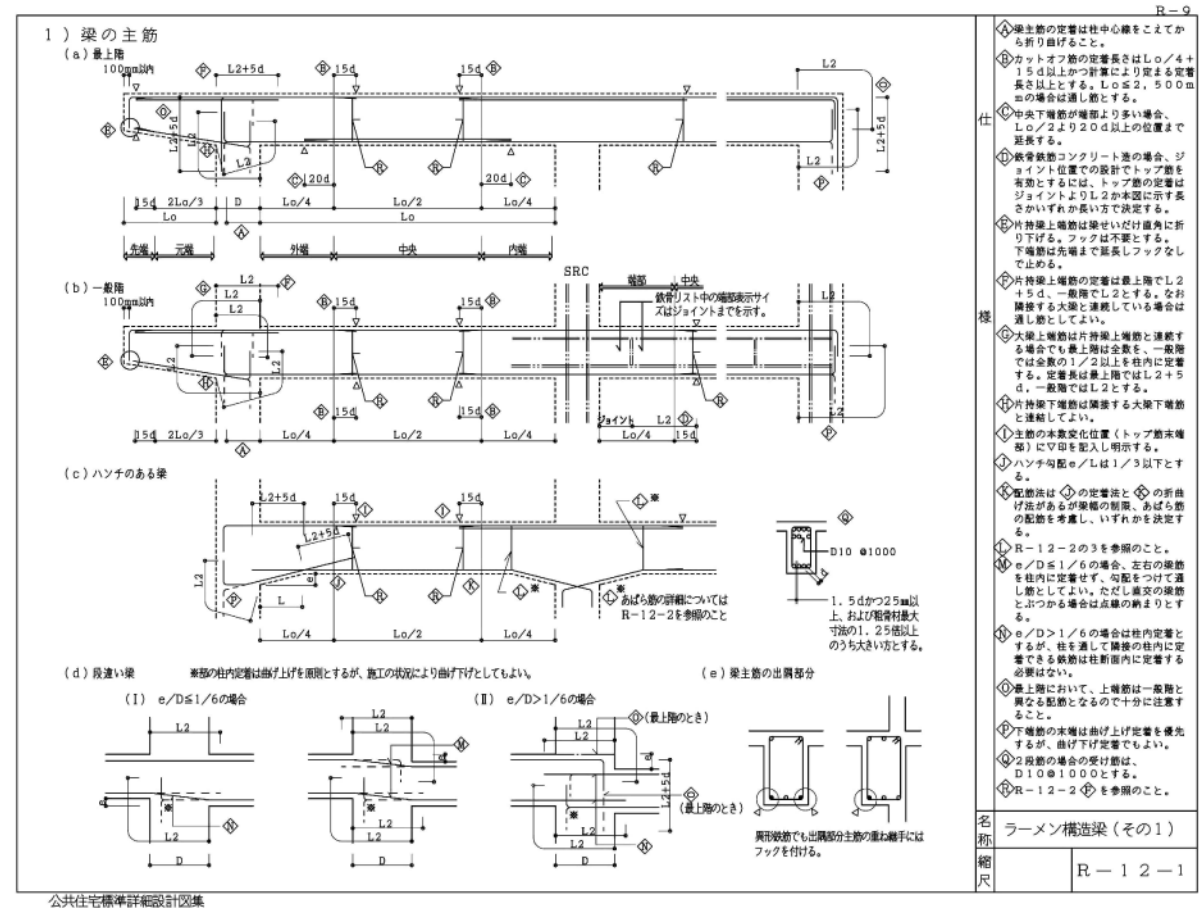
縮尺 R-1-4

Table with 4 columns: 株式会社 丹羽英二建築事務所 (Company name), 一級建築士登録番号 第184619号 濱田 仁 (Registered architect name and number), 上和田住宅建築工事(第1 工区) (Project name), 鉄筋コンクリート構造 配筋基準図(1) (Structural type and drawing name), 縮尺 A1: - A3: - (Scale), 図面番号 No. 67 (Drawing number), 検図 (Check drawing), 製図 (Drawing), 設計 平26年 3月 (Design date), 愛知県建設部建築局公営住宅課 (Client name).



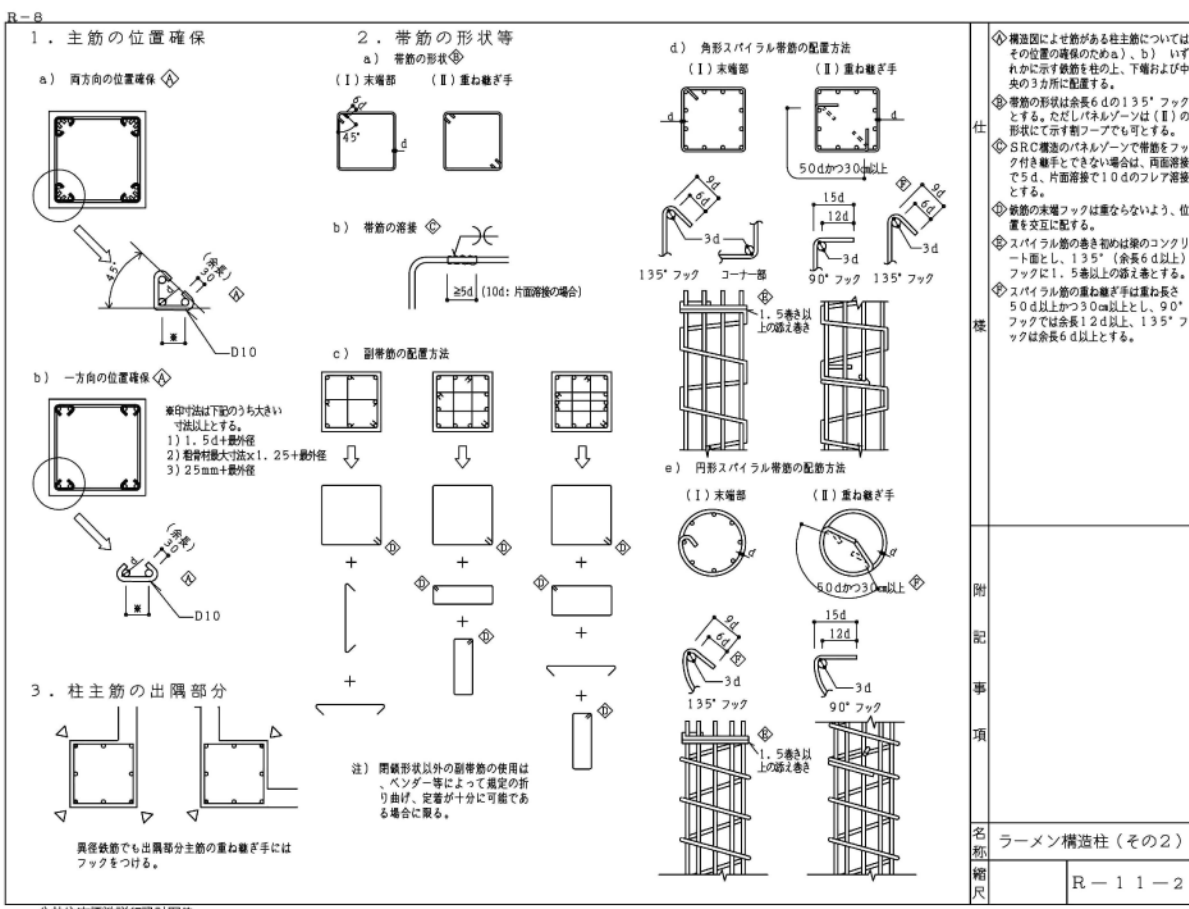
公共住宅標準詳細設計図集

名称 ラーメン構造柱(その1)  
縮尺 R-11-1



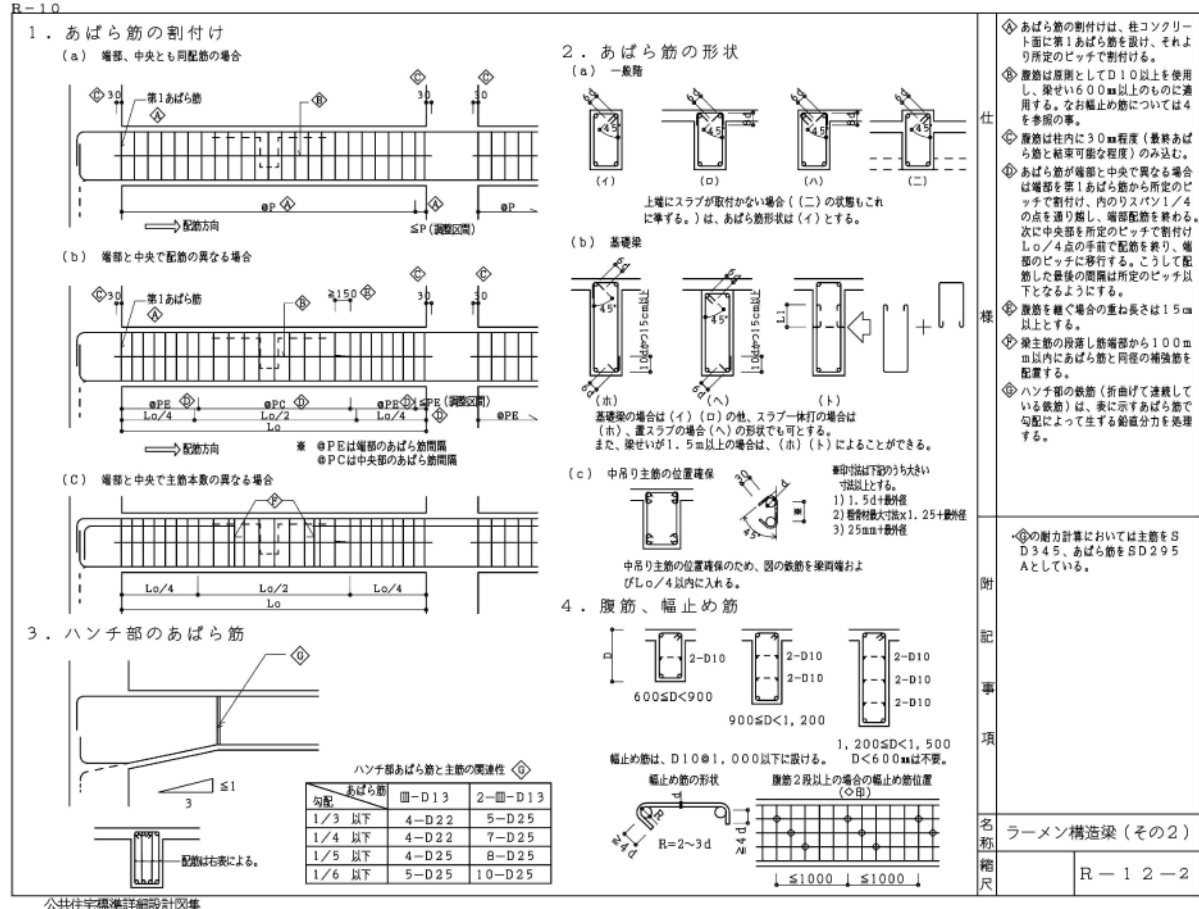
公共住宅標準詳細設計図集

名称 ラーメン構造梁(その1)  
縮尺 R-12-1



公共住宅標準詳細設計図集

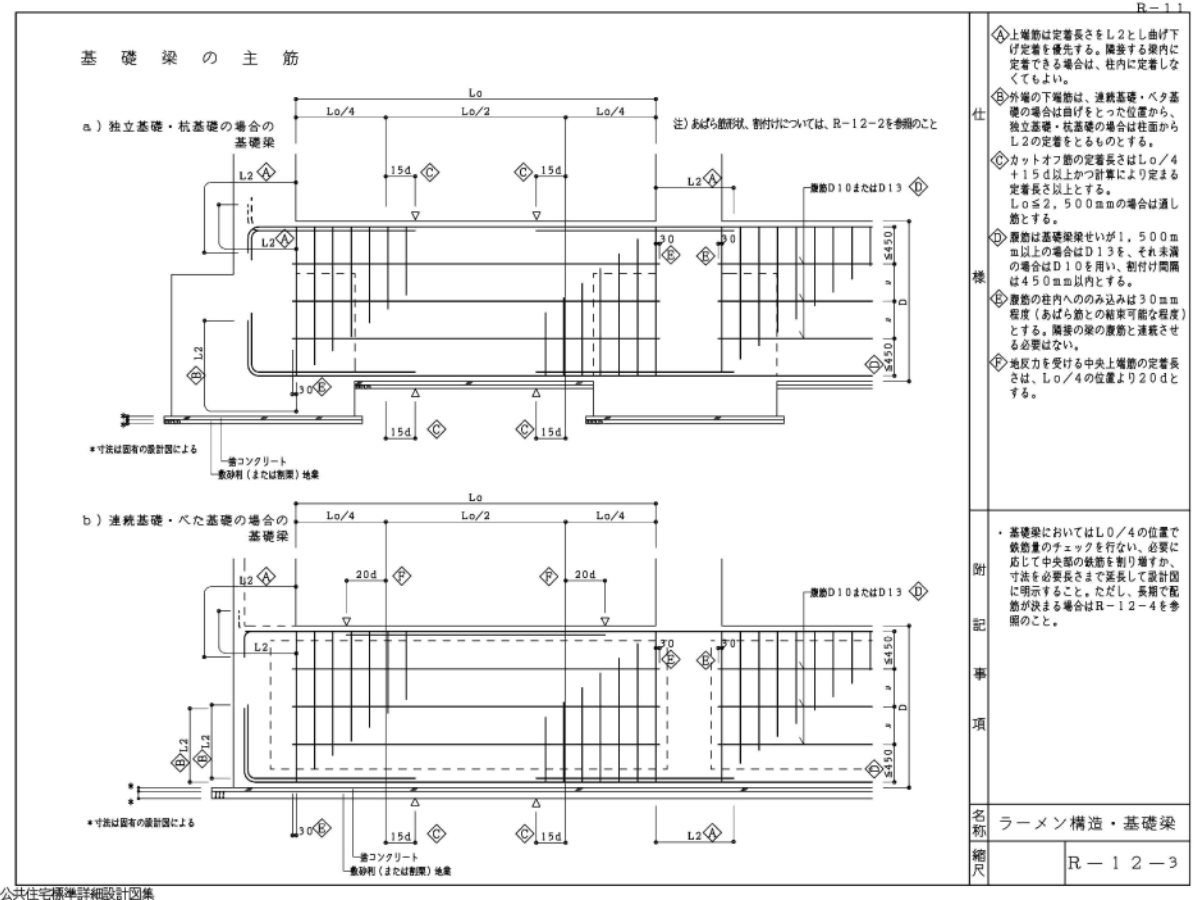
名称 ラーメン構造柱(その2)  
縮尺 R-11-2



公共住宅標準詳細設計図集

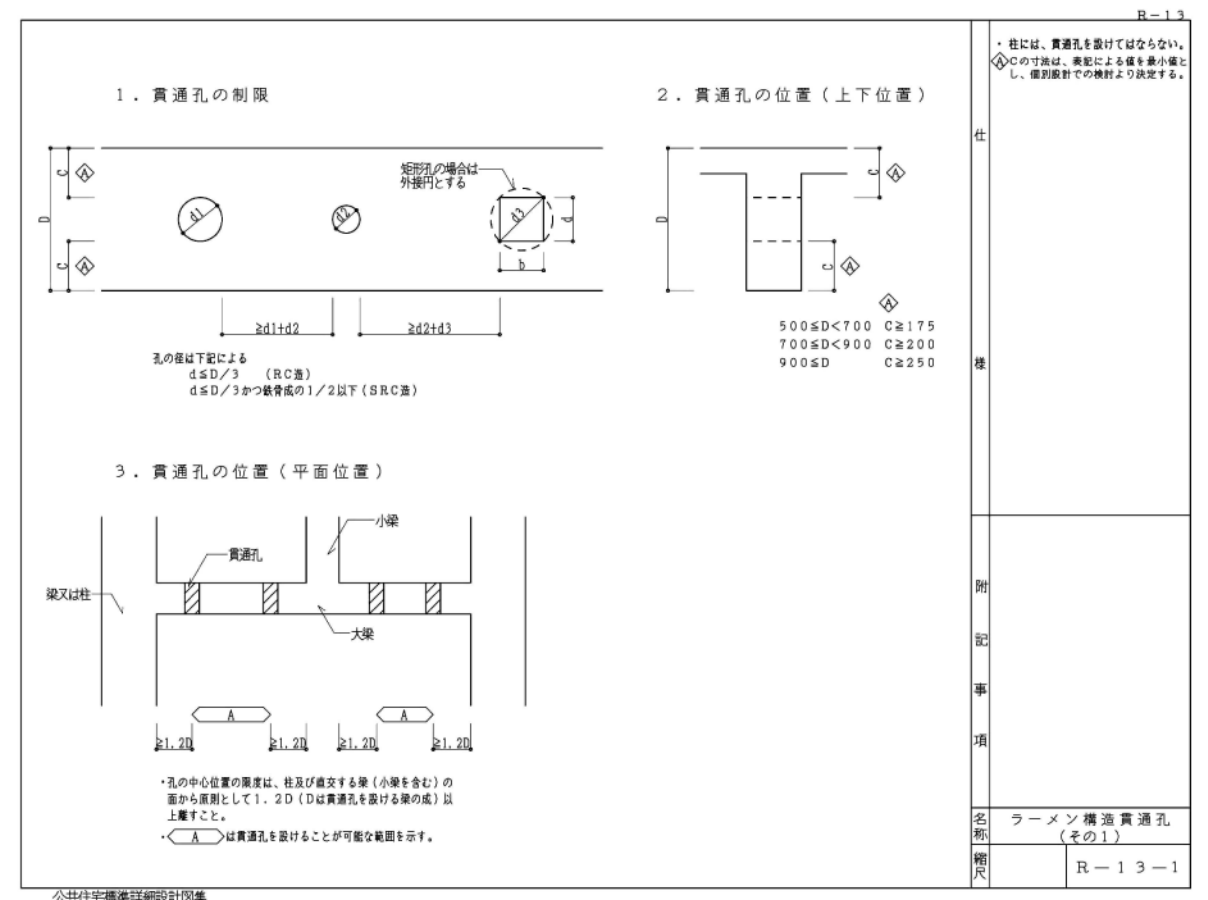
名称 ラーメン構造梁(その2)  
縮尺 R-12-2

株式会社 丹羽英二建築事務所	上和田住宅建築工事(第1工区)	図面番号
一級建築士登録番号 第184619号 濱田 仁	鉄筋コンクリート構造 配筋基準図(2)	縮尺 A1: - A3: - No. 68
検図	製図	設計 平26年 3月
愛知県建設部建築局公営住宅課		



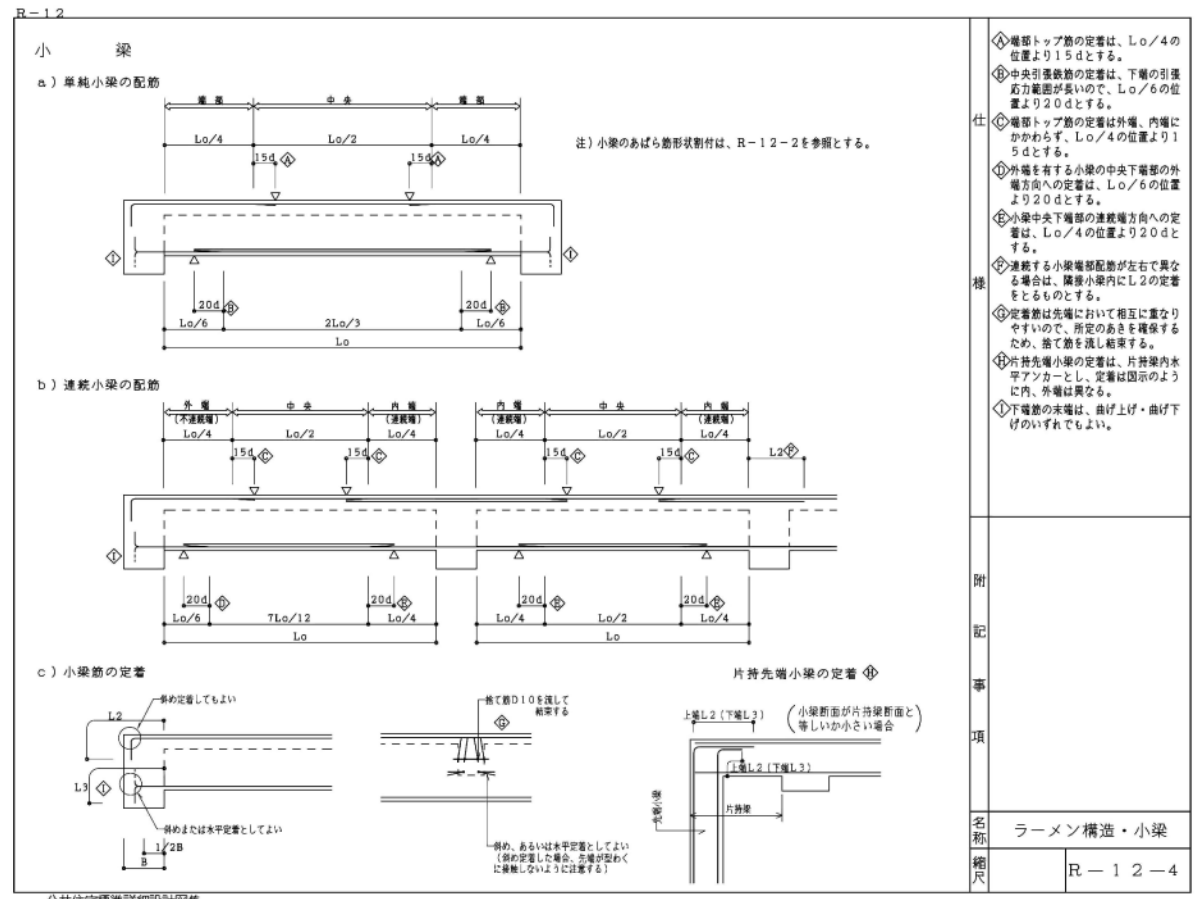
公共住宅標準詳細設計図集

仕	<ul style="list-style-type: none"> <li>上端筋は定着長さをL/2とし曲げ下げ定着を優先する。隣接する梁内に定着できる場合は、柱内に定着しなくてもよい。</li> <li>外端の下端筋は、連続基礎・ベタ基礎の場合は曲げをとった位置から、独立基礎・杭基礎の場合は柱面からL/2の定着をとるものとする。</li> <li>カットオフ筋の定着長さはL/4+15d以上かつ計算により定まる定着長さ以上とする。L/4≧2,500mmの場合は差し筋とする。</li> <li>筋節は基礎梁せいが1,500mm以上の場合はD13を、それ未満の場合はD10を用い、軒付け間隔は450mm以内とする。</li> <li>筋節の柱内へのみ込みは30mm程度（あばら筋との結束可能な程度）とする。隣接の梁の筋節と連続させる必要はない。</li> <li>地反力を受ける中央上端筋の定着長さは、L/4の位置より20dとする。</li> </ul>
附	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎梁においてはL/4の位置で鉄筋量のチェックを行い、必要に応じて中央部の鉄筋を削り増すか、寸法を必要長さまで延長して設計図に明示すること。ただし、長期で配筋が決まる場合はR-1-2-4を参照のこと。</li> </ul>
事項	<p>ラーメン構造・基礎梁</p>
名称	ラーメン構造・基礎梁
縮尺	R-12-3



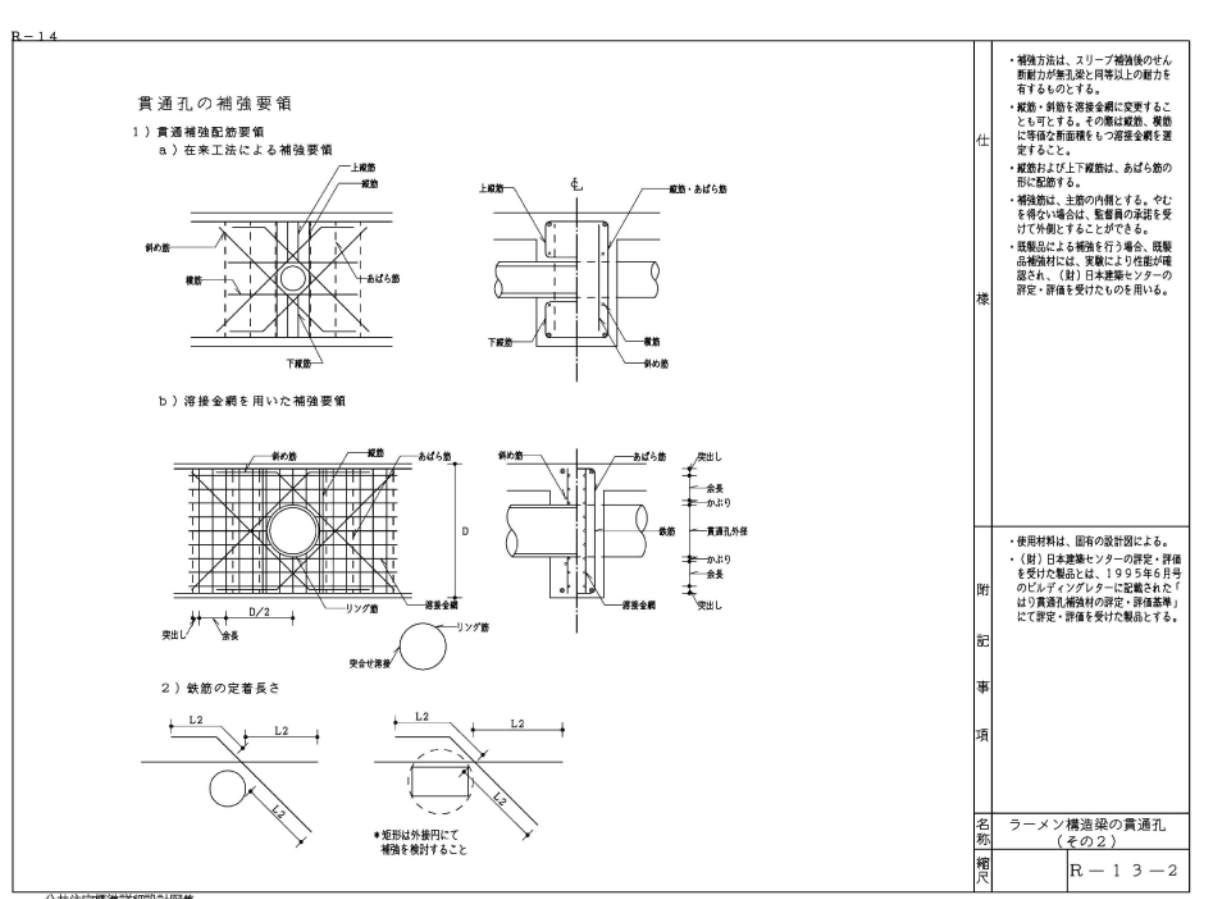
公共住宅標準詳細設計図集

仕	<ul style="list-style-type: none"> <li>柱には、貫通孔を設けてはならない。</li> <li>○の寸法は、表記による値を最小値とし、個別設計での検討より決定する。</li> </ul>
附	<p>ラーメン構造貫通孔 (その1)</p>
事項	<p>ラーメン構造貫通孔 (その1)</p>
名称	ラーメン構造貫通孔 (その1)
縮尺	R-13-1



公共住宅標準詳細設計図集

仕	<ul style="list-style-type: none"> <li>端部トップ筋の定着は、L/4の位置より15dとする。</li> <li>中央引張筋筋の定着は、下端の引張筋力範囲が長いので、L/6の位置より20dとする。</li> <li>端部トップ筋の定着は外端、内端にかかわらず、L/4の位置より15dとする。</li> <li>外端を有する小梁の中央下端部の外端方向への定着は、L/6の位置より20dとする。</li> <li>小梁中央下端部の連続方向への定着は、L/4の位置より20dとする。</li> <li>連続する小梁端部筋節が左右異なる場合は、隣接小梁内にL/2の定着をとるものとする。</li> <li>定着筋は先端において相互に重なりやすいので、所定のあきを確保するため、捨て筋を差し結実する。</li> <li>片持先端小梁の定着は、片持梁内水平アンカーとし、定着は図示のように、外端は異なる。</li> <li>下端筋の末端は、曲げ上げ・曲げ下げのいずれでもよい。</li> </ul>
附	<p>ラーメン構造・小梁</p>
事項	<p>ラーメン構造・小梁</p>
名称	ラーメン構造・小梁
縮尺	R-12-4



公共住宅標準詳細設計図集

仕	<ul style="list-style-type: none"> <li>補強方法は、スリブ補強後のせん断耐力が無孔梁と同等以上の耐力を有するものとする。</li> <li>縦筋・斜筋を溶接金網に変更することも可とする。その際は縦筋、横筋に等価な断面積をもつ溶接金網を選定すること。</li> <li>縦筋および上下縦筋は、あばら筋の形に密着する。</li> <li>補強筋は、主筋の内側とする。やじを有しない場合は、金網の承認を受けて外側とすることができる。</li> <li>鉄筋品による補強を行う場合、鉄筋品補強材には、実験により性能が確認され、(財)日本建築センターの認定・評価を受けたものを用いる。</li> </ul>
附	<p>ラーメン構造梁の貫通孔 (その2)</p>
事項	<p>ラーメン構造梁の貫通孔 (その2)</p>
名称	ラーメン構造梁の貫通孔 (その2)
縮尺	R-13-2

株式会社 丹羽英二建築事務所	上和田住宅建築工事(第1工区)	図面番号
一級建築士登録番号 第184619号 濱田 仁	鉄筋コンクリート構造 配筋基準図(3)	縮尺 A1: - A3: - No. 69
検 図	製 図	設 計 平26年 3月
愛知県建設部建築局公営住宅課		

R-15

### 非耐力壁

#### 1) 非耐力壁 配筋リスト

呼称	非耐力壁					備考
	W100	W120	W150	W180	W200	
断面図 (立断面)						● 補止筋配置
	縦筋	D10 @ 250	D10 @ 200	D10 @ 150	D10 @ 200	
横筋	D10 @ 250	D10 @ 200	D10 @ 150	D10 @ 200	D10 @ 200	
開口部曲げ補強筋	1 - D13	2 - D13	2 - D13	2 - D13	2 - D13	
開口部斜め補強筋	1 - D13	2 - D13	2 - D13	2 - D13	2 - D13	

#### 2) コンクリートブロック壁 配筋リスト

呼称	コンクリート壁			備考
	CB100	CB150	CB200	
断面図 (立断面)				● 補筋は耐力壁を示す。
	縦筋	D10 @ 400	D10 @ 400	
横筋	D10 @ 600	D10 @ 600	D10 @ 600	

#### 3) 非耐力壁の割付け

仕  
様  
附  
記  
事  
項  
名  
称  
縮  
尺

- 見付200mm×200mm以下の開口部については補強不要とし、縦、横筋ともに開口部を避けて割付ける。
- 斜め補強に格子鉄筋を用いる場合の詳筋はR-14-2を参照のこと。
- 非耐力壁の定着長さは、縦筋・横筋共にLとする。
- W180、W200の場合には、補止筋をD10@1,000以内で設ける。補止筋は、縦筋に水平方向に設ける。
- 壁のダブル配筋を行う場合、横筋は縦筋の外側に配す。
- 壁の補止筋の配筋要領は、上記以外でのダブル配筋を行う場合にも適用とする。

ラーメン構造非耐力壁 (その1)

R-14-1

R-16

### 4) 非耐力壁開口補強, スリット詳細

注) 開口部補強筋は全てD13を示し、---表示の補強筋はW120以上の場合に使用する。

(a) フレーム内の場合

(b) フレーム外の場合

#### 5) ひび割れ防止用補強筋

● 補強金網 (6φ, 8φ) または 格子鉄筋 (D6, D10)

補強金網	壁厚	W100		W120, W150, W180, W200	
		a	b	a	b
6φ 100x100	200	400	200	-	-
8φ 100x100	200	200	200	400	200

格子鉄筋	壁厚	W100, W120		W150, W180, W200	
		a	b	a	b
D6 100x100	200	200	200	-	-
D10 100x100	-	-	-	200	200

● 印の寸法は右表を参照のこと。

仕  
様  
附  
記  
事  
項  
名  
称  
縮  
尺

- スリットの要領はR-14-3を参照する。
- 開口部に柱、梁に接する場合はそれぞれ縦筋、横筋の補強筋は不要とする。
- 開口部補強はリストに表示したようにW100では1-D13、W120~W200では2-D13とする。
- 見付200mm×200mm以下の開口部については補強は不要とし、縦・横筋は開口部を避けて割付ける。
- 斜め筋は縦筋、横筋の本数、サイズを増強して省略することができる。斜め筋のかわりに溶接金網、格子鉄筋を用いてもよい。
- 開口部周囲に、斜め筋のかわりにひびわれ防止用の溶接金網、または格子鉄筋を用いる場合、サイズおよびピッチを表示する。
- 開口部補強筋は縦、横共に計算による他、D10@100を最小とする。
- スリット位置は設計図に明示すること。

ラーメン構造非耐力壁 (その2)

R-14-2

R-17

### 6) 完全スリット及び部分スリット要領

(a) スリット取付例

(b) スリット部分の補強

● 部分スリット

- 梁-非耐力壁
- 柱-非耐力壁

● 完全スリット

- 梁-非耐力壁
- 柱-非耐力壁

● 補筋は設計図に明示すること。

● スリット補筋は、本体と同等の形状を考慮し、二次壁の高さ(梁の場合は二次壁の長さ)の1/10以上とする。

ラーメン構造非耐力壁 (その3)

R-14-3

R-18

### 耐力壁・地下壁

1) 耐力壁の配筋, 定着

(a) 柱への定着

(b) 梁への定着

2) 地下壁の配筋, 定着

(a) 柱への定着

(b) 梁への定着

● 耐力壁・地下壁のコンクリートの打込み厚さは図面の設計による。

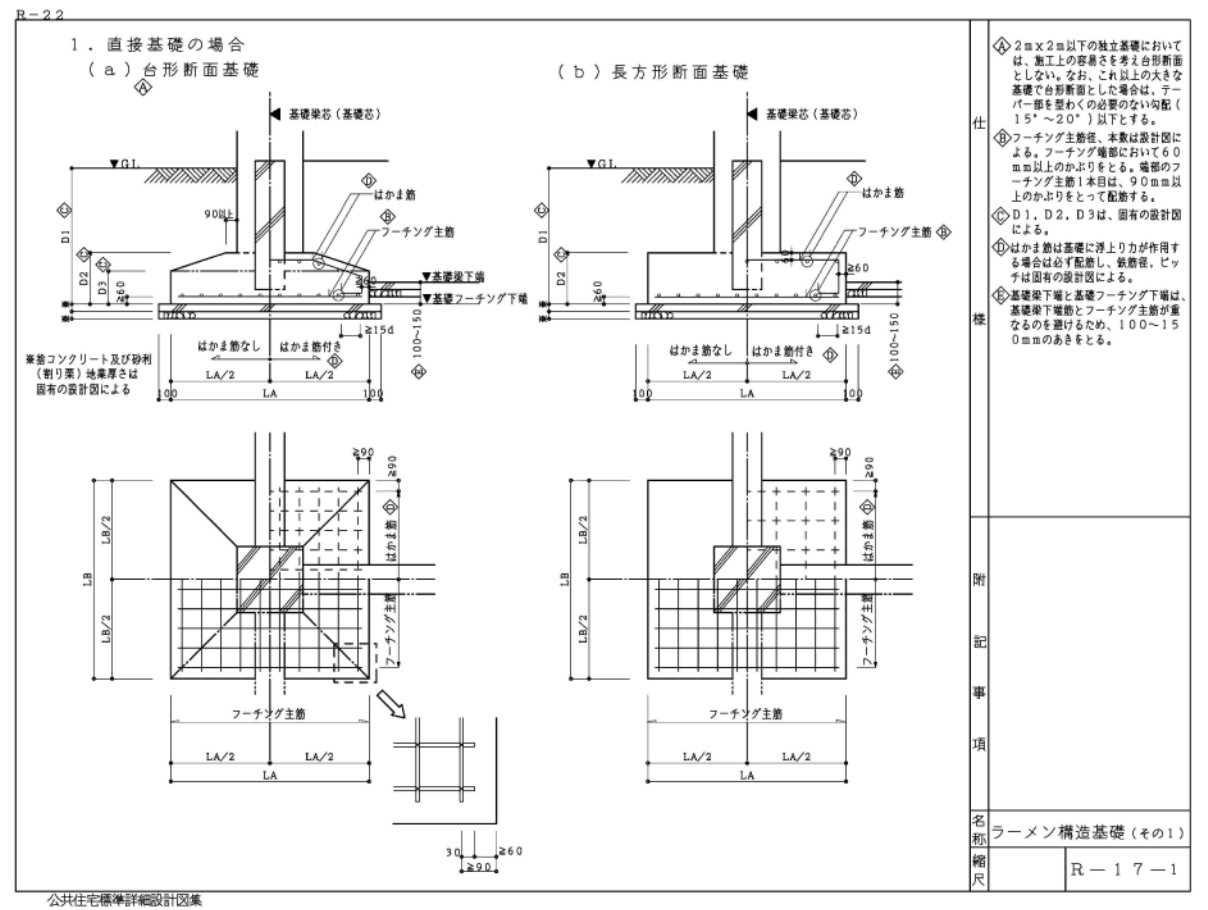
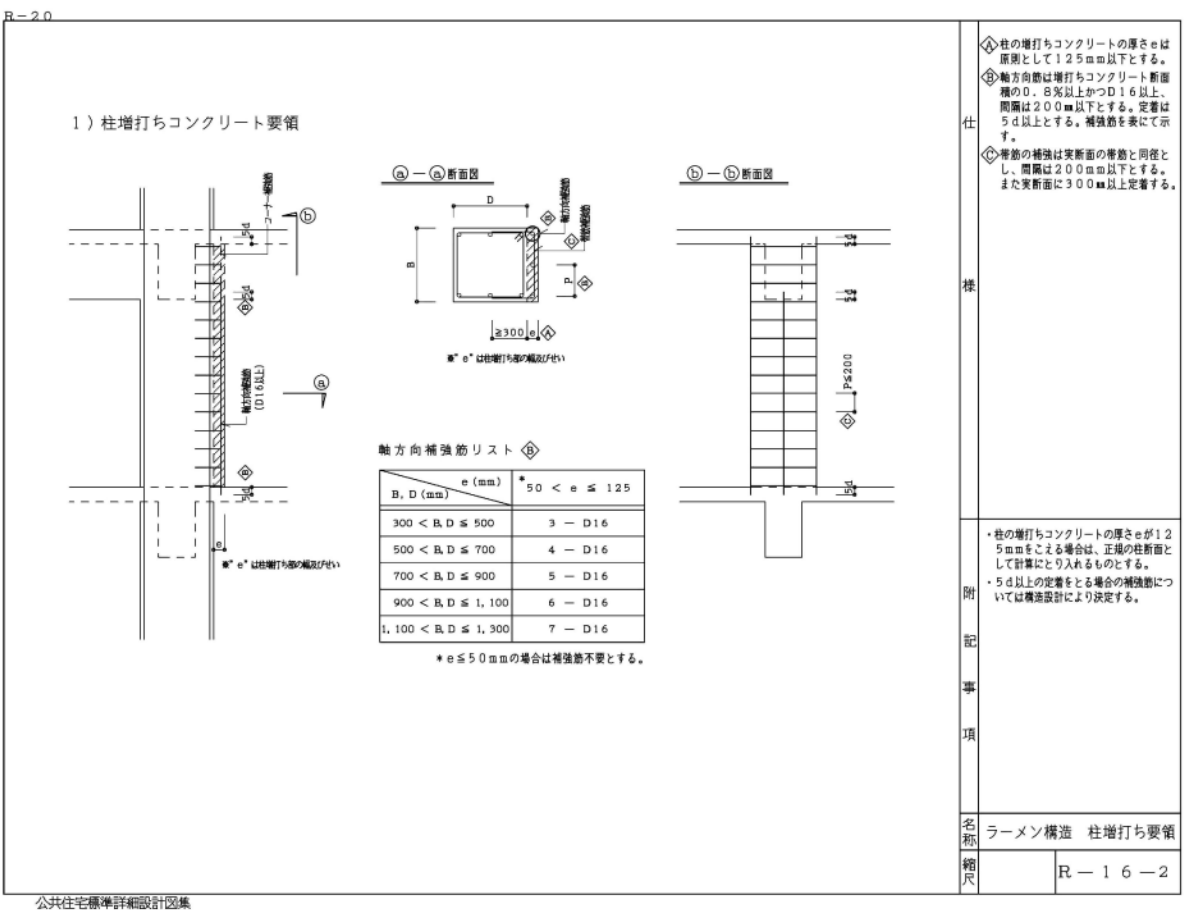
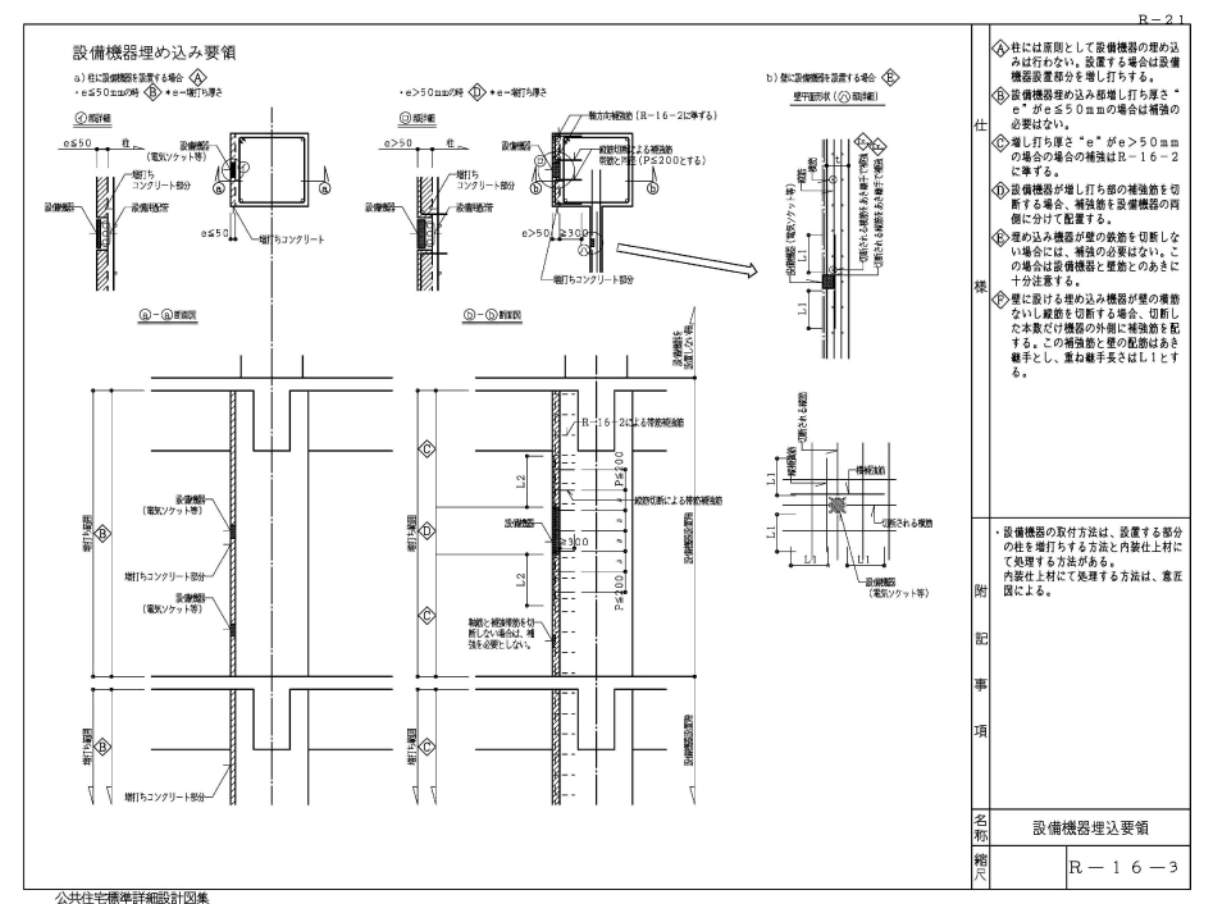
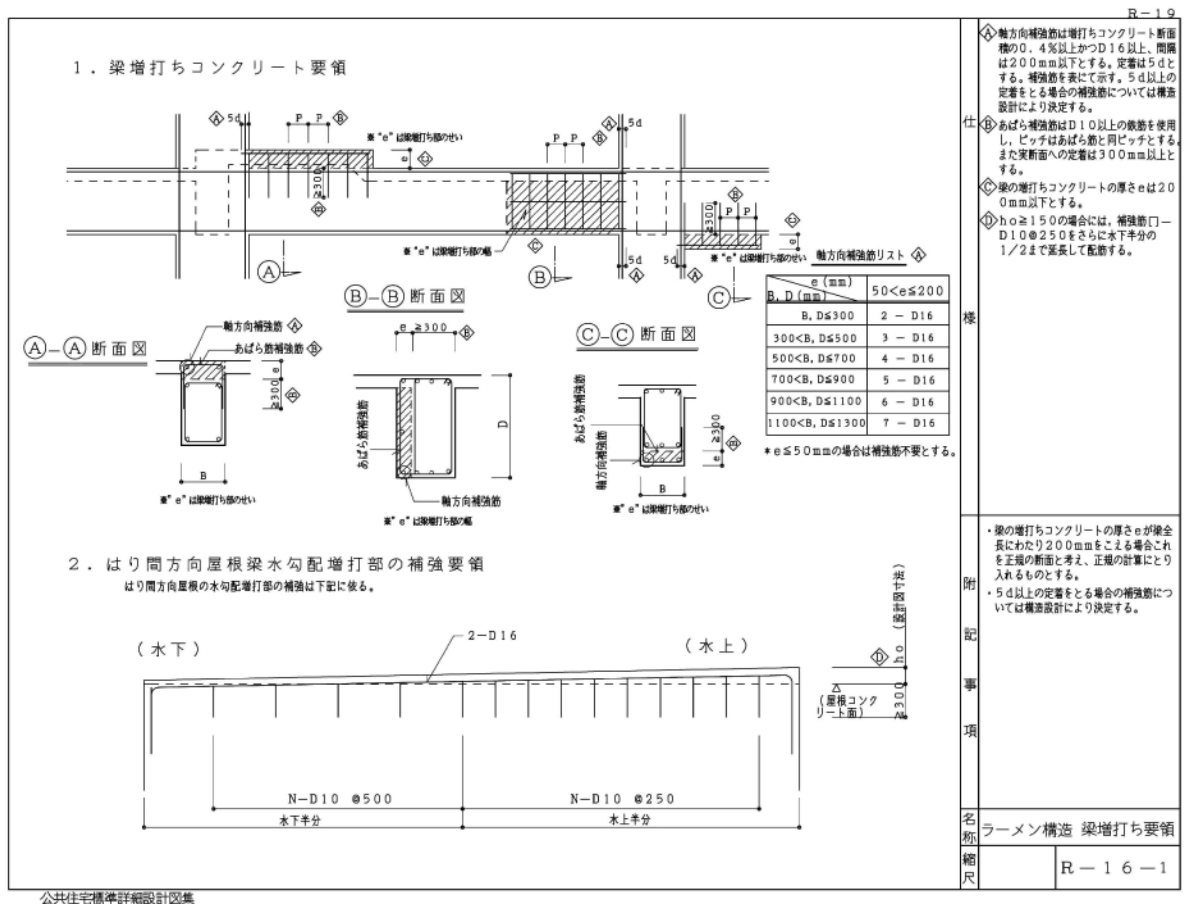
仕  
様  
附  
記  
事  
項  
名  
称  
縮  
尺

- 外側鉄筋は柱、梁断面内に定着せず、継手は壁厚外に設ける。
- 内側鉄筋は柱、梁断面内に定着するか、または差込とする。
- 配筋の第1鉄筋は柱、梁面より50mmの位置に設け、壁筋はこれを基準として割付ける。
- 外側鉄筋の本端はL2かつ柱、梁断面内の中心線をこえて定着する。先端の折曲角は90°以上とし、余長は150mm以上を確保する。
- 縦筋は、梁をこえて継手長さの分だけ立上げる。また上下の縦筋ピッチが異なるときはある継手としてよい。
- 外側鉄筋は梁内にL2かつ水平に150mmの定着をとるものとする。
- 基礎梁の定着は表示の値以上でよいが鉄筋の位置の確保のため、1mピッチ程度で配筋の上端まで下げる。
- 内側鉄筋は梁内にL2の定着長をとるものとする。
- 配筋の第1鉄筋は柱、梁面より50mmの位置に設け、壁筋はこれを基準として割付ける。
- 外側鉄筋は原則として柱内定着せず、壁厚外に継手を設けるものとする。
- 内側鉄筋は柱内に定着し、定着長はL2とする。
- 鉄筋の配置により①の値が変化するので設計上の"te"の値は配筋を考慮の上決定すること。
- 柱主筋D25、壁筋D16のときは、②→64mmとなる。
- 補止筋はD10@1,000以内とする。
- 壁のダブル配筋を行う場合、横筋は縦筋の外側に配す。ただし地下壁については、縦筋は横筋の外側に配す。

ラーメン構造耐力壁・地下壁

R-15

株式会社 丹羽英二建築事務所	上和田住宅建築工事(第1工区)	図面番号
一級建築士登録番号 第184619号 濱田 仁	鉄筋コンクリート構造 配筋基準図(4)	縮尺 A1: - A3: - No. 7.0
検 図	製 図	設 計 平26年 3月
愛知県建設部建築局公営住宅課		



株式会社 丹羽英二建築事務所		上和田住宅建築工事(第1工区)		図面番号
一級建築士登録番号 第184619号 濱田 仁		鉄筋コンクリート構造 配筋基準図(5)	縮尺 A1: - A3: -	No. 71
検 査	製 図	設 計 平26年 3月	愛知県建設部建築局公営住宅課	

R-23

### 2. 既製杭の場合 (PHC・SC杭)

杭頭補強参考図

仕 事 項

- フーチング主筋本数は設計図による。四隅部鉄筋は一方を水平にL2定着し、他の一本を上上げる。
- 巻巻きコンクリートの厚さは100mmとする。
- はかま筋は特記なき限りD13φ300以下とし、末端部の余長は15d以上とし、主筋とラップさせる。なお四隅部の鉄筋の納まりは主筋と同様とする。
- はかま筋、巻巻きD13φ300以下とする。
- 基礎下層と基礎フーチング下層はフーチングの配筋と基礎下層の鉄筋が重なるのを避けるため、100~150mmのあきをとる。
- フーチングの厚さD1は、構造計算により決定する。
- フーチング主筋は、杭頭からスベサー等により60mm以上のかぶり確保する。
- 中詰めコンクリートは、杭位置より杭径の1.5倍の範囲まで、十分に充填すること。
- 中詰めコンクリート補強主筋は、杭位置よりL1の定着を行うこと。
- 中詰めコンクリート補強H O O P筋は、杭位置より100mm下った位置より配筋を行うこと。
- ( ) 内数値は埋込み杭の場合を示す。

附 記 事 項

- 中詰めコンクリートは、基礎のコンクリートの調合と同じ調合のコンクリートを使用すること。
- 既製杭の基礎形状は、R-17-2及びR-17-3の2タイプあるので、どちらを使用するかは図の設計図による。
- 杭の引き抜きに対しての杭頭接合部の計算を行う。
- 杭頭接合部の固定度(a)は、十分注意して設計する。

名 称 縮 尺

ラーメン構造基礎 (その2)  
R-17-2

R-25

### 4. 場所打ち杭の場合 (柱SRC造でアンカーボルトをS-33-1とする場合)

杭頭処理図

仕 事 項

- 隅角部の鉄筋は一方を水平にL2定着し、他方を立ち上げるものとする。
- 巻巻きコンクリートの厚さは100mmとする。
- はかま筋は特記なき限りD13φ300以下とし、末端部の余長は15d以上とし、フーチング主筋とラップさせる。なお四隅部の鉄筋の納まりはフーチング主筋と同様とする。
- はかま筋、巻巻きD13φ300とする。
- 基礎下層と基礎フーチング下層は、フーチング主筋と基礎下層の鉄筋が重なるのを避けるため、100~150mmのあきをとる。
- 杭頭部の余り厚さは杭施工の孔中に水が多い場合は80mm以上とし、孔中に水が少ない場合は50mmを標準とする。また杭主筋はフーチング内にL1以上定着すること。
- フーチングの厚さD1は、構造計算により決定する。
- フーチングの主筋は杭頭からスベサー等により60mm以上のかぶり確保する。
- 杭のフーチングからのへりあきは、200mmを標準とする。なお、杭が2本打ち以上となる場合はフーチングは長方形とする。この時の杭頭間隔は2D以上とする。

附 記 事 項

杭頭処理について

杭頭処理は、杭本体に悪影響をおよぼさない工法とし、工法例として、下記を記載する。

- 杭完成後かつ(コンクリート打設14日間経過後)
- コンクリート打設後の硬化以前に、バキュームポンプにて吸引する。
- 主筋の露出長部分に、塩ビフィルム等を巻き付けを除去しておき、所定の位置においてコンクリートを水平に切断し杭頭をそのまま取り出す。
- 上記以外の方法で、施工時に監督員の承認があるもの。

名 称 縮 尺

ラーメン構造基礎 (その4)  
R-17-4

R-24

### 3. 既製杭の場合 (PHC・SC杭)

杭頭処理参考図

仕 事 項

- フーチング主筋本数は設計図による。フーチング端部において20d以上立ち上げるものとする。四隅部鉄筋は一方を水平にL2定着し、他の一本を上上げる。
- 巻巻きコンクリートの厚さは100mmとする。
- はかま筋は特記なき限りD13φ300以下とし、末端部の余長は15d以上とし、フーチング主筋とラップさせる。なお四隅部の鉄筋の納まりは主筋と同様とする。
- はかま筋、巻巻きD13φ300以下とする。
- 基礎下層と基礎フーチング下層は、フーチング主筋と基礎下層の鉄筋が重なるのを避けるため、100~150mmのあきをとる。
- フーチングの厚さD1は、構造計算により決定する。
- フーチング主筋は、杭頭からスベサー等により60mm以上のかぶり確保する。
- 中詰めコンクリートは、基礎のコンクリートの調合と同じ調合のコンクリートを使用すること。
- 杭の引き抜きに対しての杭頭接合部の計算を行う。
- 杭頭接合部の固定度(a)は、十分注意して設計する。
- ( ) 内数値は埋込み杭の場合を示す。

附 記 事 項

杭頭処理について

杭頭処理は、杭本体に悪影響をおよぼさない工法とし、工法例として、下記を記載する。

- 杭完成後かつ(コンクリート打設14日間経過後)
- コンクリート打設後の硬化以前に、バキュームポンプにて吸引する。
- 主筋の露出長部分に、塩ビフィルム等を巻き付けを除去しておき、所定の位置においてコンクリートを水平に切断し杭頭をそのまま取り出す。
- 上記以外の方法で、施工時に監督員の承認があるもの。

名 称 縮 尺

ラーメン構造基礎 (その3)  
R-17-3

R-26

### 5. 場所打ち杭の場合 (柱RC造およびSRC造でアンカーボルトをS-33-2とする場合)

杭頭処理図

仕 事 項

- 隅角部の鉄筋は一方を水平にL2定着し、他方を立ち上げるものとする。
- 巻巻きコンクリートの厚さは100mmとする。
- はかま筋は特記なき限りD13φ300以下とし、フーチング下層まで下げ、末端部の余長を15dとし主筋とラップさせる。
- はかま筋、巻巻きD13φ300以下とする。
- フーチング下層と基礎下層のあきは、100~150mmとし、フーチング鉄筋と基礎主筋の重なりをさける。
- 杭頭部の余り厚さは杭施工の孔中に水が多い場合は80mm以上とし、孔中に水が少ない場合は50mmを標準とする。また杭主筋はフーチング内にL1以上定着すること。
- フーチングの厚さD1は、構造計算により決定する。
- フーチング主筋は杭頭からスベサー等により60mm以上のかぶり確保する。
- 杭のフーチングからのへりあきは、200mmを標準とする。なお、杭が2本打ち以上となる場合はフーチングは長方形とする。この時の杭頭間隔は2D以上とする。

附 記 事 項

杭頭処理について

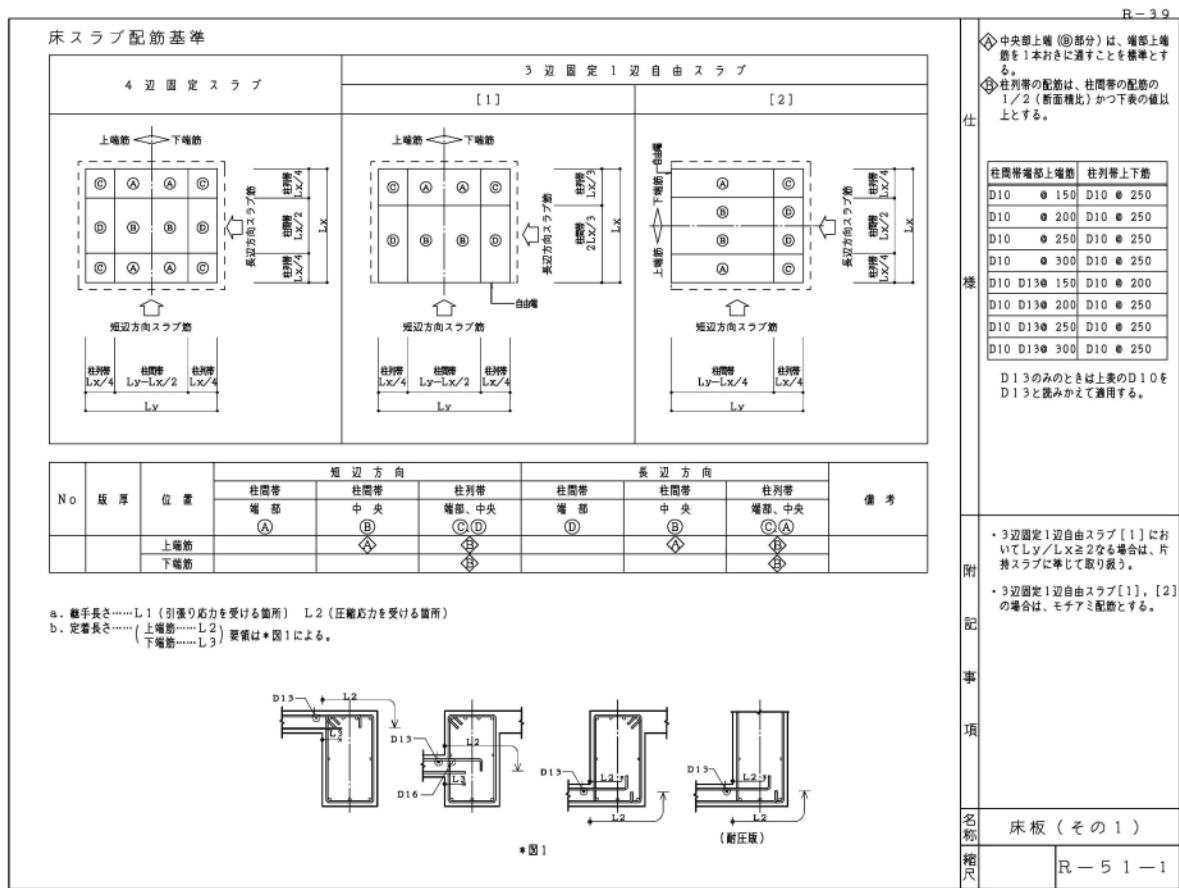
杭頭処理は、杭本体に悪影響をおよぼさない工法とし、工法例として、下記を記載する。

- 杭完成後かつ(コンクリート打設14日間経過後)
- コンクリート打設後の硬化以前に、バキュームポンプにて吸引する。
- 主筋の露出長部分に、塩ビフィルム等を巻き付けを除去しておき、所定の位置においてコンクリートを水平に切断し杭頭をそのまま取り出す。
- 上記以外の方法で、施工時に監督員の承認があるもの。

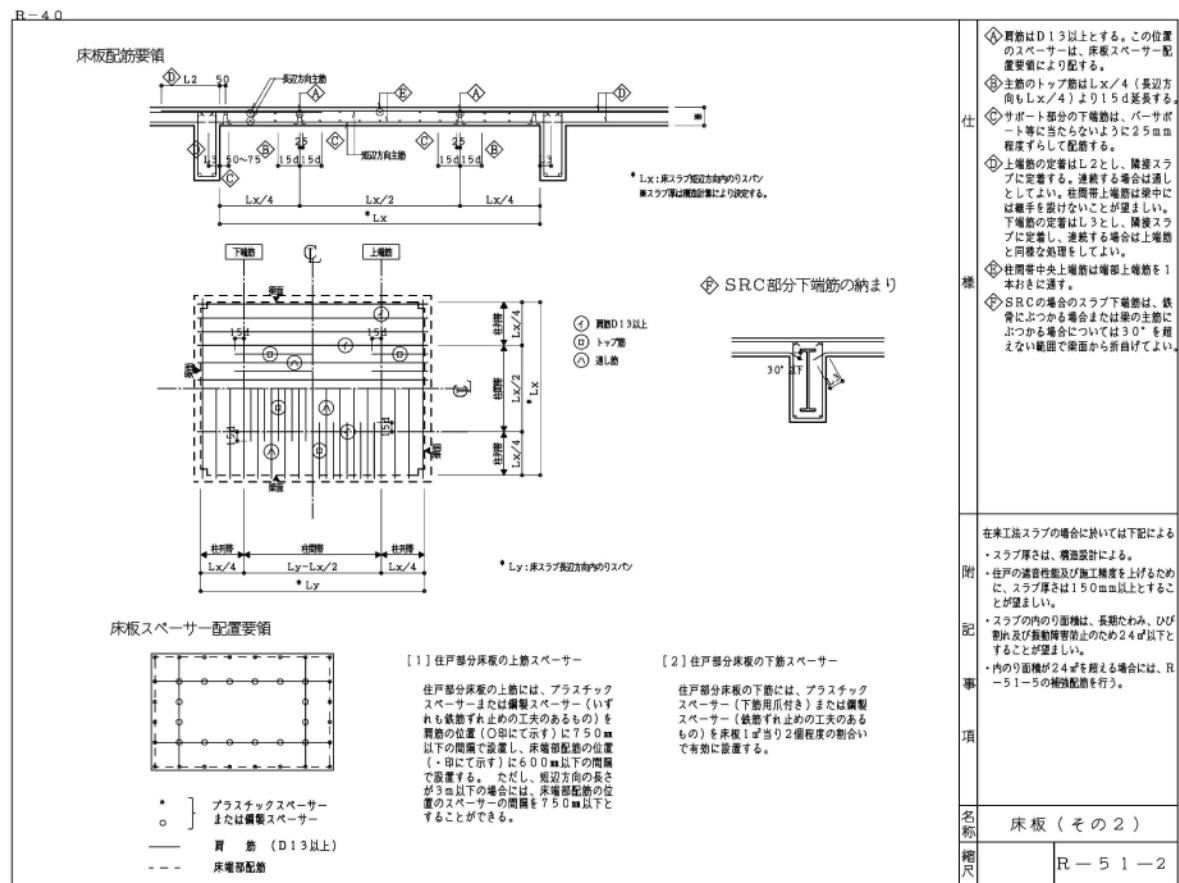
名 称 縮 尺

ラーメン構造基礎 (その5)  
R-17-5

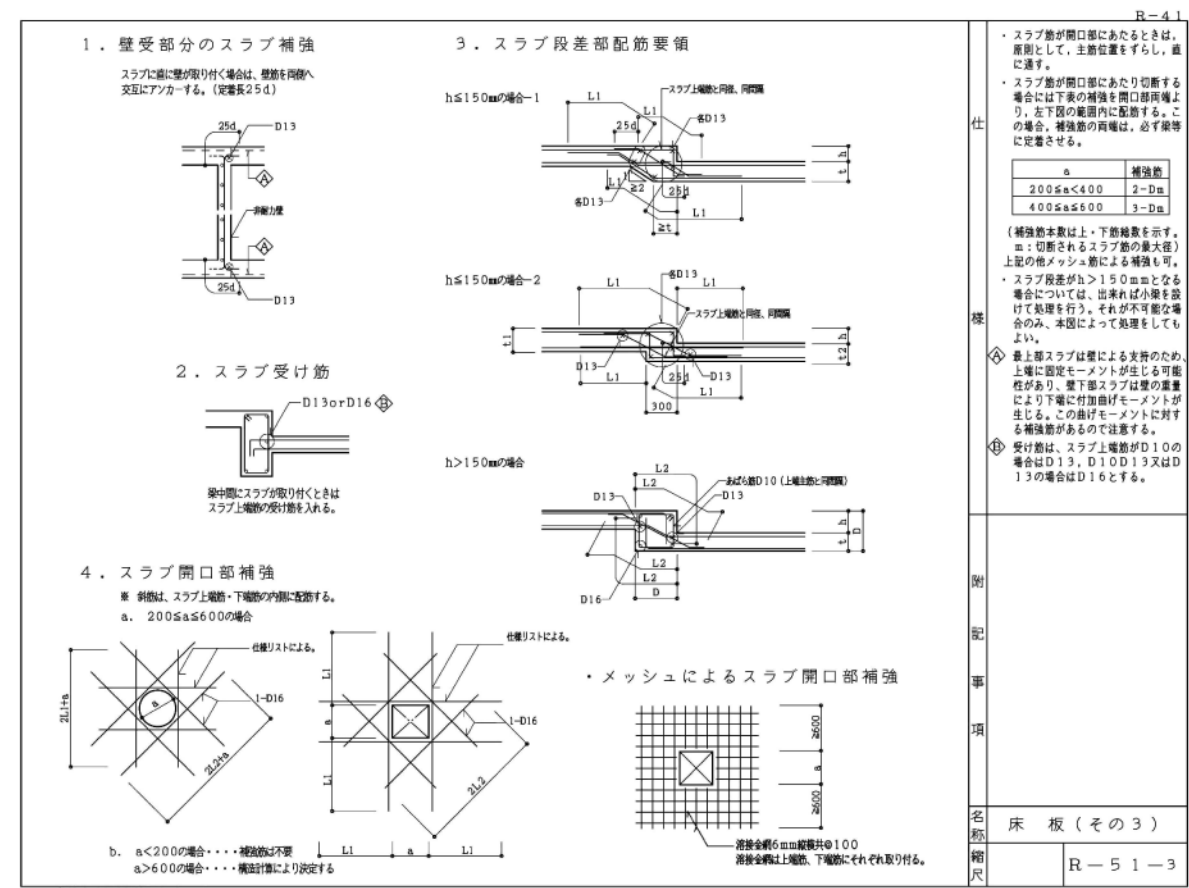
株式会社 丹羽英二建築事務所	上和田住宅建築工事(第1工区)		図面番号
一級建築士登録番号 第184619号 濱田 仁	鉄筋コンクリート構造 配筋基準図(6)	縮尺 A1: - A3: -	No. 7.2
検 査	製 図	設 計 平26年 3月	愛知県建設部建築局公営住宅課



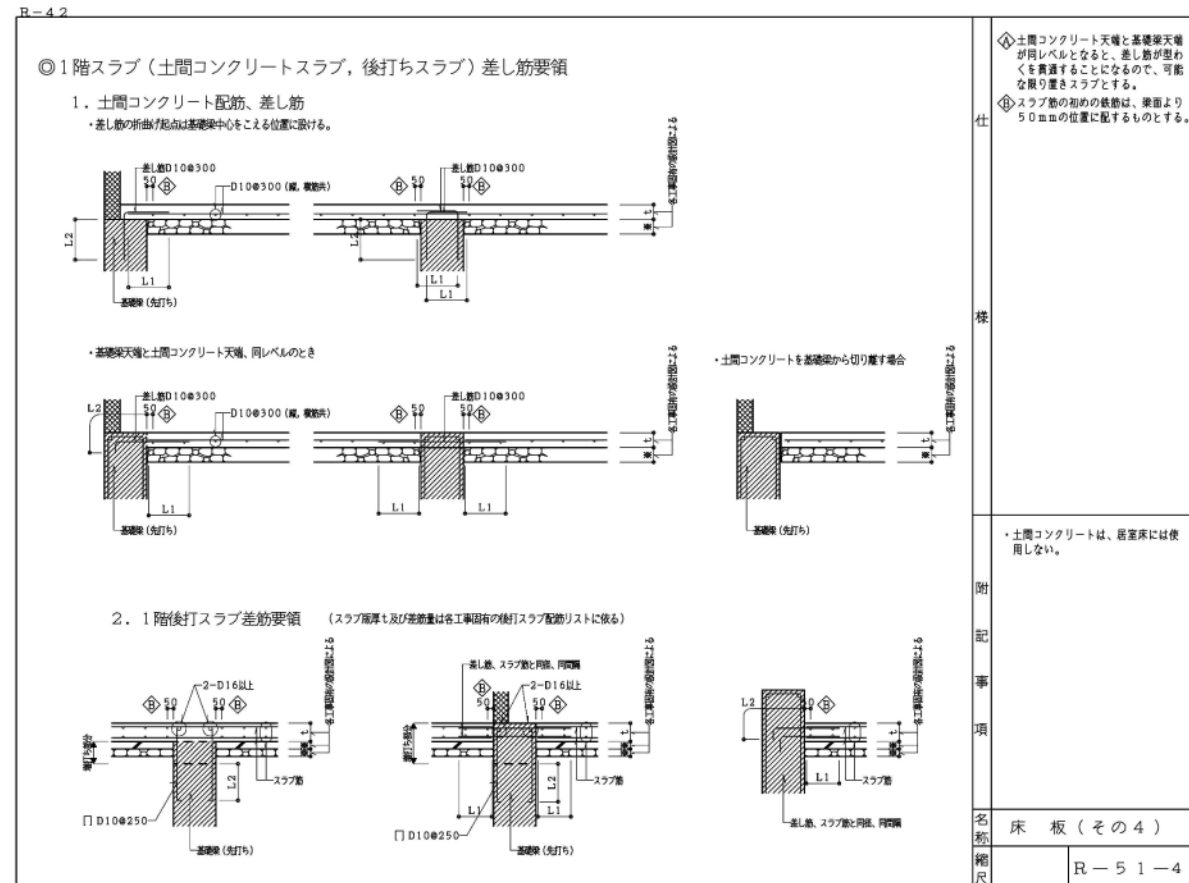
公共住宅標準詳細設計図集



公共住宅標準詳細設計図集

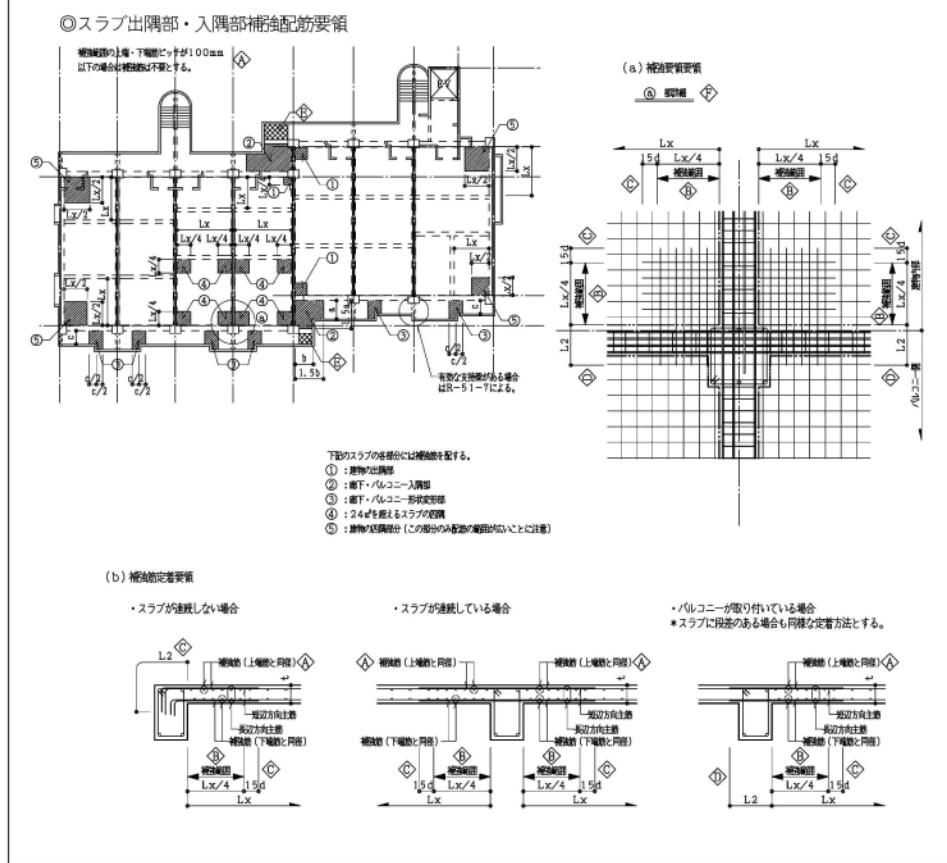


公共住宅標準詳細設計図集



公共住宅標準詳細設計図集

株式会社 丹羽英二建築事務所	上和田住宅建築工事(第1工区)	図面番号
一級建築士登録番号 第184619号 濱田 仁	鉄筋コンクリート構造 配筋基準図(7)	縮尺 A1: - A3: - No. 7.3
検図	製図	設計 平26年 3月
愛知県建設部建築局公営住宅課		



仕  
様  
事  
項

◆ 建築物の区画・スラブの出隅・入隅部・形状変更部は、長辺方向・短辺方向共に、スラブの上・下両面と同様の補強筋を各配筋と同レベルで追加する。ただし、設計時における配筋ヒッチが100mm以下の場合、補強筋は不要とする。

◆ 建築物の区画・スラブの出隅・入隅部・形状変更部の補強範囲内の補強筋は、上端筋・下端筋ともヒッチが100mm以下となるように配筋する。

◆ 補強筋の末端部はスラブ上端筋と同様の定着・余長をとる。

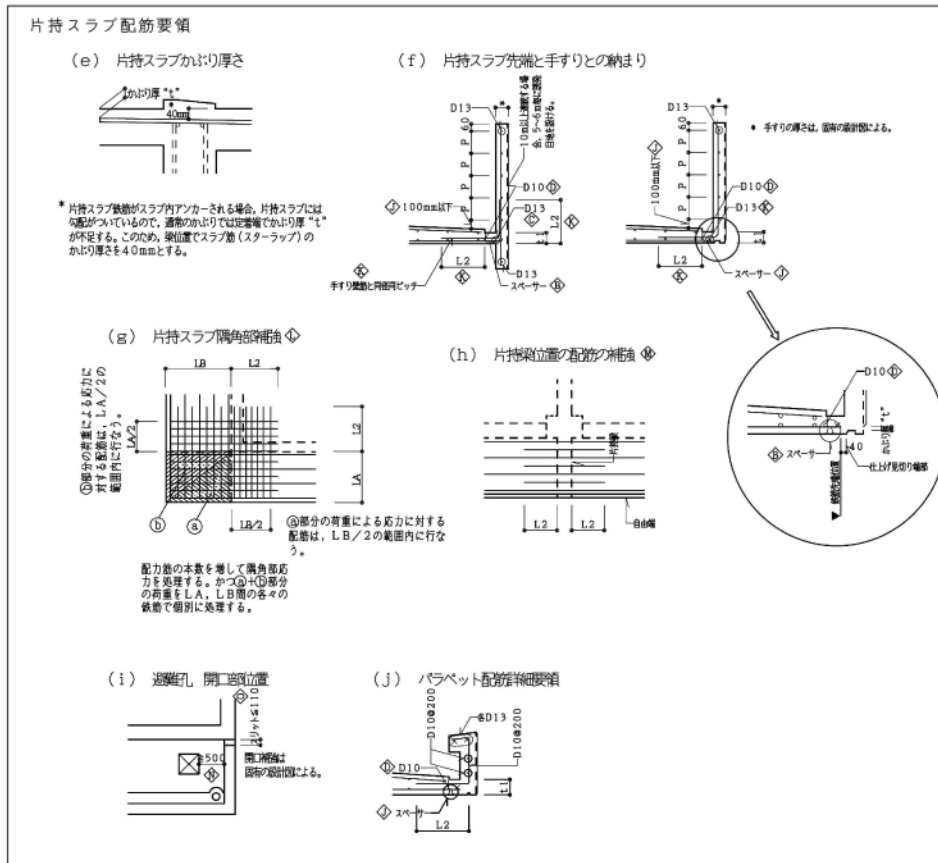
◆ バルコニーに段差がなく、隣接スラブ内に定着できる場合は、鉄筋を差込してもよい。

◆ バルコニー出隅部についてはR-51-7を参照のこと。

◆ R-51-3に示す開口補強筋と出隅部・形状変更部の補強筋が同一位置となる場合は、R-51-3の補強筋を優先して配筋を行う。

名称  
床板（その5）  
縮尺  
R-51-5

公共住宅標準詳細設計図集



仕  
様  
事  
項

◆ R-51-6による。

◆ 先端手すり壁の配筋はスラブの上・下100mm以内に第1層筋を配し、新行を行う。

◆ 手すり壁がスラブの上端のみの場合は手すり壁筋をスラブ内に2アツカ一する。垂れ壁がある場合は手すり壁の配筋を垂れ壁まで延長し、型補強筋を配する。

◆ 片持スラブ隅部は、斜め筋による補強は行わない。（補強筋を配すと6段配筋となるため）

◆ 片持梁位置には片持スラブ上端筋による補強を行う。補強筋は片持スラブ内にL/2定着すること。

◆ 遊樂具の開口は、手すり端部より500mm以上覆って設ける。

◆ 手すり壁が、柱及び壁に取り付く場合は手すり壁と柱及び壁の間にスリットを設ける。ただし、スリットを設けず手すり壁の柱及び壁に対する影響を考慮した設計を行う場合は、スリットを設けなくてもよい。

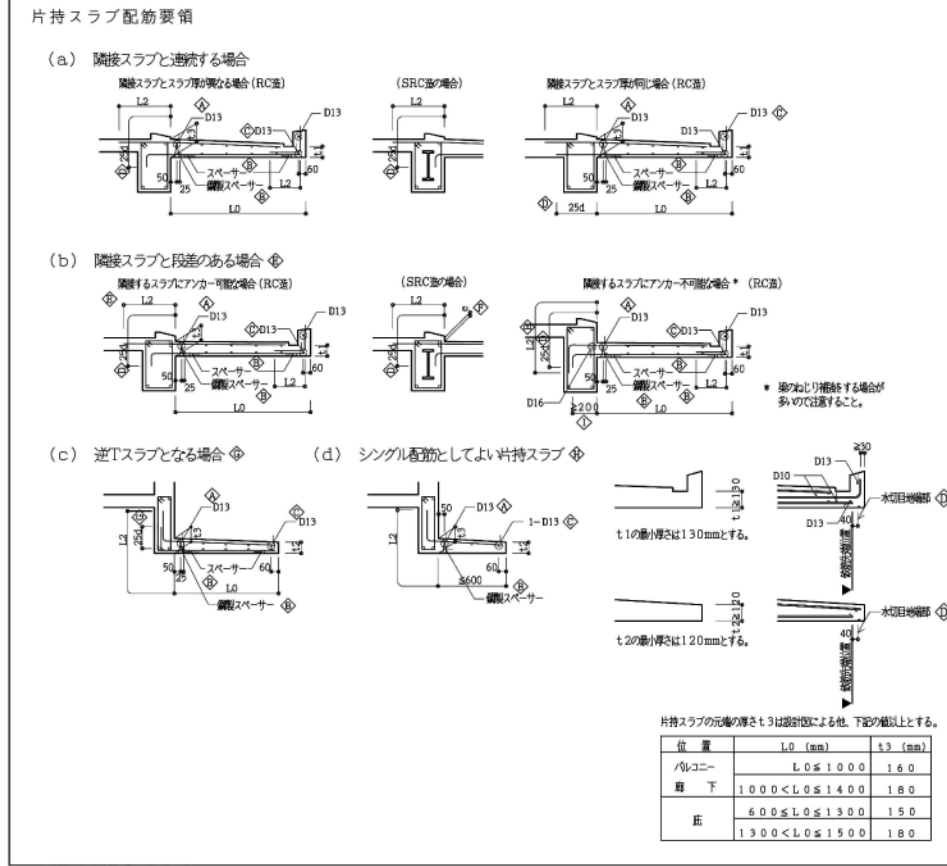
◆ 片持スラブの出寸法（L<sub>0</sub>）は、梁面からとする。また、L<sub>0</sub>が大きい場合、片持スラブの先端に集中荷重が作用する場合は、片持梁にて補強を行う。

◆ 片持スラブ厚さ、寸法、配筋は固有の設計図による。

◆ 本配筋設計図は、“ラーメン構造”及び“壁式構造”で共通に使用するものとする。

名称  
片持ちスラブ配筋要領（その2）  
縮尺  
R-51-7

公共住宅標準詳細設計図集



仕  
様  
事  
項

◆ 片持スラブの出寸法（L<sub>0</sub>）は、梁面からとする。また、L<sub>0</sub>が大きい場合、片持スラブの先端に集中荷重が作用する場合は、片持梁にて補強を行う。

◆ 片持スラブ厚さ、寸法、配筋は固有の設計図による。

◆ 本配筋設計図は、“ラーメン構造”及び“壁式構造”で共通に使用するものとする。

名称  
片持ちスラブ配筋要領（その1）  
縮尺  
R-51-6

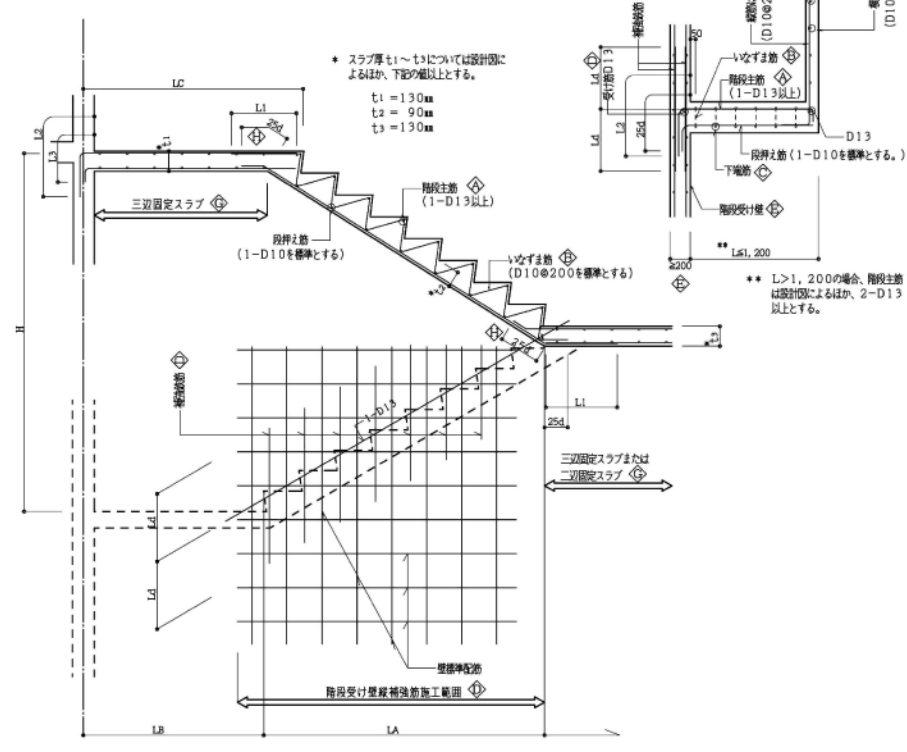
公共住宅標準詳細設計図集

株式会社 丹羽英二建築事務所	上和田住宅建築工事（第1工区）	図面番号
一級建築士登録番号 第184619号 濱田 仁	鉄筋コンクリート構造 配筋基準図（B）	縮尺 A1: - A3: - No. 7.4
検 図	製 図	設計 平26年 3月
愛知県建設部建築局公営住宅課		



R-4.6

階段配筋詳細図  
1) 片持階段の配筋 [住棟内]



- 階段主筋は設計図によるほか、1-D13以上とする。
- いかなる主筋はD10@200を標準とし、階段受け壁より50mmの位置に等しいいかなる主筋を配筋する。
- 下端筋はD10@200を標準とする。(ビッチはいかなる主筋と同じとし、いかなる筋の間に配筋する。)
- 片持階段受け壁に設ける段床の曲げ補強筋の有無、及びその定着長さsは設計図による。
- 階段受け壁の厚さは200mm以上とする。
- 屋外階段受け壁の配筋については、R-5-5-3を参照する。
- 階段手すりの配筋要領は片持スラブ先端の手すりの配筋要領(R-5-1-7)に準ずる。
- 覆り端のスラブは三辺固定スラブ、または二辺固定スラブとして計算した上でモザイク配筋を行うものとする。

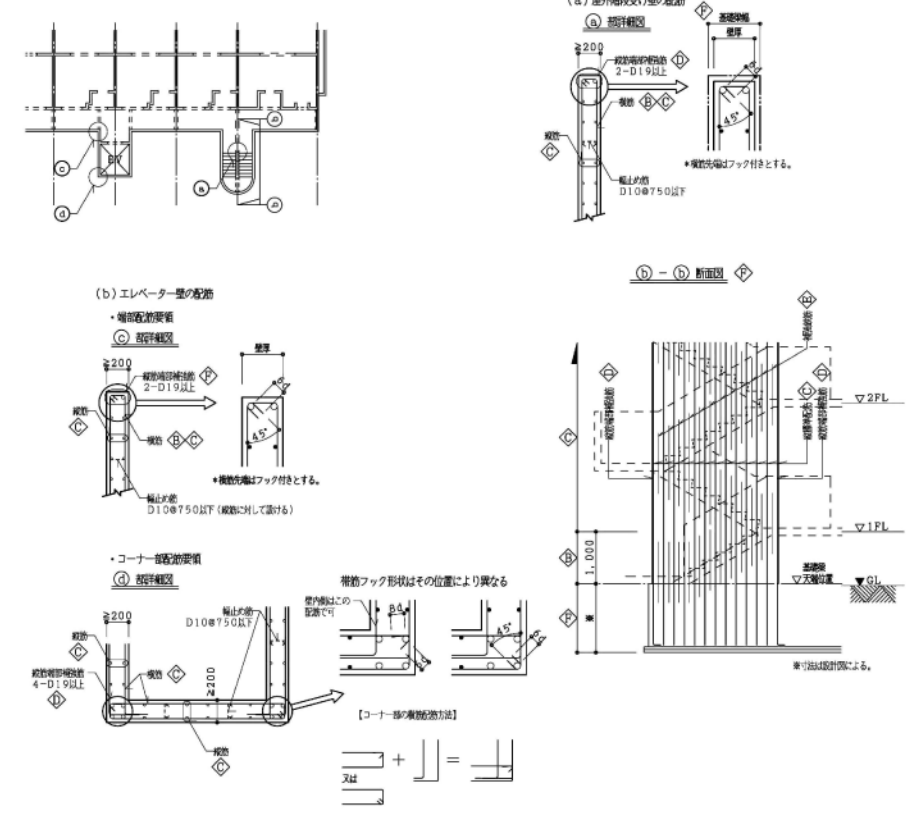
・L.A, L.B, L.C, Hは固有の設計図による。

名称 階段廻り(その1)  
縮尺 R-55-1

公共住宅標準詳細設計図集

R-4.8

3) 屋外階段及びエレベーター壁配筋要領



- 建物本体から突出する屋外階段の受壁及びエレベーター壁の厚さは配筋の外側に等形形式で配筋する。
- 受壁は、基礎梁天端から1m以内は径、ビッチ計算による他、D10@100以下となるように配筋する。
- 受壁・階段は、ビッチ計算による他、D10以上の鉄筋を@250以下となるように配筋する。
- 配筋端部補強筋は計算による他、壁端部は2-D19以上、コーナー部は4-D19以上の鉄筋を配筋する。
- 壁段の配筋詳細については、R-5-5-1を参照する。
- 配筋は基礎梁内で十分な拘束を行う。この時、基礎梁幅は壁厚以上とする。

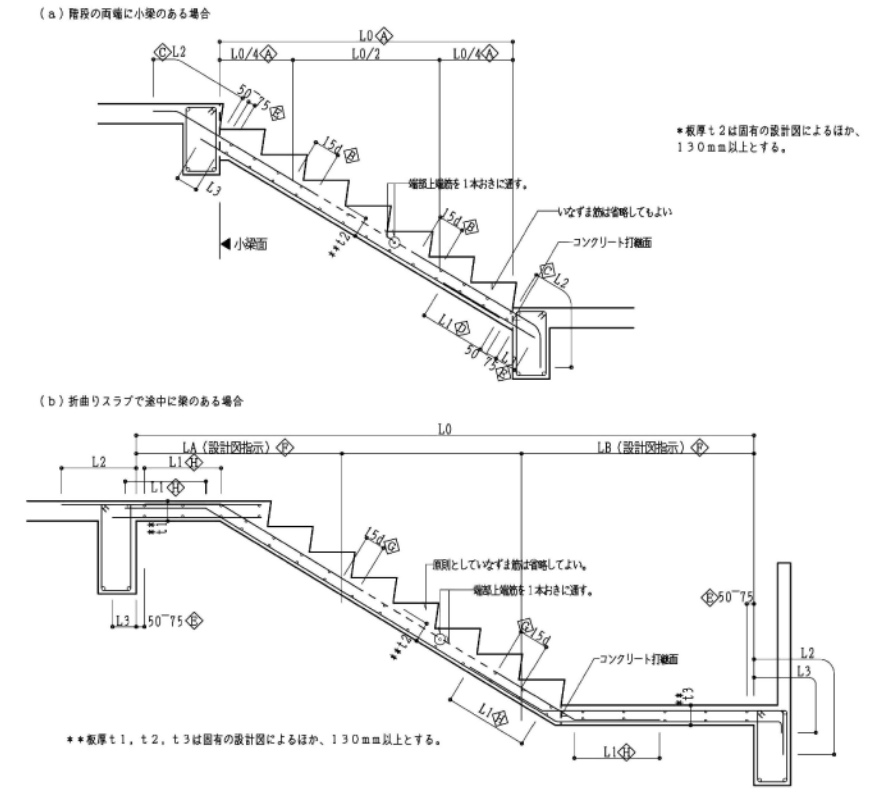
・段部の配筋(いかなる筋等)はR-3.5, R-5.5-1による。  
・本図は、「ラーメン構造」「壁式構造」にて共通とする。

名称 階段廻り(その3)  
縮尺 R-55-3

公共住宅標準詳細設計図集

R-4.7

2) スラブ階段の配筋



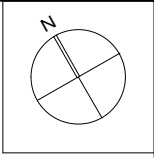
- 主筋の端部中央の区分は、階段内のりスパンL0の1/4の点とする。(通常のスラブと同様である。)
- 端部トップ筋の余長は、L0/4の点より15dとする。
- 端部上端筋は隣接するスラブ内、または壁に十分定着させること。定着長は1.2とする。
- 端部区分はL0/4の区間内とする。コンクリート打継面があるので注意すること。
- 配力筋の端部位置を示す。配力筋はこの位置から削り取る。
- 主筋の端部中央の区分は設計図によるものとする。
- 端部の上端筋の余長は区分より15dとする。
- 折角点において上端筋、下端筋とも継手長さL1をとって、各スラブ鉄筋と連続させる。

・段部の配筋(いかなる筋等)はR-3.5, R-5.5-1による。

名称 階段廻り(その2)  
縮尺 R-55-2

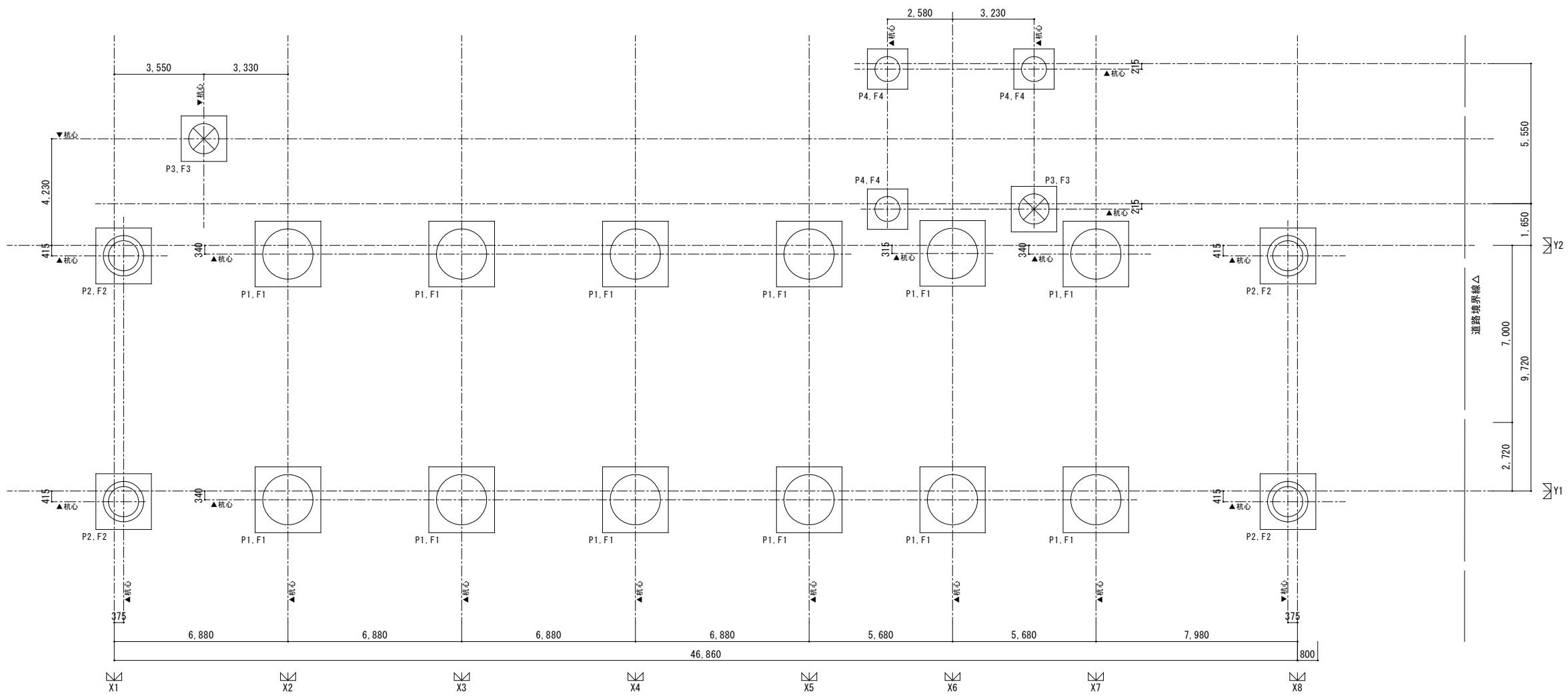
公共住宅標準詳細設計図集

株式会社 丹羽英二建築事務所	上和田住宅建築工事(第1 工区)		図面番号
一級建築士登録番号 第184619号 濱田 仁	鉄筋コンクリート構造 配筋基準図(9)	縮尺 A1: - A3: -	No. 7.5
検図	製図	設計 平成26年 3月	愛知県建設部建築局公営住宅課



使用材料と使用区分・材質等

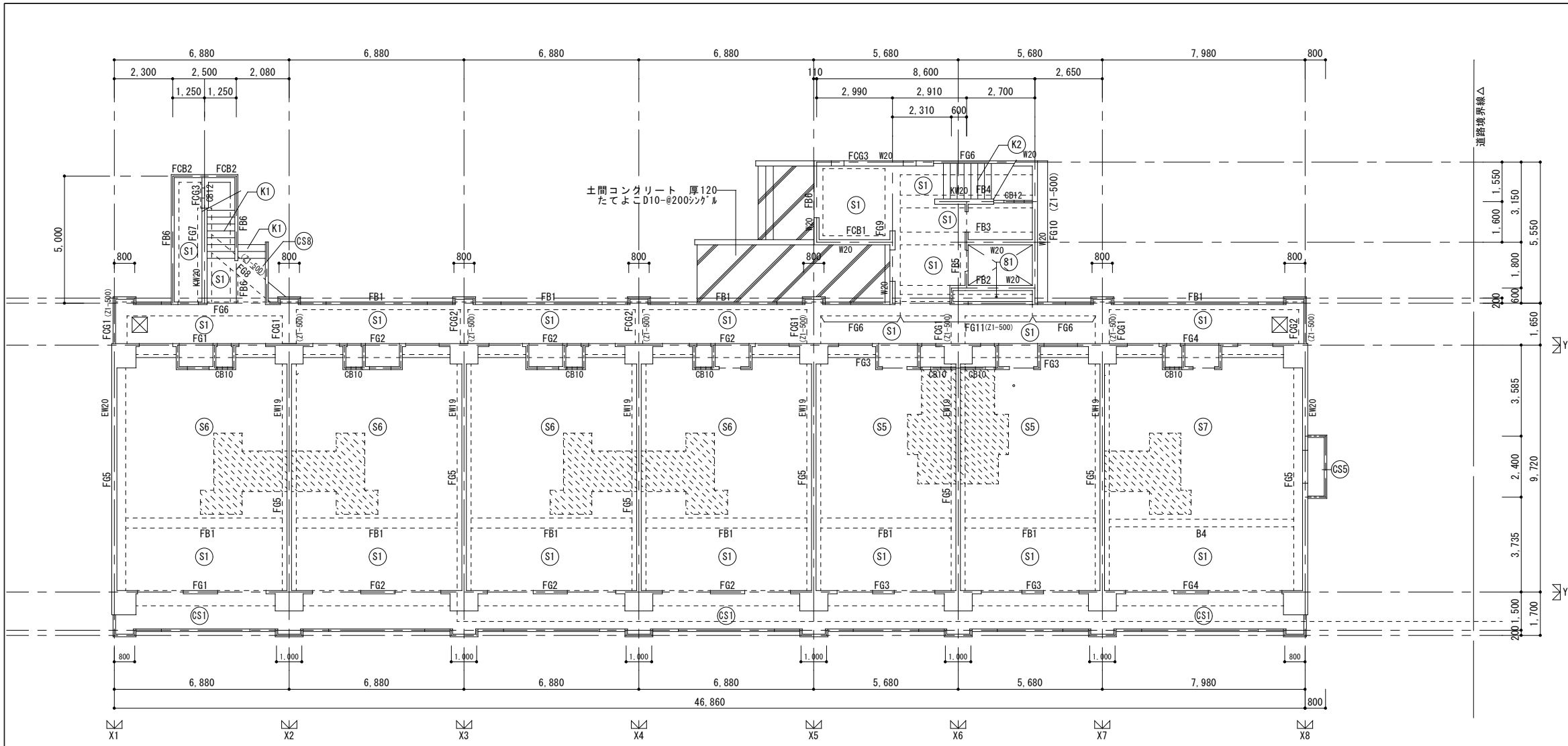
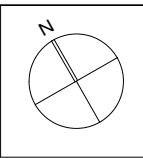
1. コンクリート
  - ・コンクリートの種類 — レディーミクストコンクリート (JIS A 5308)  
JIS表示認定工場で製造されたコンクリート
  - ・コンクリートの強度 — 設計基準強度
    - 基礎・地中梁～5SL  $F_c=27N/m^2$
    - 5SL～R階  $F_c=24N/m^2$
    - 土間コンクリート  $F_c=18N/m^2$
    - 捨てコンクリート  $F_c=18N/m^2$
  - スランプ 18cm以下
  - 水セメント比 50%以下
  - 単位水量  $185kg/m^3$ 以下
  - 空気量 4～6%
- ・セメント — 普通ポルトランドセメント (JIS R 5210)
2. 鉄筋
  - ・鉄筋コンクリート用棒鋼 — SD295A (D10～D16) JIS G 3112  
SD345 (D19～D25) JIS G 3112  
SD390 (D29～D35) JIS G 3112
  - ・高強度せん断補強筋 — KSS785
3. 杭
  - ・場所打ちコンクリート杭 — 全周回転式オールケーシング工法



共 通 事 項	
特記なき限り下記による	
・基礎下端	Z0-2200
・杭天端	Z0-2100 杭長：15m
・Z0 = T P 1 3 . 6 8	

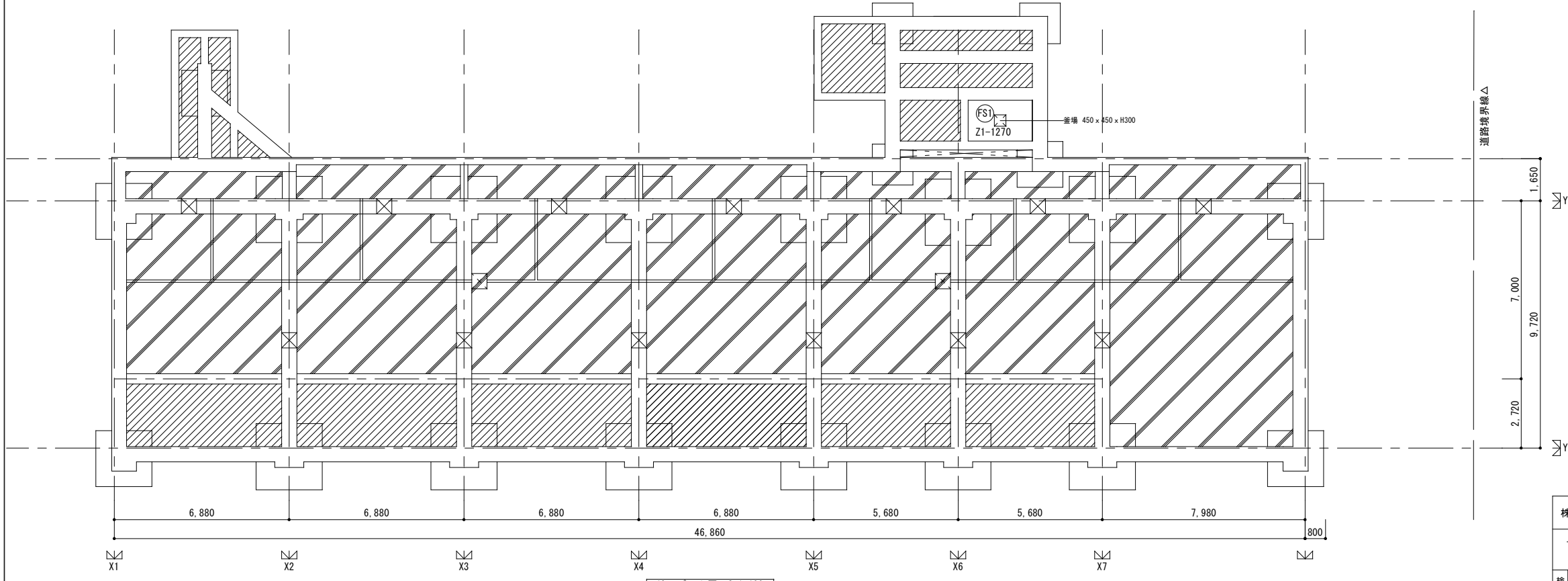
杭・基礎伏図 S=1:100

株式会社 丹羽英二建築事務所		上和田住宅建築工事(第1工区)		図面番号
一級建築士登録番号 第184619号 濱田 仁		杭・基礎伏図	縮尺 A1: 1/100 A3: 1/200	No. 7 6
検 図	製 図	設 計 平成26年3月	愛知県建設部建築局公営住宅課	



地中梁伏図 S=1:100

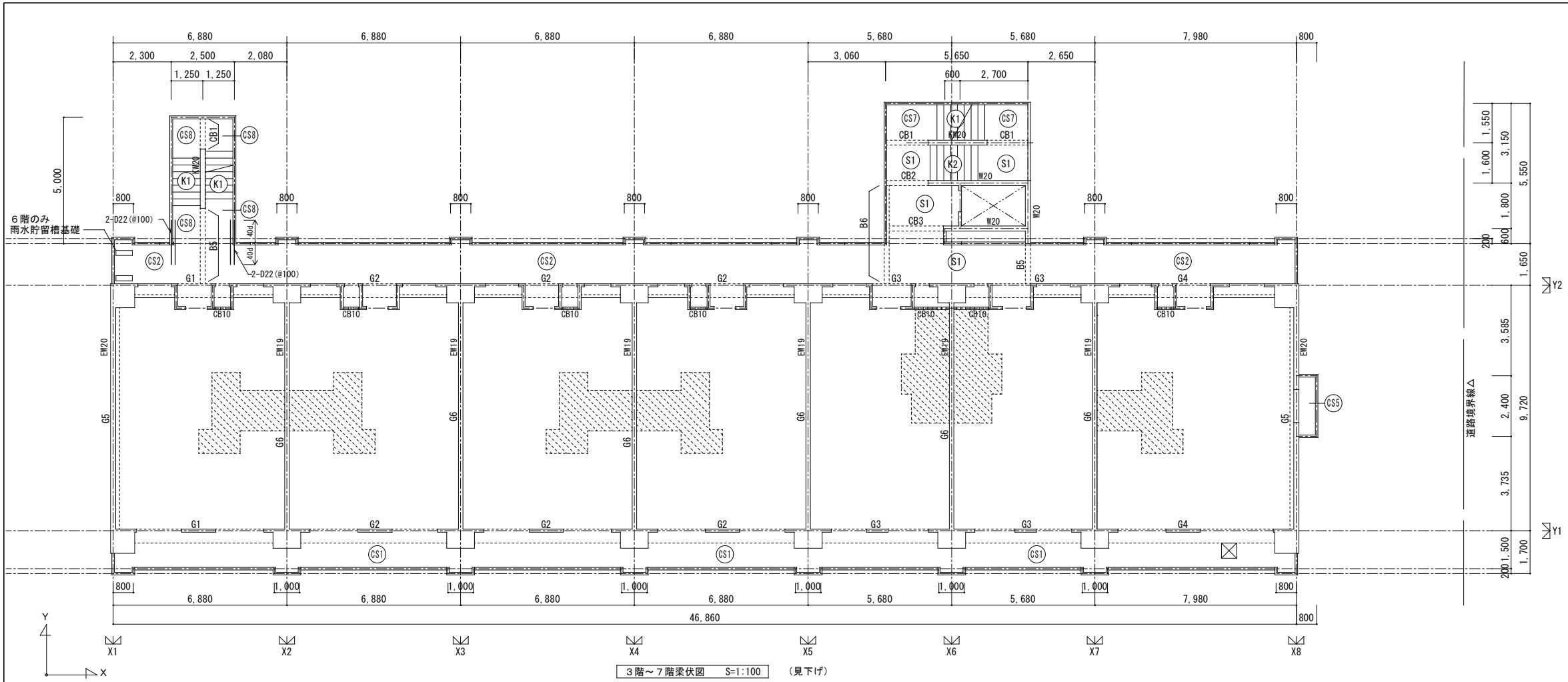
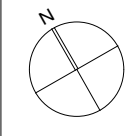
- 共通事項
- 特記なき限り下記による
- ・壁は W12 とする。
  - ・地中梁天端 Z1-200
  - ・スラブ天端 Z1±0
  - ・スラブ天端 Z1-100
  - ・土間コンクリート 厚120 たてよこ D10-@200ｼﾝｸﾞﾙ



地下ビット図 S=1:100

- 共通事項
- 特記なき限り下記による
- ・人通孔 600φを示す。
  - ・釜場 600×600×H600を示す。
  - ・ビットスラブ天端 Z0-1030
  - ・土間コンクリート 厚120 たてよこ D10-@200ｼﾝｸﾞﾙ
  - ・埋め戻し部分を示す。

株式会社 丹羽英二建築事務所	上和田住宅建築工事(第1工区)	図面番号
一級建築士登録番号 第184619号	地下ビット・地中梁伏図	縮尺 A1: 1/100 A3: 1/200
演田 仁		No. 7 7
設計 平成26年3月	愛知県建設部建築局公営住宅課	

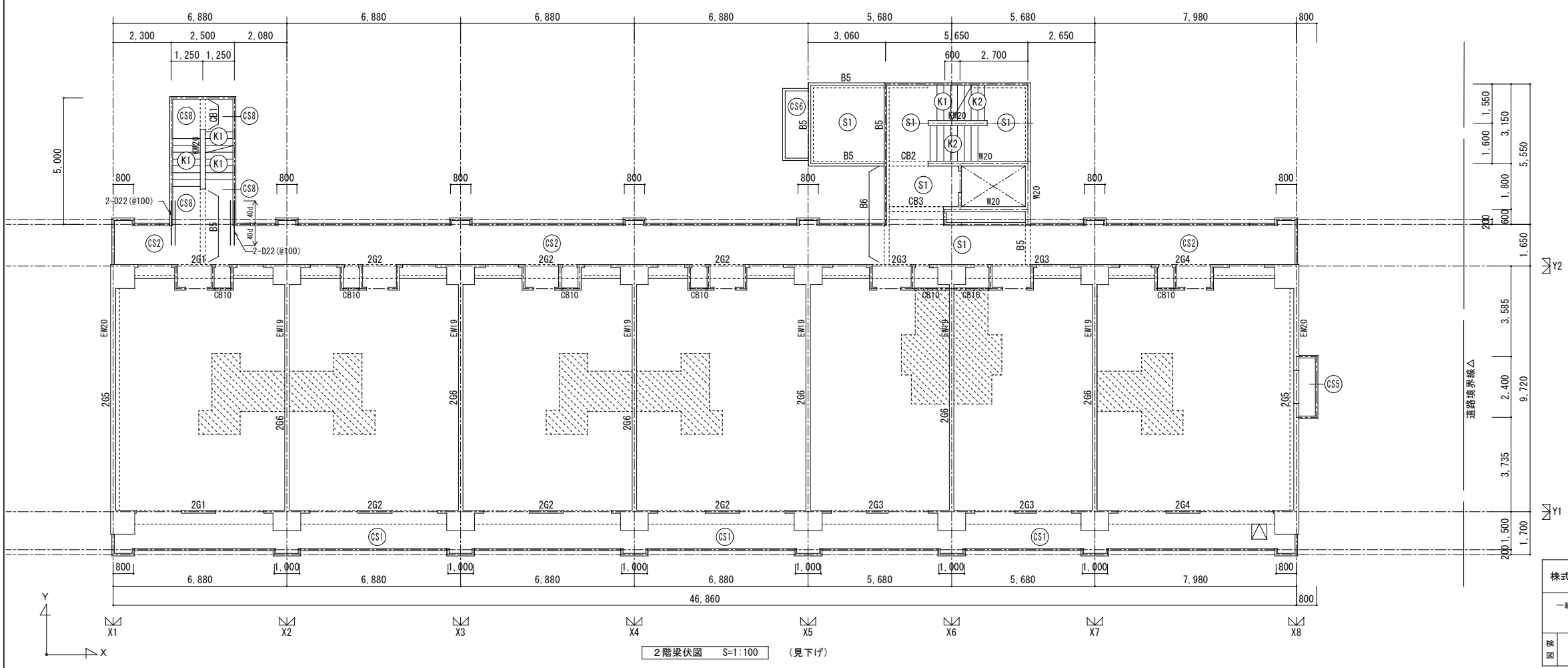


3階～7階梁伏図 S=1:100 (見下げ)

共通事項

特記なき限り下記による

- ・壁は W12 とする。
- ・梁・スラブ天端 Z3～Z7±0
- ・スラブ天端 Z3～Z7-100



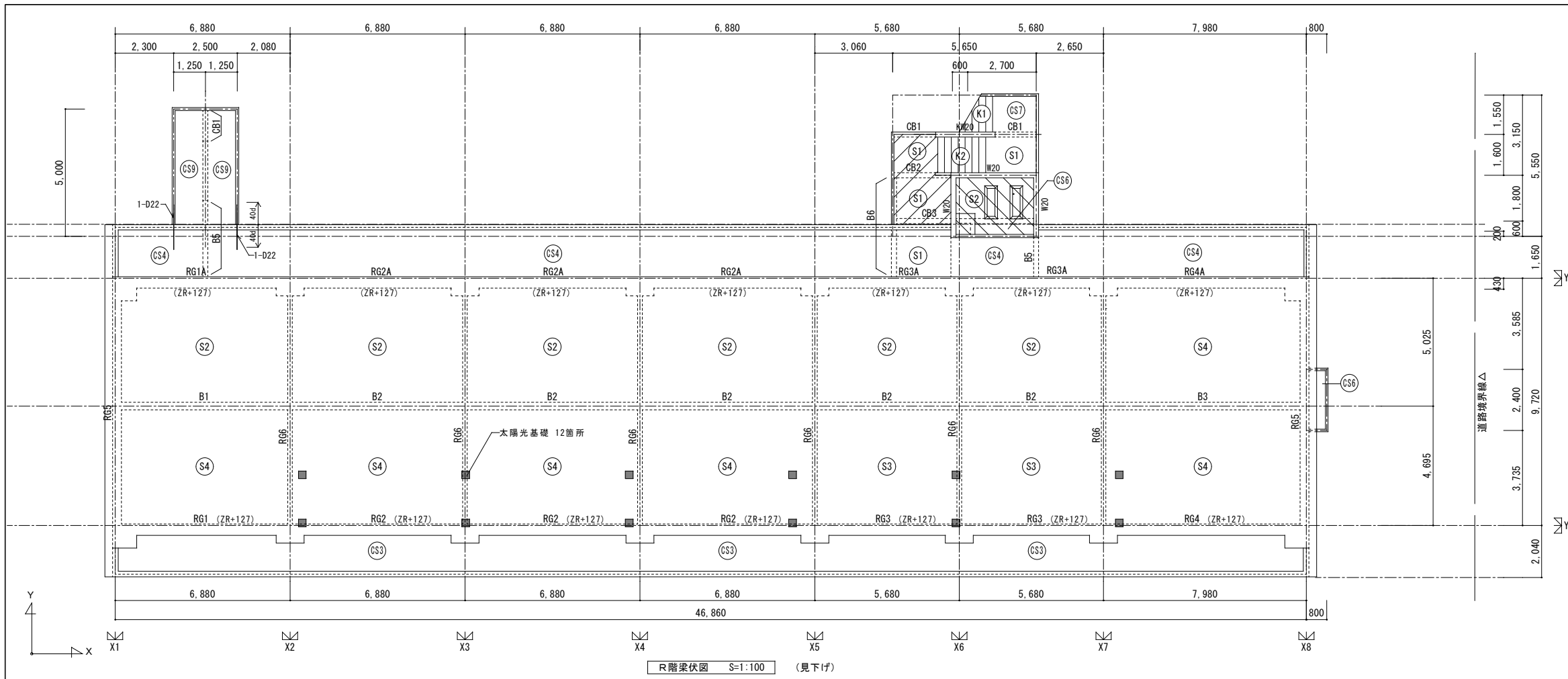
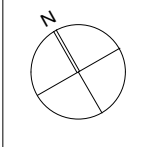
2階梁伏図 S=1:100 (見下げ)

共通事項

特記なき限り下記による

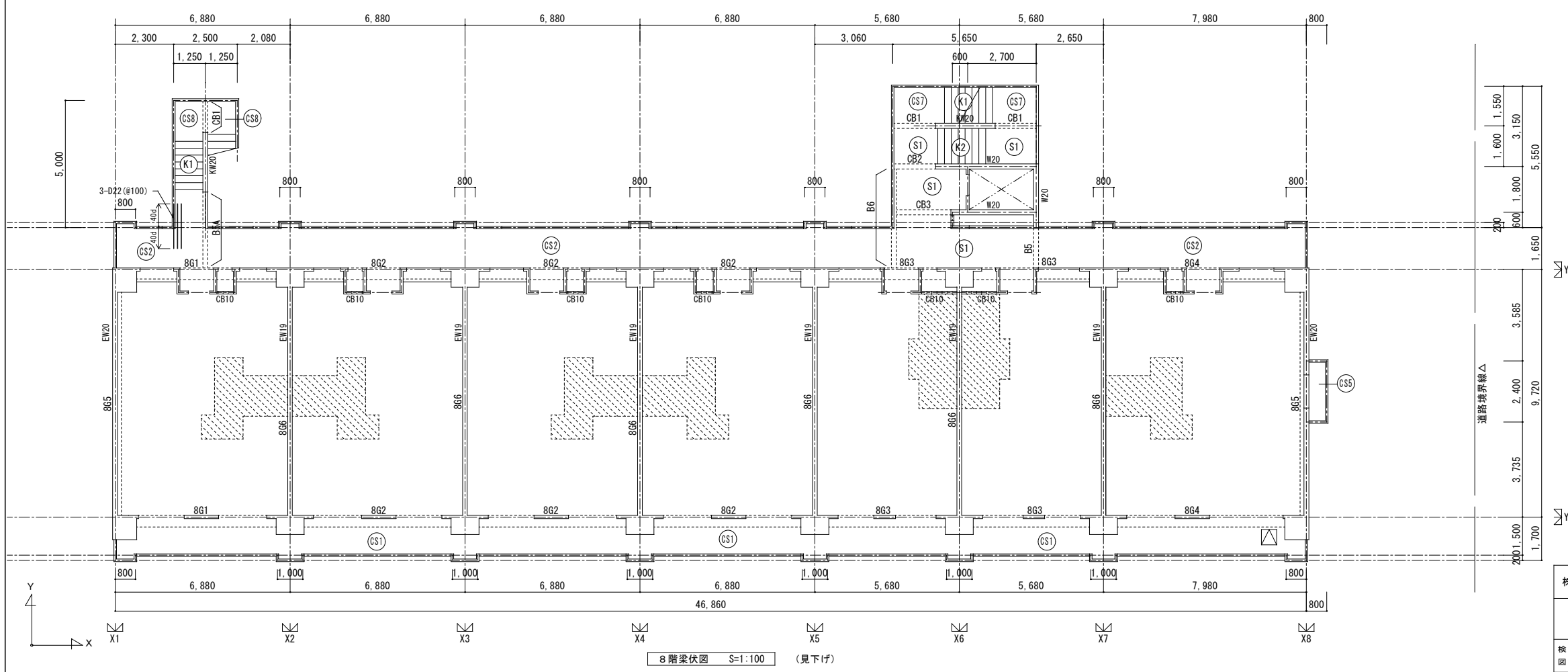
- ・壁は W12 とする。
- ・梁・スラブ天端 Z2±0
- ・スラブ天端 Z2-100

株式会社 丹羽英二建築事務所		上和田住宅建築工事(第1 工区)		図面番号
一級建築士登録番号 第184619号		2階・3～7階梁伏図		No. 7 8
濱田 仁		縮尺 A1: 1/100 A3: 1/200		
検図	製図	設計 平成26年3月	愛知県建設部建築局公営住宅課	



R階梁伏図 S=1:100 (見下げ)

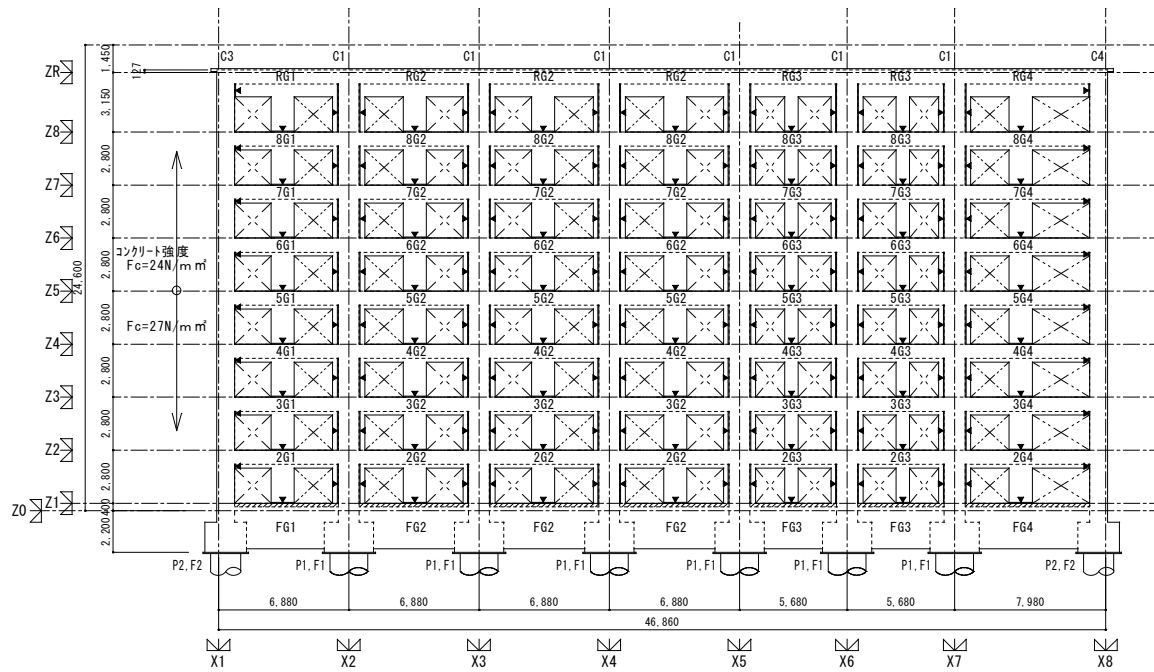
共通事項	
特記なき限り下記による	
・壁は W12 とする。	
・梁天端・スラブ天端は屋根勾配による。	
	スラブ天端 ZR-100
	スラブ・梁天端 ZR-350



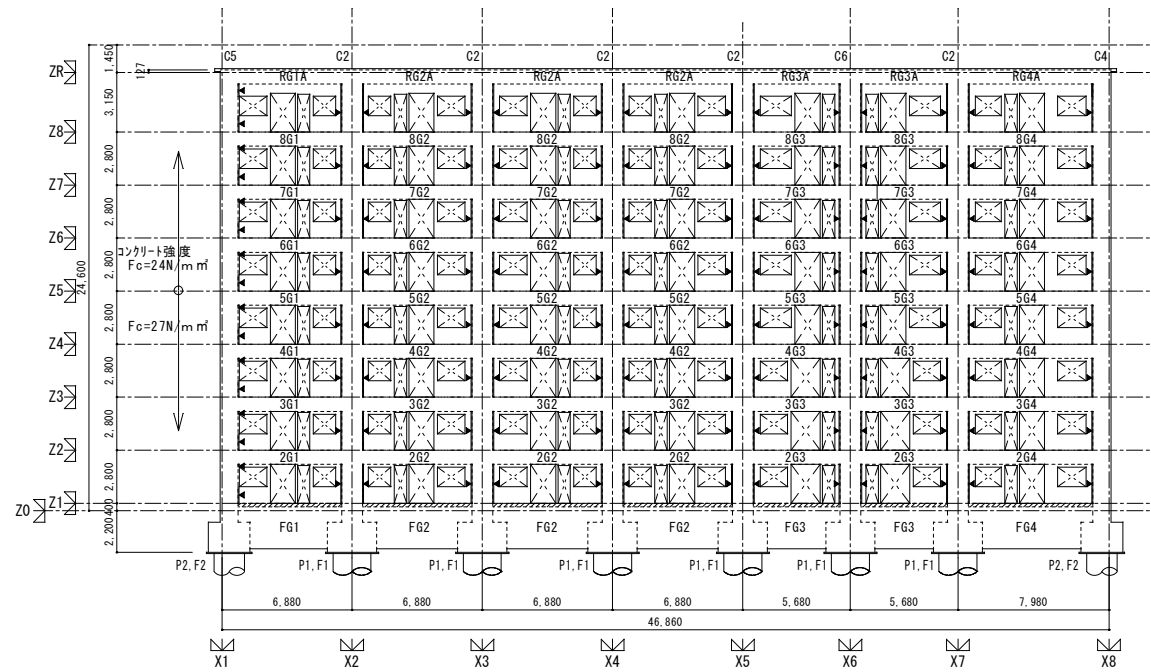
8階梁伏図 S=1:100 (見下げ)

共通事項	
特記なき限り下記による	
・壁は W12 とする。	
・梁・スラブ天端 ZR±0	
	スラブ天端 ZR-100

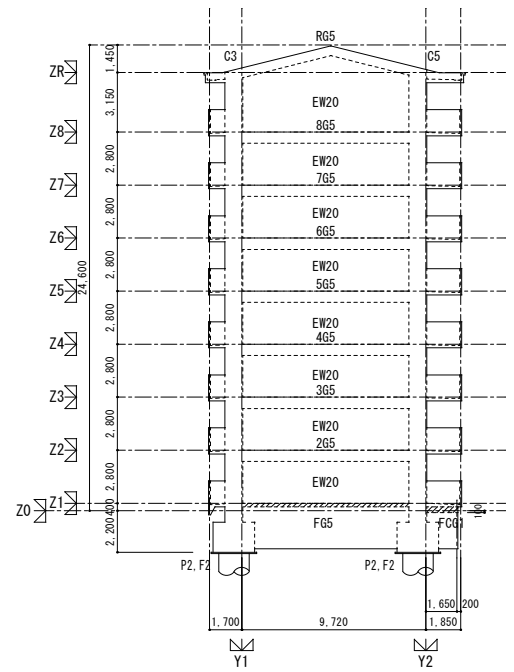
株式会社 丹羽英二建築事務所	上和田住宅建築工事(第1工区)	図面番号
一級建築士登録番号 第184619号	8階・R階梁伏図	縮尺
濱田 仁		A1: 1/100 A3: 1/200
No. 79		
検図	製図	設計
		平成26年3月
愛知県建設部建築局公営住宅課		



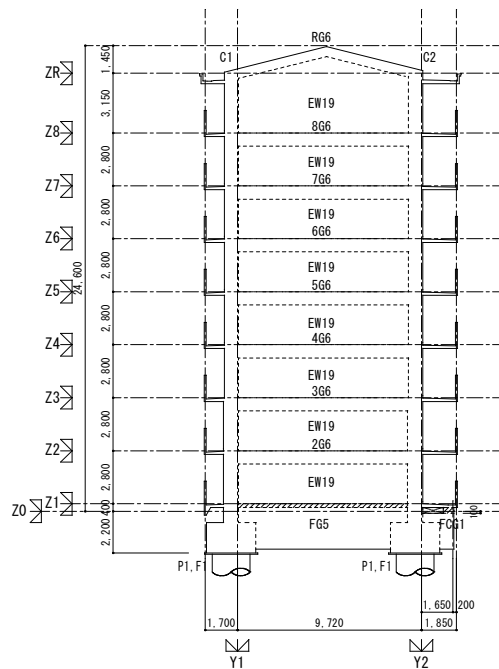
Y 1 通り軸組図 S=1:200



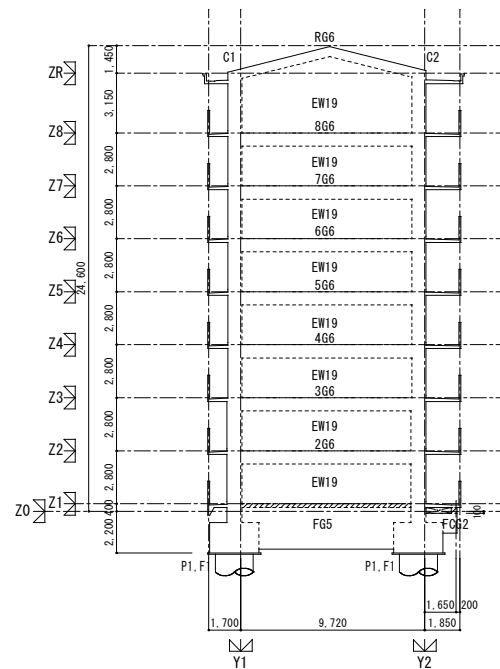
Y 2 通り軸組図 S=1:200



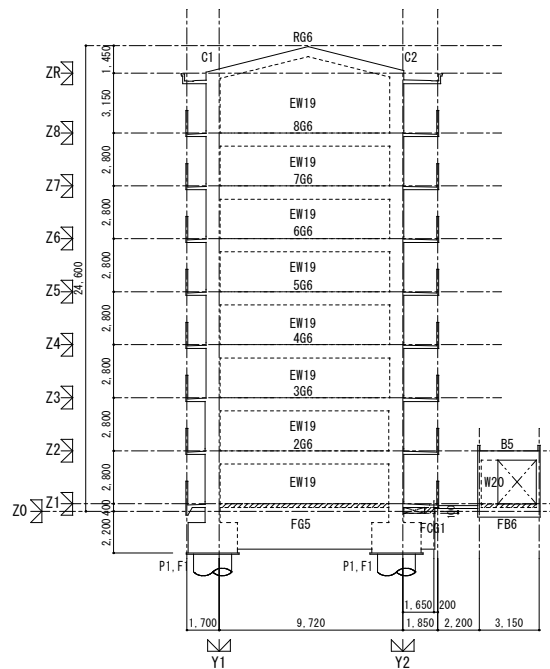
X 1 通り軸組図 S=1:200



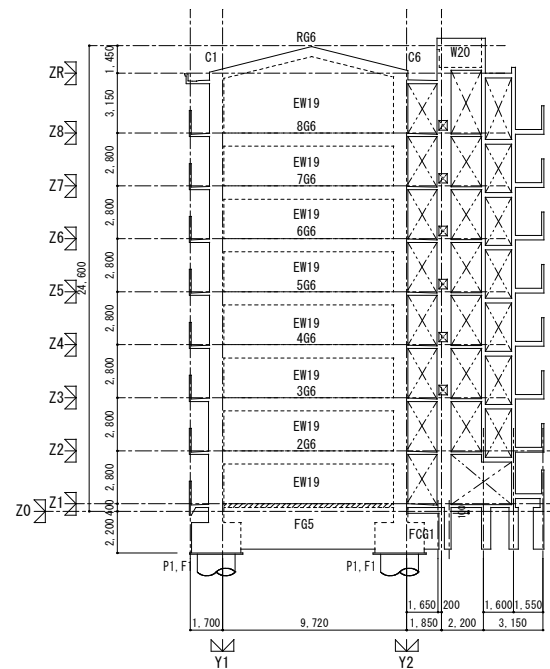
X 2・7 通り軸組図 S=1:200



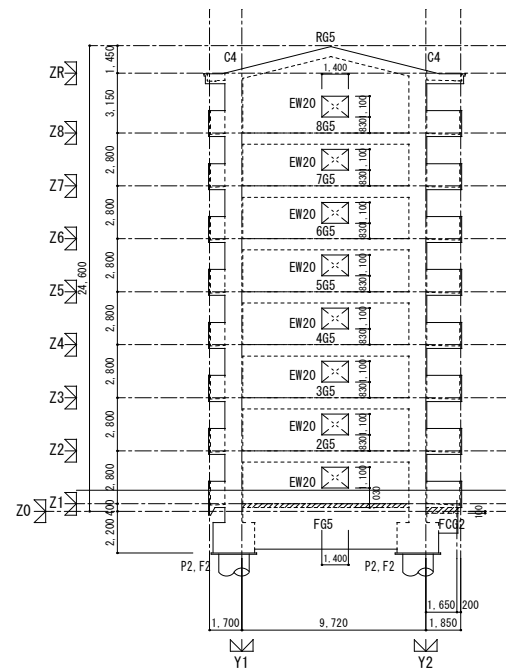
X 3・4 通り軸組図 S=1:200



X 5 通り軸組図 S=1:200



X 6 通り軸組図 S=1:200



X 8 通り軸組図 S=1:200

共通事項

- 特記なき限り下記による
- ・壁は W12 とする。
- ・地中梁天端 Z1-200
- ・2～8階梁天端 Z2～8±0
- ・◀ 構造スリットを示す。
- ・▨ 増打ち部を示す。

株式会社 丹羽英二建築事務所	上和田住宅建築工事(第1工区)	図面番号
一級建築士登録番号 第184619号	軸組図	縮尺 A1: 1/100 A3: 1/200
濱田 仁		No. 80
校図	製図	設計 平成26年3月
愛知県建設部建築局公営住宅課		

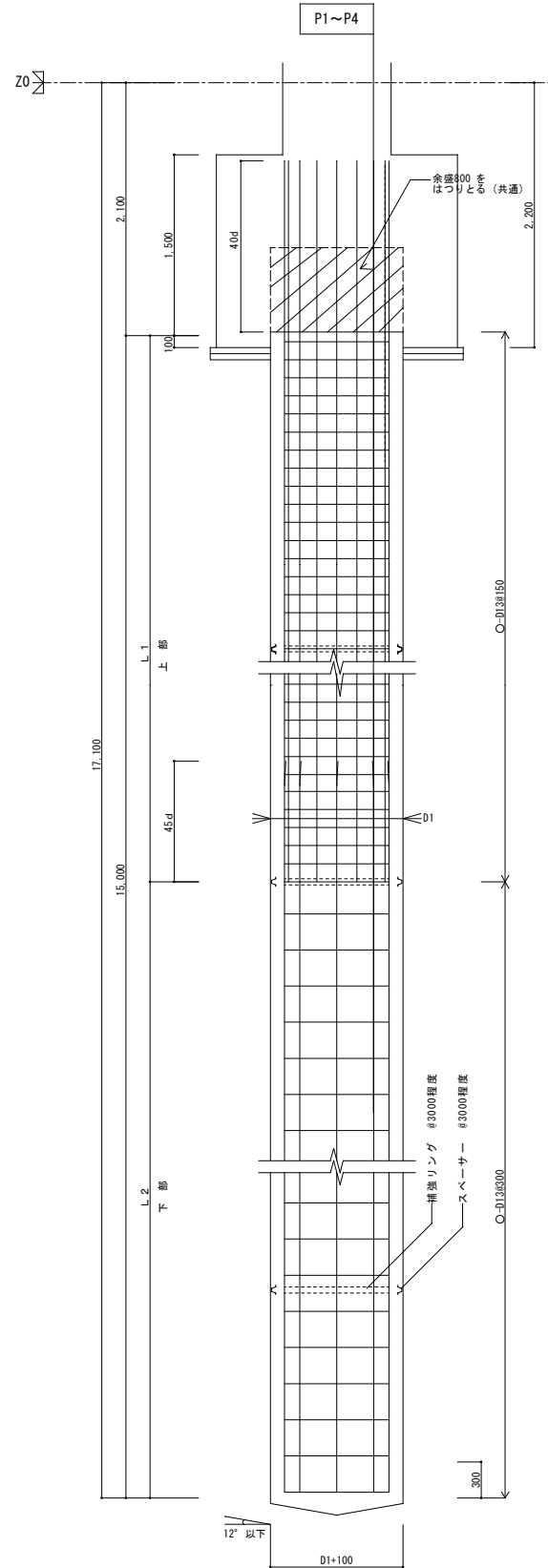
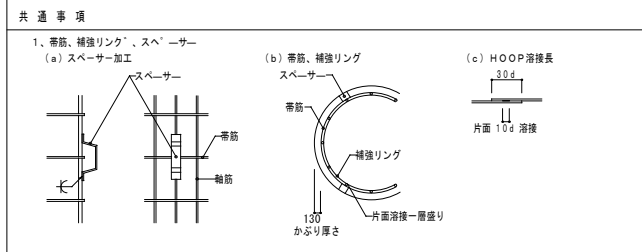
場所打ちコンクリート杭地業特記仕様書(全周回転式オールケーシング工法)

1. 着工前に施工計画を提出し監督員の承認を得ること。
2. 全周回転式オールケーシング工法に依る場所打ちコンクリート杭とする。
3. コンクリート設計基準強度は  $F_c = 30\text{N}/\text{mm}^2$  とする。  
鉄筋はD29以上SD390、D25~D19はSD345  
D16以下SD295Aとする。
4. コンクリートの所要スランプは18cm 水セメント比60%以下とし、温度補正は原則として行わない。  
単位セメント量  $340\text{kg}/\text{m}^3$  以上
5. 鉄筋のかぶり厚は100mm以上とする。
6. 主筋の重ね継手長さは、45d以上とし、3ヶ所以上を10の鉄線にて結束する。
7. 補強リングは主筋の交点に溶接する。
8. HOOPは円形加工し、重ね継手を溶接する。溶接長さは片面の場合10d以上、両面の場合5d以上とする。  
HOOPの主筋との交点は千鳥状に点溶接を行う。
9. スペース (D16、L=400)は、同一深さ位置に4ヶ所以上取付ける。  
ピッチは杭長方向 $\phi 3.000$ 以下とする。
10. コンクリートの打込み余盛りは800mm以上とし、はつりとる。
11. コンクリートの打込み余盛りに先立ちスライムの除去を行ない杭体に対して有害なスライムが無いことを確認する。
12. コンクリート杭については、日本建築学会「場所打ちコンクリート杭のコンクリートに関連する施工指針、同解説」による。
13. 施工精度としては、平面方向の精度 100mm以内、傾斜方向の精度は  $1/100$  以内、径の精度は設計図の寸法より大きいこと。
14. 施工は、日本基礎建設協会会員と同等以上の業者による。

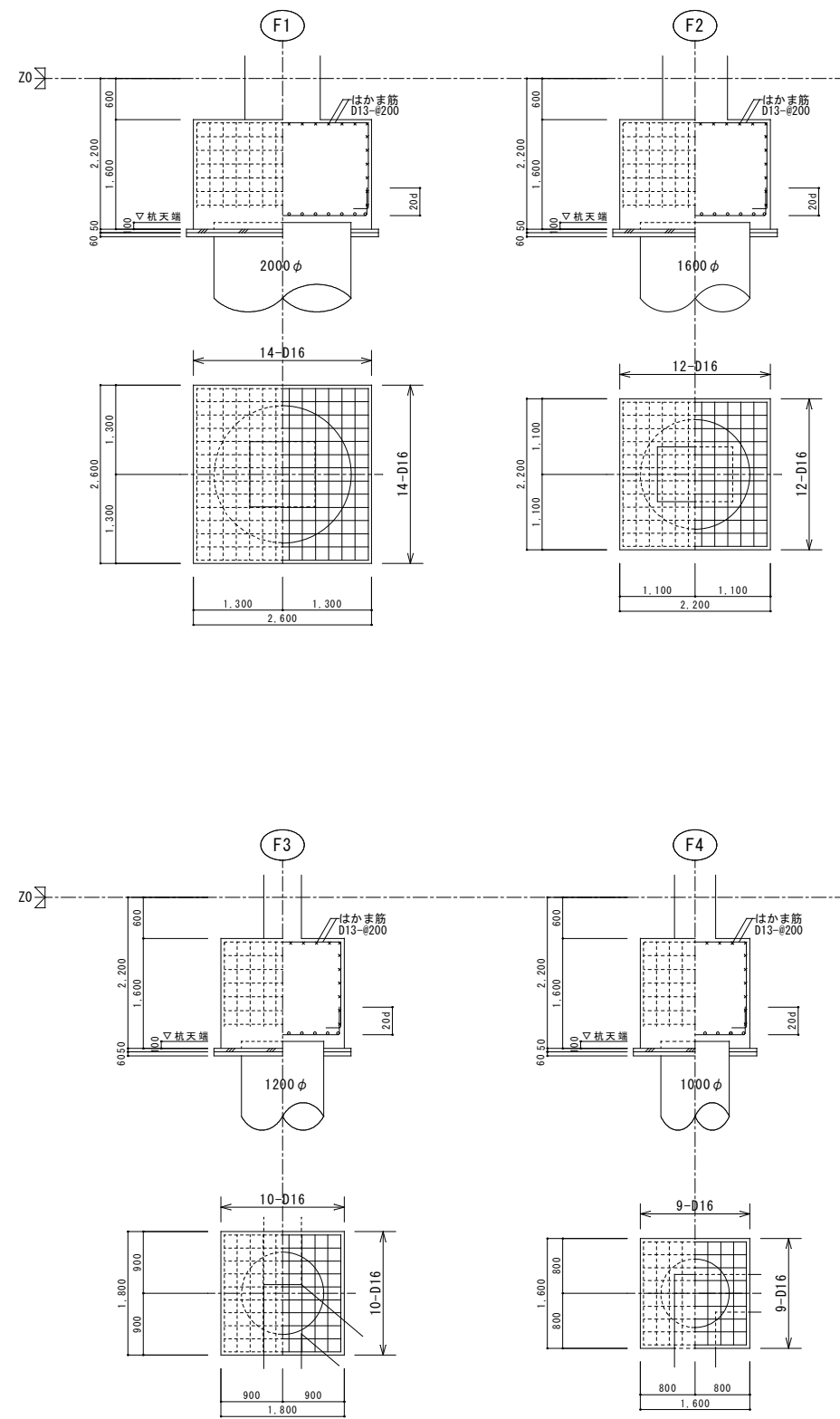
項目	補強リングの材質・サイズ
杭の軸径が1.5m以下の場合	鋼板 SS400 6.0×5.0 (mm)
杭の軸径が1.5mを超える場合	鋼板 SS400 9.0×7.5 (mm)

杭リスト S=1:50

符号	P1	P2	P3	P4	
杭天端	Z0 -2100	Z0 -2100	Z0 -2100	Z0 -2100	
杭実長L	15.0m	15.0m	15.0m	15.0m	
上部	断面				
	L1	10.0m	8.0m	6.0m	5.0m
	軸部径 D1	2000φ	1600φ	1200φ	1000φ
	主筋	32-D35	28-D35	18-D35	14-D35
	HOOP	○-D13φ150	○-D13φ150	○-D13φ150	○-D13φ150
下部	断面				
	L2	5.0m	7.0m	9.0m	10.0m
	先端径 D2	2000φ	1600φ	1200φ	1000φ
	主筋	16-D32	14-D32	9-D32	7-D32
	HOOP	○-D13φ300	○-D13φ300	○-D13φ300	○-D13φ300
杭耐力	長期	Ra=7,060kN/本	Ra=4,890kN/本	Ra=2,820kN/本	Ra=1,960kN/本
	短期	Ras=14,130kN/本	Ras=9,790kN/本	Ras=5,650kN/本	Ras=3,920kN/本
杭本数	12本	4本	2本	3本	
基礎	F1	F2	F3	F4	



基礎リスト S=1:50



株式会社 丹羽英二建築事務所		上和田住宅建築工事(第1工区)		図面番号
一級建築士登録番号 第184619号 演田 仁		杭・基礎リスト		縮尺 A1: 1/50 A3: 1/100 No. 8 1
検	製	設	愛知県建設部建築局公営住宅課	
		計	平成26年3月	

柱リスト S=1:50 ・HOOPはスパイラル筋とする。 ・Sは高強度せん断補強筋 KSS785を示す。

階	符号	C1	C2	C3	C4	C5	C6
仕口HOOP		□-D13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100
8階							
b x D		1100 x 750	1100 x 750	950 x 950	950 x 950	950 x 950	1100 x 750
主筋		10-D25・8-D16	10-D25・8-D16	12-D25・8-D16	12-D25・8-D16	12-D25・8-D16	10-D25・8-D16
HOOP		□-D13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100
仕口HOOP		□-D13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100
7階							
b x D		1100 x 750	1100 x 750	950 x 950	950 x 950	950 x 950	1100 x 750
主筋		10-D25・8-D16	10-D25・8-D16	12-D25・8-D16	12-D25・8-D16	12-D25・8-D16	10-D25・8-D16
HOOP		□-D13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100
仕口HOOP		□-D13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100
6階							
b x D		1100 x 750	1100 x 750	950 x 950	950 x 950	950 x 950	1100 x 750
主筋		10-D25・8-D16	10-D25・8-D16	12-D25・8-D16	12-D25・8-D16	12-D25・8-D16	10-D25・8-D16
HOOP		□-D13-#100	□-D13-#80	□-D13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100	□-D13-#80
仕口HOOP		□-D13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100
5階							
b x D		1100 x 750	1100 x 750	950 x 950	950 x 950	950 x 950	1100 x 750
主筋		12-D25・8-D16	12-D25・8-D16	12-D25・8-D16	12-D25・8-D16	12-D25・8-D16	12-D25・8-D16
HOOP		□-D13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100
仕口HOOP		□-S13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100
4階							
b x D		1100 x 750	1100 x 750	950 x 950	950 x 950	950 x 950	1100 x 750
主筋		14-D25・8-D16	12-D25・8-D16	12-D25・8-D16	12-D25・8-D16	12-D25・8-D16	12-D25・8-D16
HOOP		□-S13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100
仕口HOOP		□-S13-#100	□-S13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100	□-S13-#100
3階							
b x D		1100 x 750	1100 x 750	950 x 950	950 x 950	950 x 950	1100 x 750
主筋		14-D25・8-D16	14-D25・8-D16	12-D25・8-D16	12-D25・8-D16	12-D25・8-D16	14-D25・8-D16
HOOP		□-S13-#100	□-S13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100	□-S13-#100
仕口HOOP		□-S13-#100	□-S13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100	□-S13-#100
2階							
b x D		1100 x 800	1100 x 800	950 x 950	950 x 950	950 x 950	1100 x 750
主筋		16-D25・8-D16	14-D25・8-D16	12-D25・8-D16	12-D25・8-D16	12-D25・8-D16	14-D25・8-D16
HOOP		□-S13-#100	□-S13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100	□-S13-#100
仕口HOOP		□-S13-#100	□-S13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100	□-S13-#100
1階							
b x D		1100 x 800	1100 x 800	950 x 950	950 x 950	950 x 950	1100 x 750
主筋		16-D25・8-D16	16-D25・8-D16	14-D25・8-D16	12-D25・8-D16	14-D25・8-D16	16-D25・8-D16
HOOP		□-S13-#100	□-S13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100	□-S13-#100
仕口HOOP		□-S13-#100	□-S13-#100	□-S13-#100	□-D13-#100	□-S13-#100	□-S13-#100

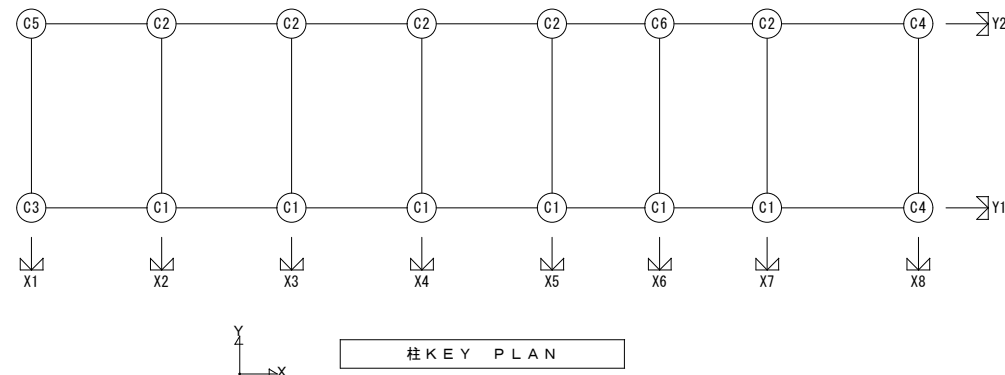
地中梁リスト S=1:50

符号	FG1	FG2	FG3	FG4	FG5	FG6	FG7	FG8	FG9	FG10	FG11
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断面											
b x D	600 x 2200	600 x 2200	600 x 2200	600 x 2200	550 x 2200	550 x 2200	550 x 2200	550 x 1900	600 x 2200	600 x 1900	550 x 1900
上端筋	16-D29	12-D29	12-D29	16-D29	10-D25	4-D29	7-D29	8-D29	5-D29	8-D29	4-D29
腹筋	12-D13	12-D13	12-D13	12-D13	12-D13	12-D13	12-D13	10-D13	12-D13	10-D13	10-D13
下端筋	14-D29	12-D29	12-D29	14-D29	10-D25	4-D29	5-D29	8-D29	9-D29	15-D29	4-D29
S T P	□-D13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100	□-D13-#100	□-D13-#200	□-D13-#200	□-D13-#200	□-D13-#100	□-D13-#150	□-D13-#100	□-D13-#200

共通事項  
・特記なき巾止筋 D10-#1000  
(あばら筋@150の場合 D10-#900)

地中小梁リスト S=1:50

符号	FB1	FB2	FB3	FB4	FB5	FB6	FCG1	FCG2	FCG3, FCB1	FCB2
位置	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断面										
b x D	300 x 1350	350 x 2200	500 x 2200	500 x 2200	300 x 1300	300 x 500	550 x 1900	300 x 1050	300 x 600	300 x 500
上端筋	3-D22	3-D25	4-D25	5-D25	3-D22	3-D16	6-D25	5-D22	5-D19	3-D16
腹筋	6-D10	12-D13	12-D13	12-D13	6-D10	-	10-D13	4-D10	2-D10	-
下端筋	3-D22	6-D25	8-D25	9-D25	3-D22	3-D16	3-D25	3-D22	3-D19	3-D16
S T P	□-D10-#200	□-D13-#200	□-D13-#200	□-D13-#100	□-D10-#200	□-D10-#200	□-D13-#200	□-D10-#200	□-D10-#200	□-D10-#200



株式会社 丹羽英二建築事務所		上和田住宅建築工事(第1工区)		図面番号
一級建築士登録番号 第184619号 濱田 仁		地中梁・柱リスト		縮尺 A1: 1/50 A3: 1/100
検図	製図	設計 平成26年3月	愛知県建設部建築局公営住宅課	
				No. 82



### 大梁リスト S=1:50

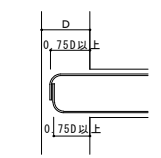
・RG1, RG2, RG4, RG5, RG6 以外の腹筋は柱内に35d定着。  
 ・断面図の( )内数値は、カットオフ筋の余長を示す。

符号	G1, G1A			G2, G2A		G3, G3A		G4, G4A			G5	G6
	外端	中央	内端	両端	中央	両端	中央	内端	中央	外端		
位置	(37d)		(22d)	(32d)				(24d)		(23d)		
断面図												
b x D	450 x 750			450 x 750		450 x 750		450 x 750			350 x 600	400 x 500
上端筋	5-D25	3-D25	4-D25	5-D25	3-D25	5-D25	5-D25	5-D25	3-D25	6-D25	3-D19	3-D19
腹筋	2-D10 [4-D16]			2-D10 [4-D16]		2-D10 [4-D16]		2-D10 [4-D16]			2-D10	2-D10
下端筋	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D25	3-D19	3-D19
S T P	□-D10-@150			□-D13-@200		□-D13-@200		□-D13-@200			□-D10-@200	□-D10-@150

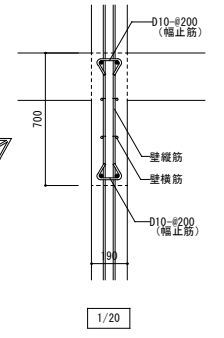
符号	G1			G2		G3		G4			G5	G6
	外端	中央	内端	両端	中央	両端	中央	内端	中央	外端		
位置	(31d)		(31d)	(29d)				(22d)		(22d)		
断面図												
b x D	500 x 750			500 x 750		500 x 750		500 x 750			350 x 600	190 x 700
上端筋	8-D29	5-D29	8-D29	8-D29	5-D29	7-D29	7-D29	8-D29	5-D29	8-D29	3-D19	2-D19
腹筋	4-D10			4-D13		4-D13		4-D10			4-D16	4-D10
下端筋	8-D29	5-D29	8-D29	8-D29	5-D29	6-D29	5-D29	7-D29	5-D29	7-D29	3-D19	2-D19
S T P	▨-D13-@100			▨-D13-@100		▨-D13-@100		▨-D13-@100			□-D10-@100	▨-D10-@200(幅止筋)

### 共通事項

・外柱梁接合部における大梁主筋定着要領は下記による。



・特記なき巾止筋 D10-@1000 (あばら筋@150の場合 D10-@900)



### 小梁リスト S=1:50

符号	B1			B2		B3		B4			B5, B5A	B6
	外端	中央	内端	両端	中央	両端	中央	内端	中央	外端		
位置	(34d)		(35d)	(32d)				(25d)		(25d)		
断面図												
b x D	300 x 650			300 x 650		300 x 800		300 x 800			200 x 500	200 x 450
上端筋	3-D19	2-D19	4-D19	4-D19	2-D19	4-D19	2-D19	5-D19	3-D19	4-D19	2-D16	2-D16
腹筋	2-D10			2-D10		2-D10		2-D10			- [4-D19]	-
下端筋	2-D19	3-D19	2-D19	2-D19	3-D19	2-D19	4-D19	3-D19	4-D19	2-D19	2-D16	2-D16
S T P	□-D10-@200			□-D10-@200		□-D10-@200		□-D10-@200			□-D10-@200	□-D10-@200

### 壁リスト S=1:100

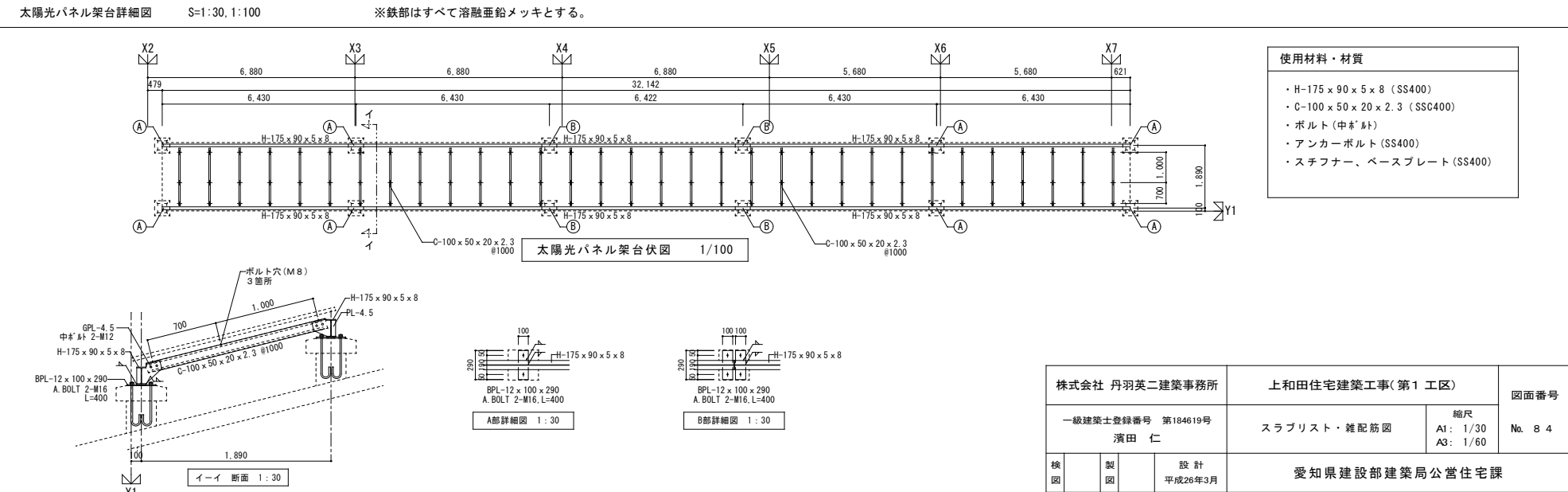
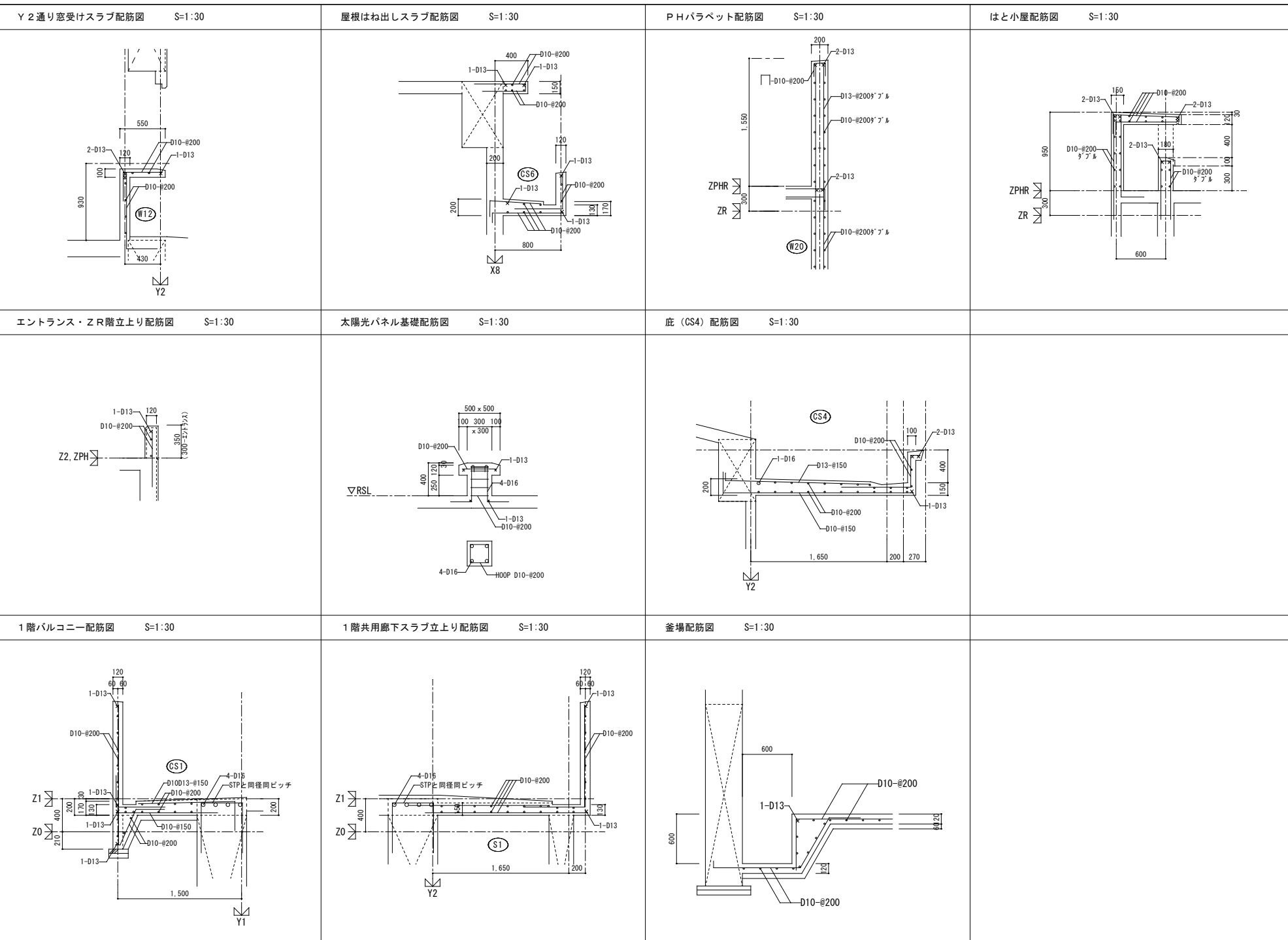
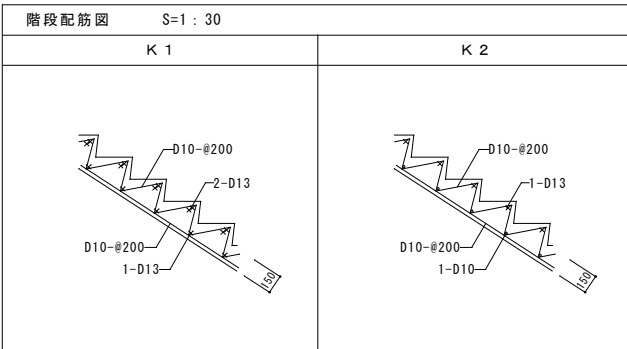
・耐力壁、階段壁、E/V部の壁横筋は、No.70 鉄筋コンクリート構造配筋基準(4)による。

符号	EW20	KW20	W20	EW19	W12	CB12	CB10
	元端	先端	全断面	全断面	全断面	全断面	全断面
断面							
巾止筋	D10-@1000	D10-@1000	D10-@1000	D10-@1000	-	-	-
縦筋	D10-@200'ﾌﾞﾙ	D13-@200'ﾌﾞﾙ	D10-@200'ﾌﾞﾙ	D10-@200'ﾌﾞﾙ	D10-@200ｼﾝｸﾞﾙ	D10-@400ｼﾝｸﾞﾙ	D10-@400ｼﾝｸﾞﾙ
横筋	D10-@200'ﾌﾞﾙ	D10-@200'ﾌﾞﾙ	D10-@200'ﾌﾞﾙ	D10-@200'ﾌﾞﾙ	D10-@200ｼﾝｸﾞﾙ	D10-@600ｼﾝｸﾞﾙ	D10-@600ｼﾝｸﾞﾙ
開口補強筋	縦筋 4-D13	2-D19 (端部補強筋)	4-D13	-	2-D13	-	-
	横筋 4-D16	-	4-D13	-	2-D13	-	-
	斜筋 2-D13	-	2-D13	-	2-D13	-	-

株式会社 丹羽英二建築事務所		上和田住宅建築工事(第1工区)		図面番号 No. 83
一級建築士登録番号 第184619号 濱田 仁		大梁リスト・小梁リスト・壁リスト		
検 査	製 図	設 計	愛知県建設部建築局公営住宅課	
		平26年3月		

スラブリスト

一般スラブリスト		短辺方向	長辺方向	備考	
符号	D	位置	全断面		
S1	150	上端筋	D10-@200	D10-@200	
		下端筋	D10-@200	D10-@200	
S2	150	上端筋	D10D13-@200	D10-@200	
		下端筋	D10D13-@200	D10-@200	
S3	150	上端筋	D10D13-@200	D10D13-@200	
		下端筋	D10D13-@200	D10D13-@200	
S4	150	上端筋	D10D13-@150	D10-@150	
		下端筋	D10D13-@150	D10-@150	
S5	200	上端筋	D10D13-@150	D10-@150	
		下端筋	D10D13-@150	D10-@150	
S6	200	上端筋	D10D13-@150	D10D13-@150	
		下端筋	D10D13-@150	D10D13-@150	
S7	200	上端筋	D13-@150	D10D13-@150	
		下端筋	D13-@150	D10D13-@150	
FS1	200	上端筋	D13-@200	D13-@200	
		下端筋	D13-@200	D13-@200	
CS1	200~170	上端筋	D10D13-@150	D10-@200	
		下端筋	D10-@150	D10-@200	
CS2	200~170	上端筋	D13-@100	D10-@200	
		下端筋	D13-@200	D10-@200	
CS3	200~150	上端筋	D10D13-@150	D10-@200	
		下端筋	D10-@150	D10-@200	
CS4	200~150	上端筋	D13-@150	D10-@200	
		下端筋	D10-@150	D10-@200	
CS5	200~170	上端筋	D10D13-@200	D10-@200	
		下端筋	D10-@200	D10-@200	
CS6	150~130	上端筋	D10-@200	D10-@200	
		下端筋	D10-@200	D10-@200	
CS7	170~150	上端筋	D13-@100	D10-@200	
		下端筋	D13-@200	D10-@200	
CS8	150	上端筋	D13-@100	D10-@200	
		下端筋	D13-@200	D10-@200	
CS9	150	上端筋	D10D13-@150	D10-@200	
		下端筋	D10-@150	D10-@200	



- 使用材料・材質
- ・H-175 x 90 x 5 x 8 (SS400)
  - ・C-100 x 50 x 20 x 2.3 (SSC400)
  - ・ボルト (中ボルト)
  - ・アンカーボルト (SS400)
  - ・スチフナー、ベースプレート (SS400)

株式会社 丹羽英二建築事務所	上和田住宅建築工事(第1工区)	図面番号
一級建築士登録番号 第184619号 濱田 仁	スラブリスト・雑配筋図	縮尺 A1: 1/30 A3: 1/60
No. 84	愛知県建設部建築局公営住宅課	

中空スラブ標準仕様書

1. 適用範囲

- 本仕様は鉄筋コンクリート造又は鉄骨鉄筋コンクリート造の建築物の中空スラブ工法に適用する。
- 本設計図面は鋼製ワインディングパイプ使用（以下パイプ）を前提として設計されたものであり、他のパイプに適用することはできない。
- 各項に対して別図などで詳細指示がある場合は、それに従うこと。

2. 使用部材

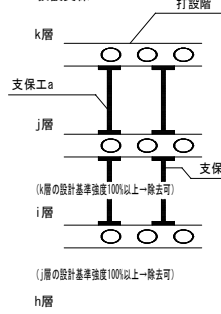
部材名称	材質	規格および材質
パイプ	亜鉛めっき鋼板	JIS-G3302 SGCC (相当品)
		JIS-G3313 SECC (相当品)

3. 中空スラブの施工

- 中空スラブの施工は下記に示す内容に準ずること。
- 日本建築学会「鉄筋コンクリート構造計算規程・解説」
  - 日本建築学会「建築工事標準仕様書・解説 JASS5 鉄筋コンクリート工事」
  - (社)公共建築協会「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）」

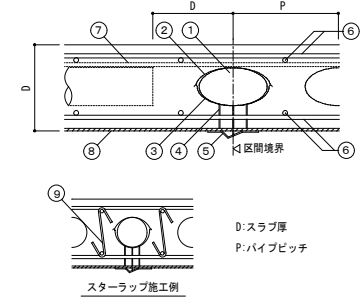
監理者の許可無くパイプ割付を変更しないこと。

4. 仮設支保工

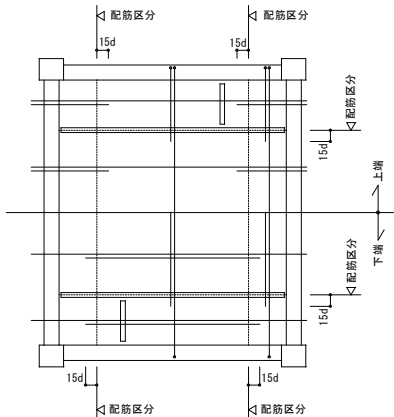


- 支保工の盛り替えは、行わないこと。
- 支保工の存置期間は、設計基準強度の100%以上のコンクリートの圧縮強度が得られたことが確認されるまでとする。構造計算により十分な安全が確認されるまでとする。（コンクリート打設4週間以上が望ましい。）
- 多層の場合は、支保工二層分打設層のスラブを受ける様に、打設層スラブ（k層）が上記の（2）を確認したうえで、支保工bを除去できる。
- スラブ下の支保工を早期取り外しすると、有害なたわみの原因となるので留意のこと。
- 上記以外については、JASS5（日本建築学会）に従う。
- 上記記載なき支保工計画については、監理者の承諾を得ること。

5. 中空スラブ標準構成図

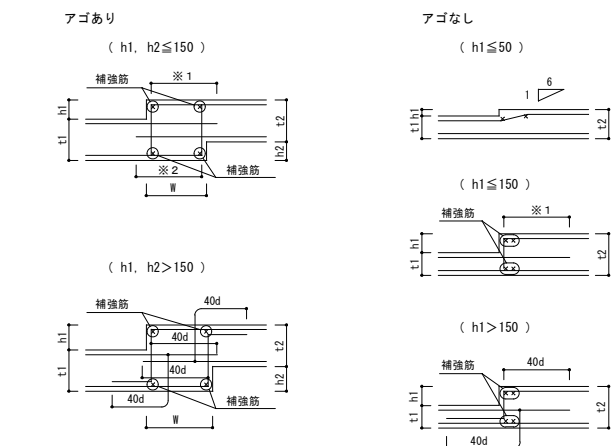


6. 配筋要領図・余長

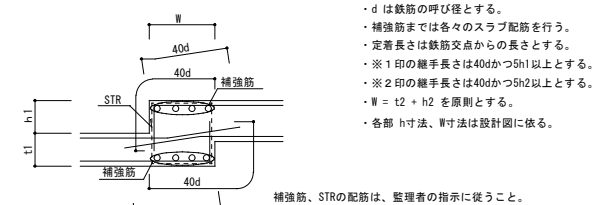


7. 段差部配筋要領図

- コンクリート強度により継手、定着長を変更する場合は監理者の指示によること。
- (a)相互定着形式

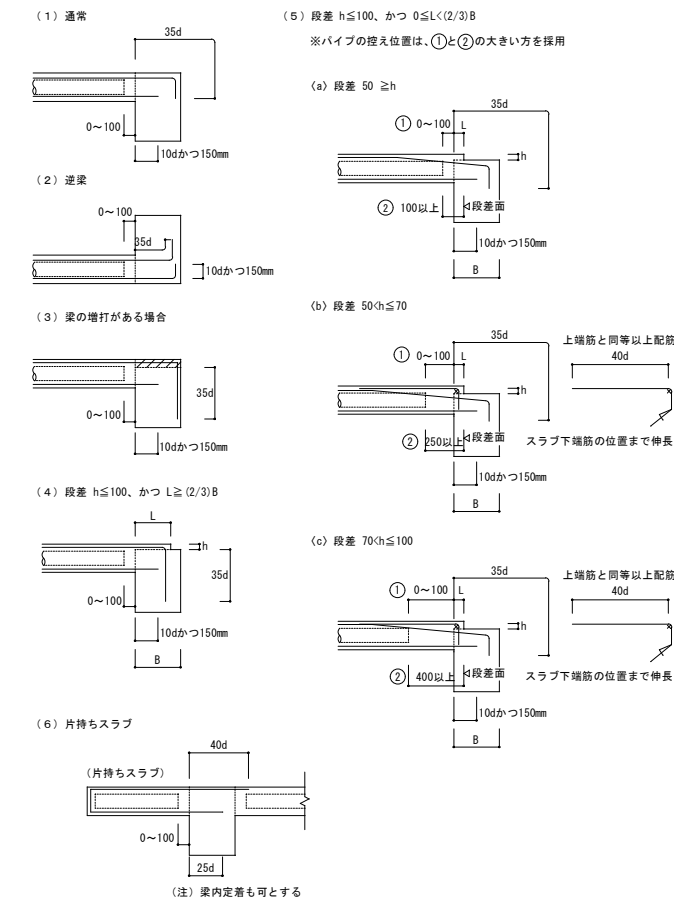


(b)スターラップ形式



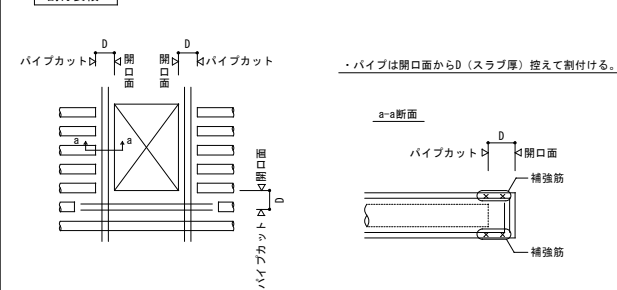
8. 大梁定着配筋要領

- コンクリート強度により定着長を変更する場合は監理者の指示によること。
- ※h>100の場合は、監理者の指示によること。

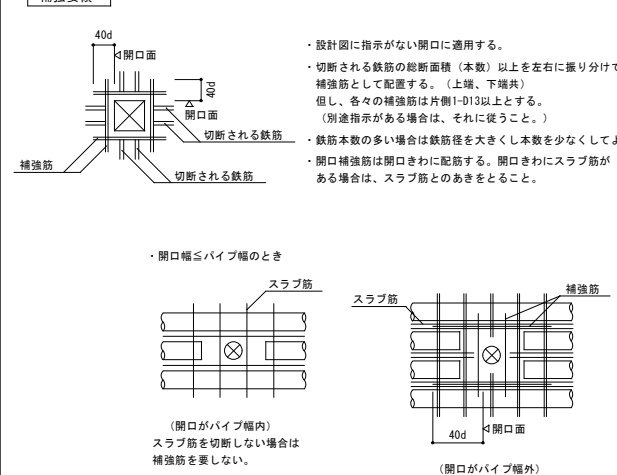


9. 開口割付・補強要領

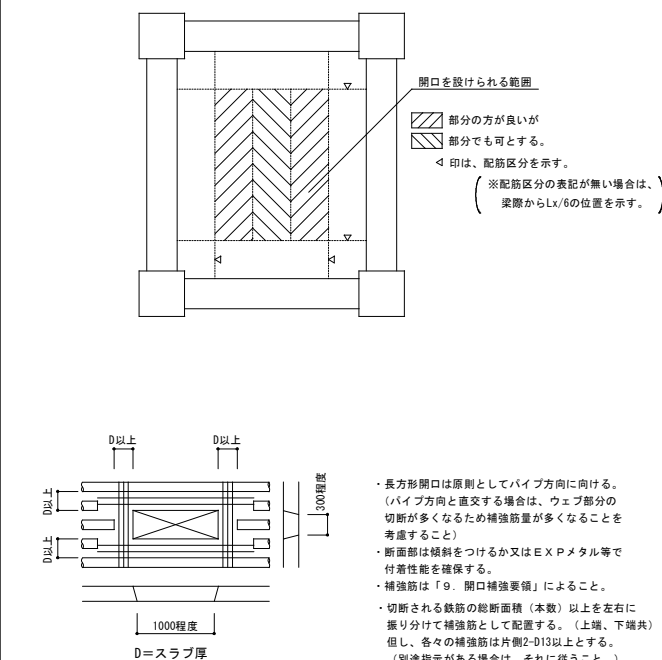
割付要領



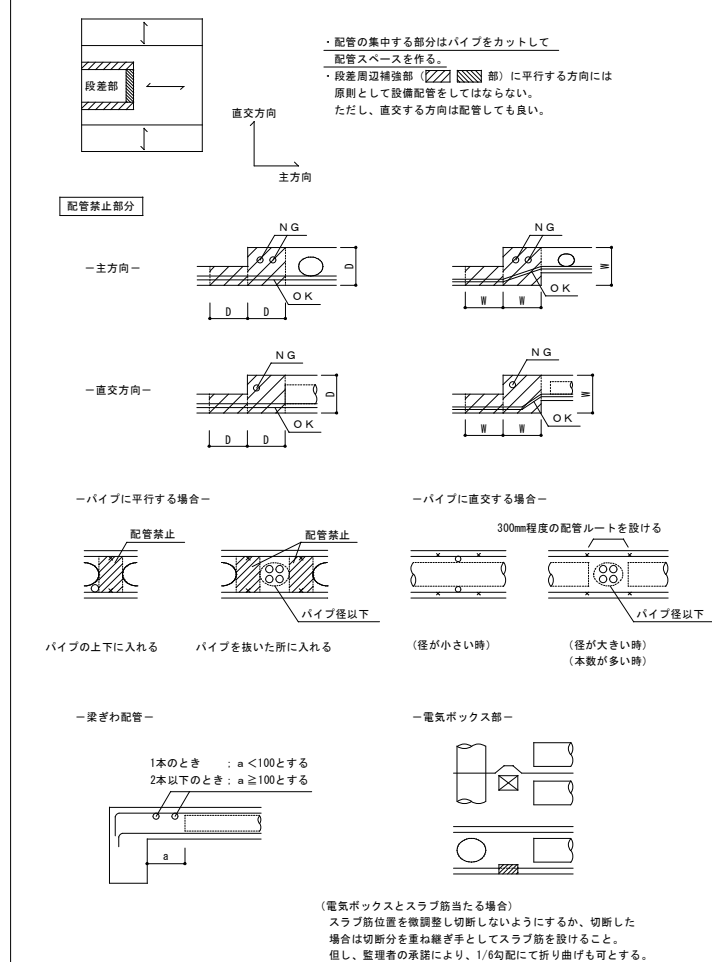
補強要領



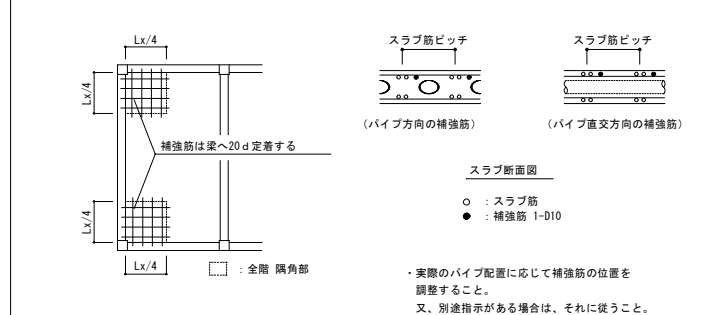
10. 仮設開口



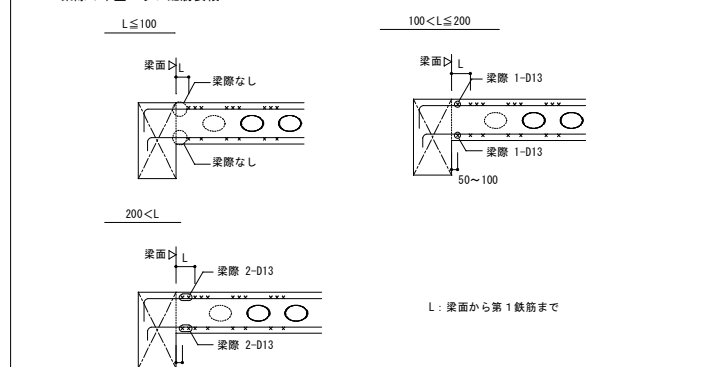
11. 中空スラブ内設備配管



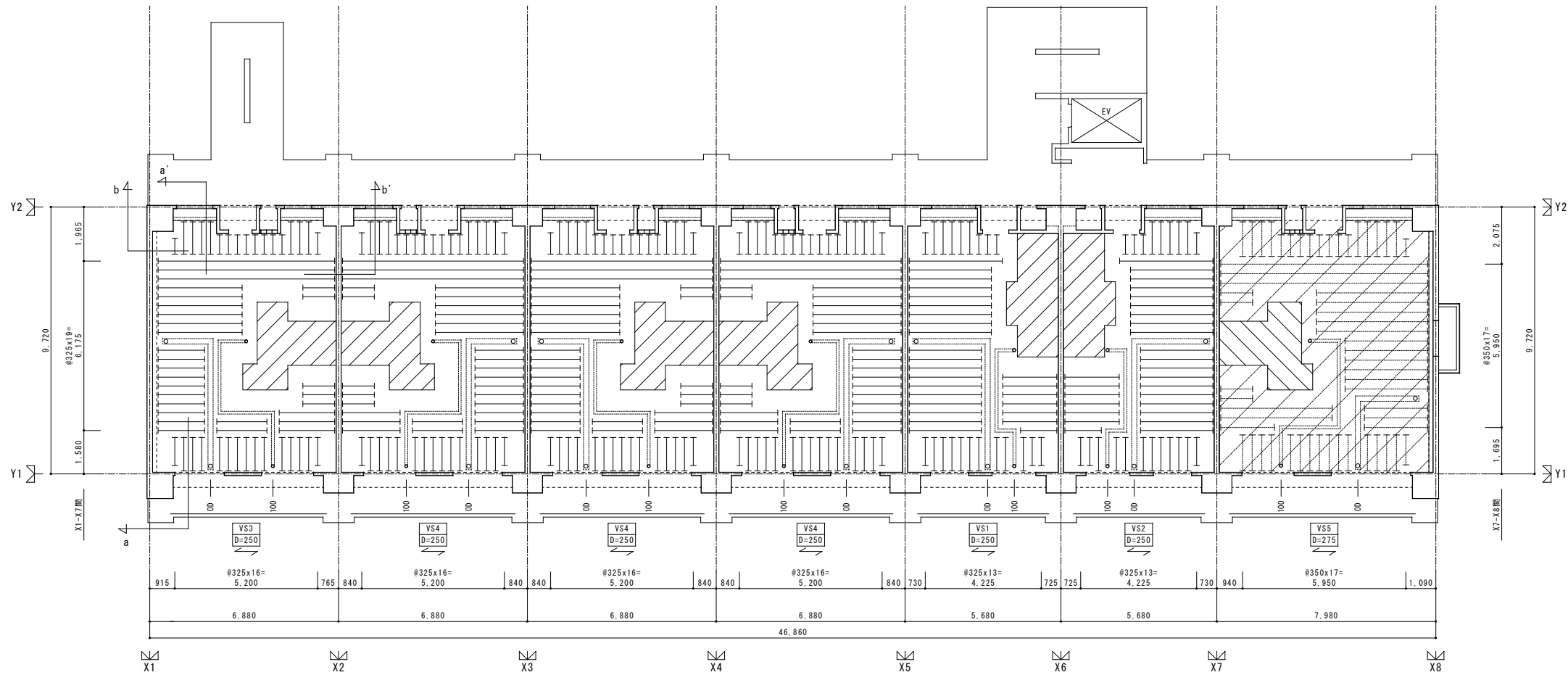
12. 隅角部の補強筋要領



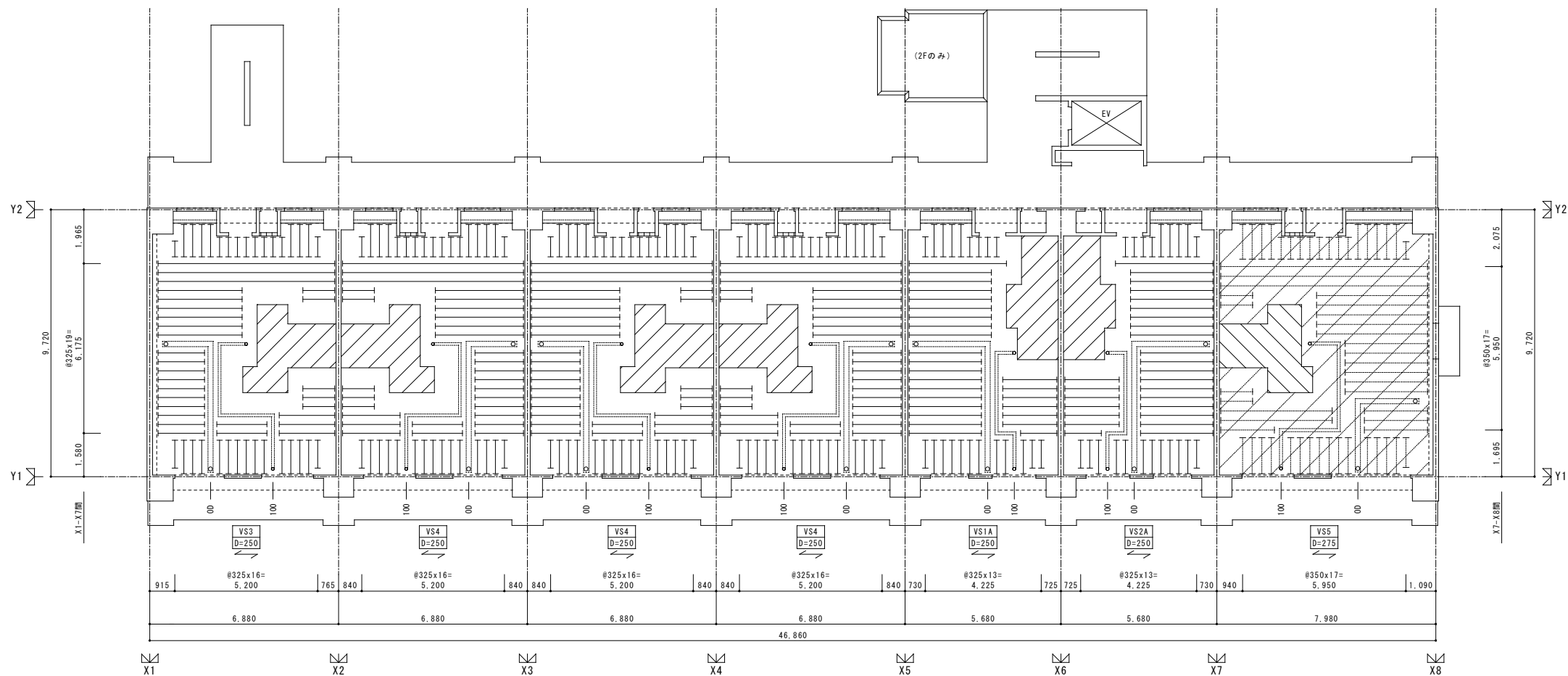
13. 梁端の中空スラブ配筋要領



株式会社 丹羽英二建築事務所	上和田住宅建築工事(第1工区)	図面番号
一級建築士登録番号 第184619号 濱田 仁	中空スラブ標準仕様書	縮尺 A1: - A3: - No. 85
検 図	製 図	設 計 平成26年3月
愛知県建設部建築局公営住宅課		



4～8階中空スラブ伏図 S=1:100 (見下げ)



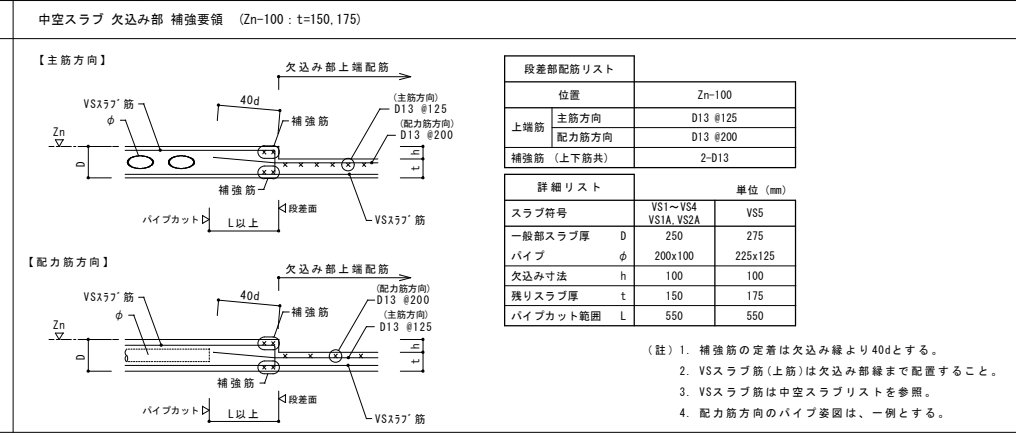
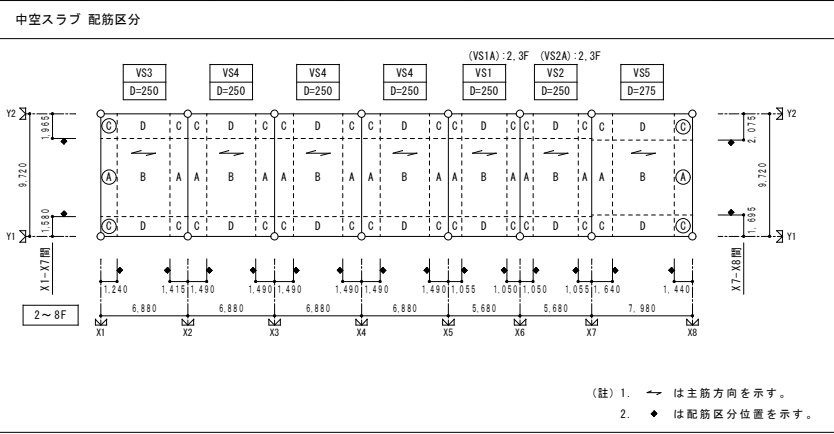
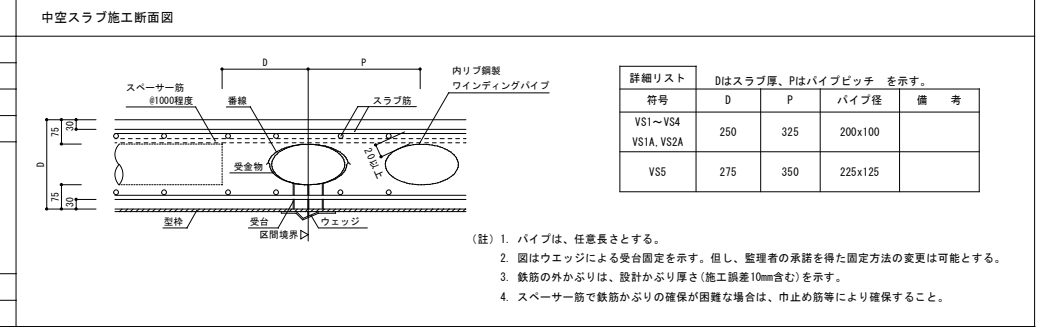
2, 3階中空スラブ伏図 S=1:100 (見下げ)

- 特記なき限り下記による
- 中空スラブ表記
    - ← は主筋方向を示す。
    - はパイプ径φ-200x100を示す。
    - はパイプ径φ-225x125を示す。
  - 中空スラブ天端レベル
    - Zn ± 0 を示す。(D=250 : φ-200x100)
    - ▨ Zn ± 0 を示す。(D=275 : φ-225x125)
    - ▩ Zn - 100 を示す。(t=150)
    - ▧ Zn - 100 を示す。(t=175)
  - その他
    - 100 : 硬質塩化ビニル管 (薄肉) φ-100
    - 00 : オーバルダクト φ-190 x 100
- 中空スラブ断面配筋  
a-a' 主筋方向断面 b-b' 配筋方向断面 位置を示す。

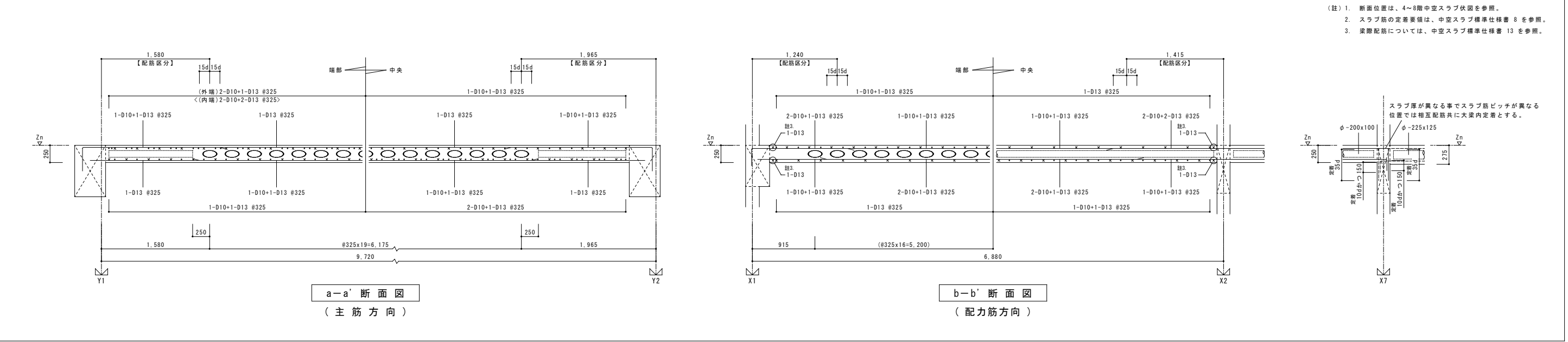
株式会社 丹羽英二建築事務所		上和田住宅建築工事(第1工区)		図面番号
一級建築士登録番号 第184619号 濱田 仁		中空スラブ伏図	縮尺 A1: 1/100 A3: 1/200	No. 8 6
検 図	製 図	設 計 平成26年3月	愛知県建設部建築局公営住宅課	

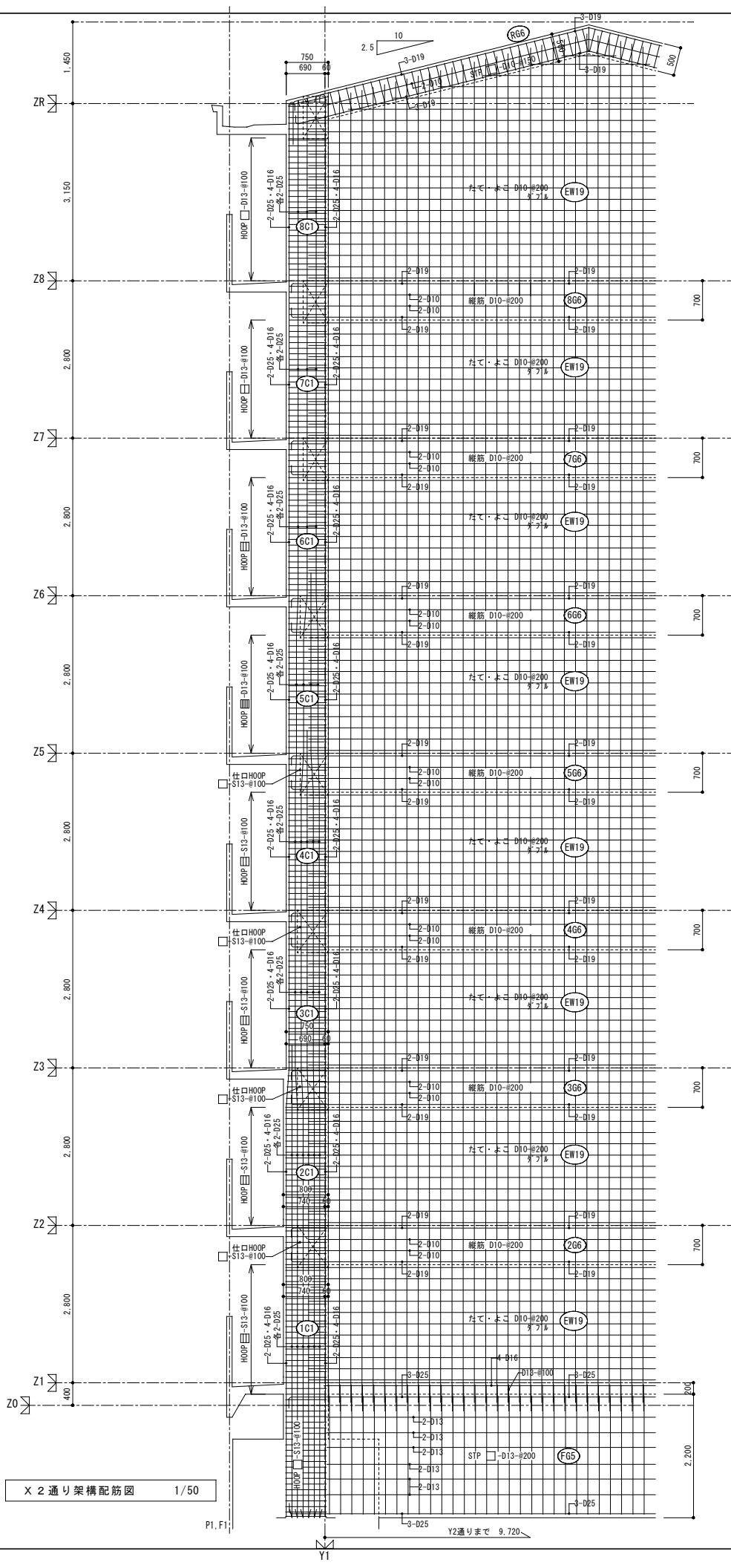
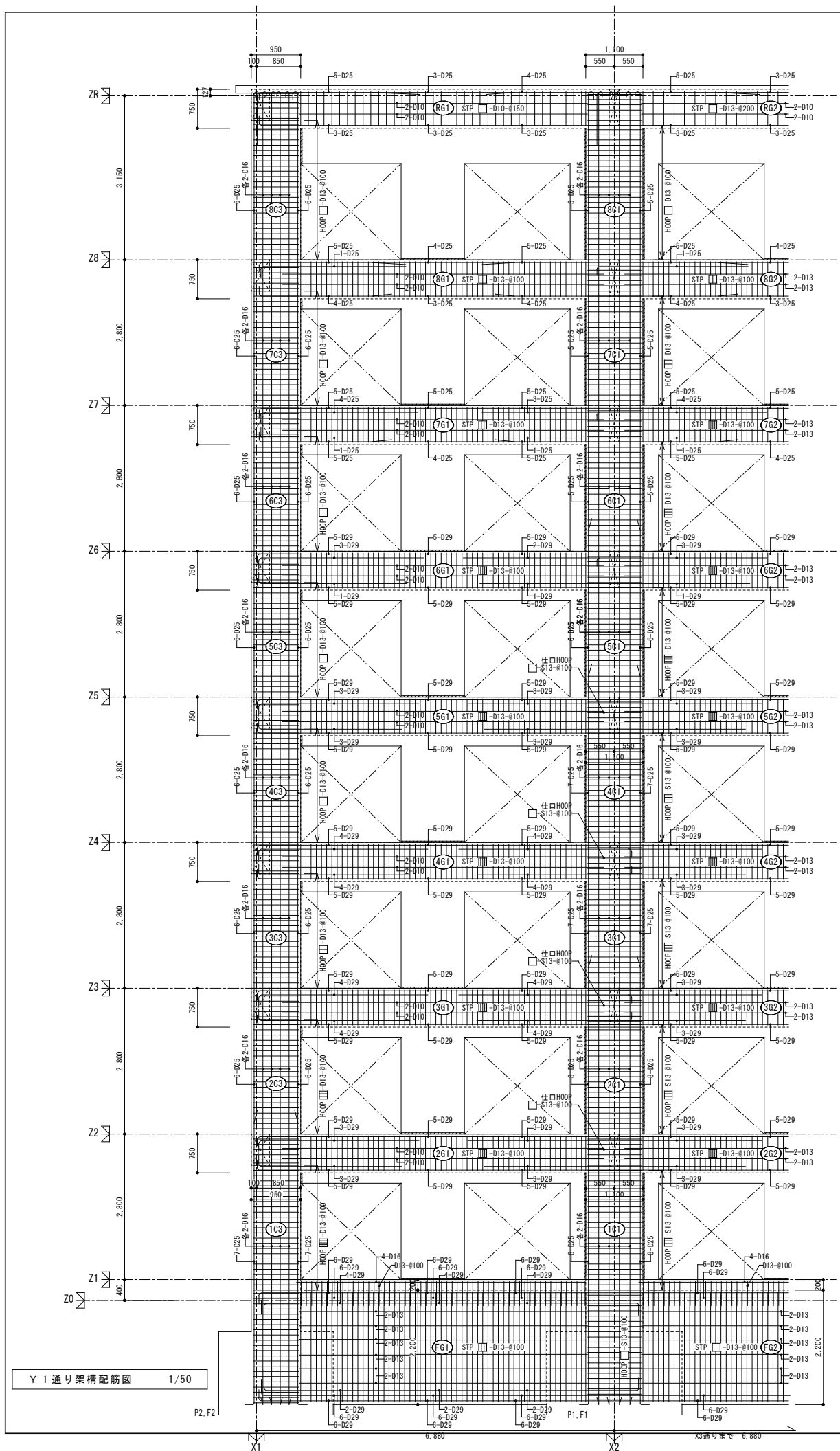
記号	VS1, VS1A								VS2, VS2A				VS3															
パイプ	φ-200x100								φ-200x100				φ-200x100															
方向	主筋方向				配筋方向				主筋方向				配筋方向				主筋方向				配筋方向							
位置	両端		中央		両端		中央		両端		中央		両端		中央		両端		中央		両端		中央					
	A	C	B	D	D	C	B	A	A	C	B	D	D	C	B	A	Ⓐ	Ⓒ	B	D	A	C	D	Ⓒ	C	B	Ⓐ	A
断面																												
上端筋	2-D10+2-D13	2-D10+2-D13	1-D10+1-D13	1-D10+1-D13	1-D10+1-D13	1-D13	1-D10+1-D13	1-D13	2-D10+2-D13	2-D10+2-D13	1-D10+1-D13	1-D10+1-D13	1-D10+1-D13	1-D13	1-D10+1-D13	1-D13	2-D10+1-D13	2-D10+1-D13	1-D10+1-D13	1-D10+1-D13	2-D10+2-D13	2-D10+2-D13	1-D10+1-D13	1-D13	2-D10+1-D13	2-D10+1-D13	1-D10+1-D13	1-D13
下端筋	1-D10+1-D13	1-D10+1-D13	1-D10+1-D13	1-D10+1-D13	1-D13	1-D10+1-D13	1-D10+1-D13	1-D10+1-D13	1-D10+1-D13	1-D10+1-D13	1-D10+1-D13	1-D10+1-D13	1-D10+1-D13	1-D13	1-D10+1-D13	1-D10+1-D13	1-D10+1-D13	1-D10+1-D13	2-D10+1-D13	2-D10+1-D13	1-D10+1-D13	1-D10+1-D13	1-D10+1-D13	1-D13	1-D10+1-D13	1-D10+1-D13	1-D10+1-D13	1-D10+1-D13

記号	VS4								VS5																			
パイプ	φ-200x100								φ-225x125																			
方向	主筋方向				配筋方向				主筋方向				配筋方向															
位置	両端		中央		両端		中央		外端		中央		内端		両端		中央											
	A	C	B	D	D	C	B	A	Ⓐ	Ⓒ	B	D	A	C	D	Ⓒ	C	B	Ⓐ	A								
断面																												
上端筋	2-D10+2-D13	2-D10+2-D13	1-D10+1-D13	1-D10+1-D13	1-D10+1-D13	1-D13	1-D10+1-D13	1-D13	2-D10+1-D13	2-D10+1-D13	1-D10+1-D13	1-D10+1-D13	2-D10+2-D13	2-D10+2-D13	2-D13	1-D13												
下端筋	1-D10+1-D13	1-D10+1-D13	2-D10+1-D13	2-D10+1-D13	1-D13	1-D10+1-D13	1-D10+1-D13	1-D10+1-D13	1-D10+1-D13	1-D10+1-D13	1-D10+2-D13	1-D10+1-D13	1-D10+1-D13	1-D10+1-D13	1-D10+1-D13	2-D10+1-D13	2-D10+1-D13											



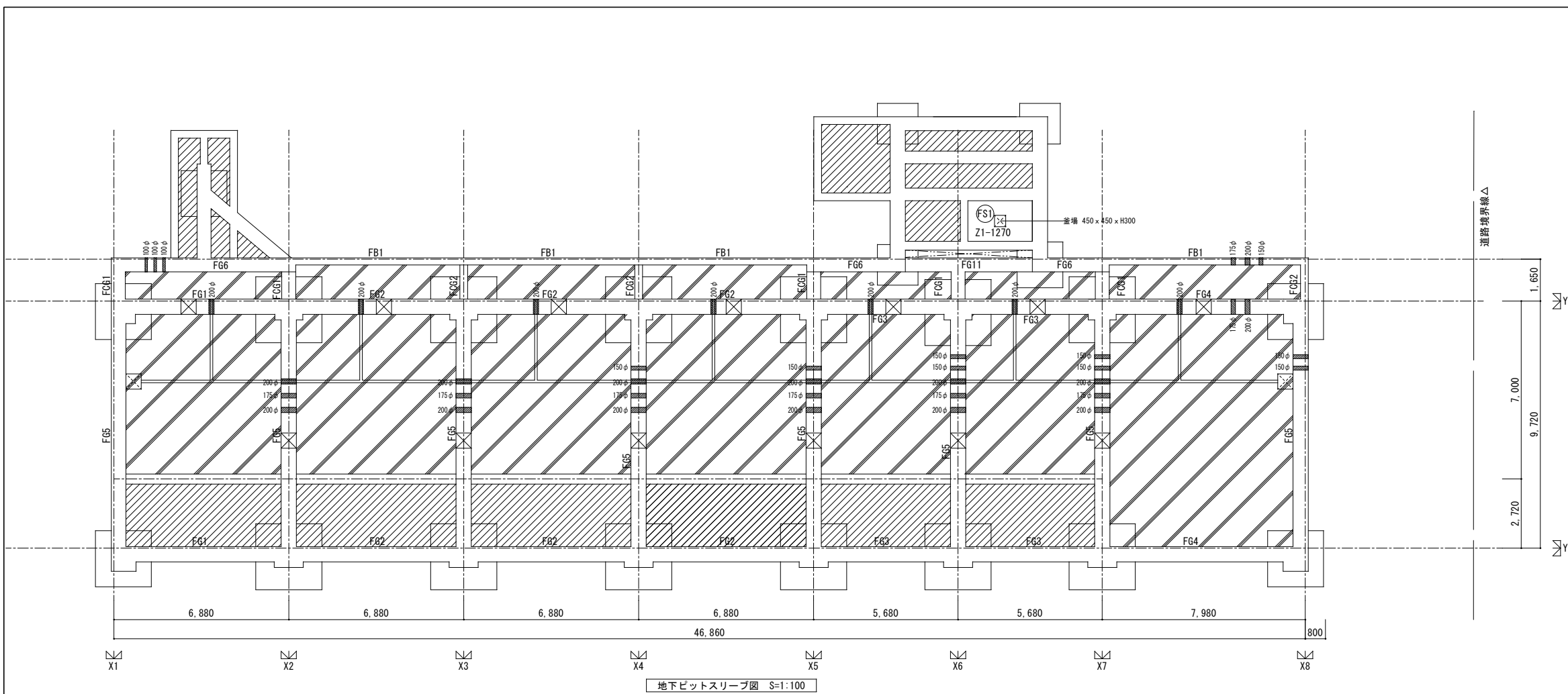
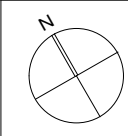
VS3 断面配筋図 S=1:30 (註) 特記なき限り ワインディングパイプ φ-200x100 を示す。





**共通事項**  
 構造スリット位置を示す。  
 仕口部 HOOPは D13-#100とする。

株式会社 丹羽英二建築事務所	上和田住宅建築工事(第1工区)	図面番号
一級建築士登録番号 第184619号	架構配筋図	縮尺 A1: 1/50 A3: 1/100
濱田 仁		No. 88
検図	製図 設計 平成26年3月	愛知県建設部建築局公営住宅課



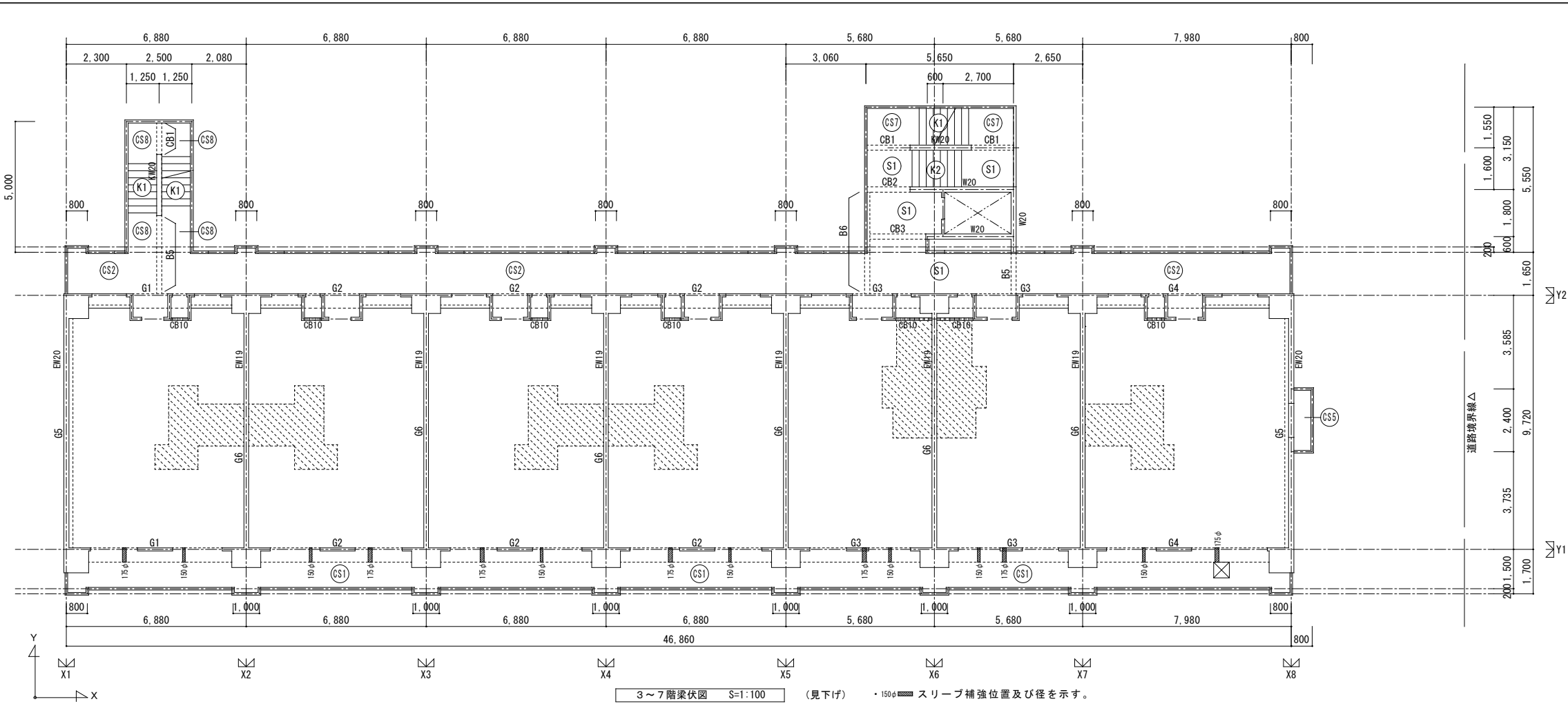
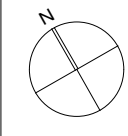
- 共通事項
- 特記なき限り下記による
- 人通孔 600φを示す。
  - 蓋場 600 x 600 x H600を示す。
  - ビットスラブ天端 Z0-1030
  - 土間コンクリート 厚120  
たてよこ D10-@200シングル
  - 埋め戻し部分を示す。
  - 150φ スリーブ補強位置及び径を示す。

スリーブ補強リスト

径	梁符号	箇所数
600	FG1	1
	FG2	3
	FG3	2
	FG4	1
	FG5	6
200	FG1	1
	FG2	3
	FG3	2
	FG4	2
	FG5	1 2
175	FB1	1
	FG4	1
	FG5	6
150	FG5	8
	FB1	1
100	FG6	3

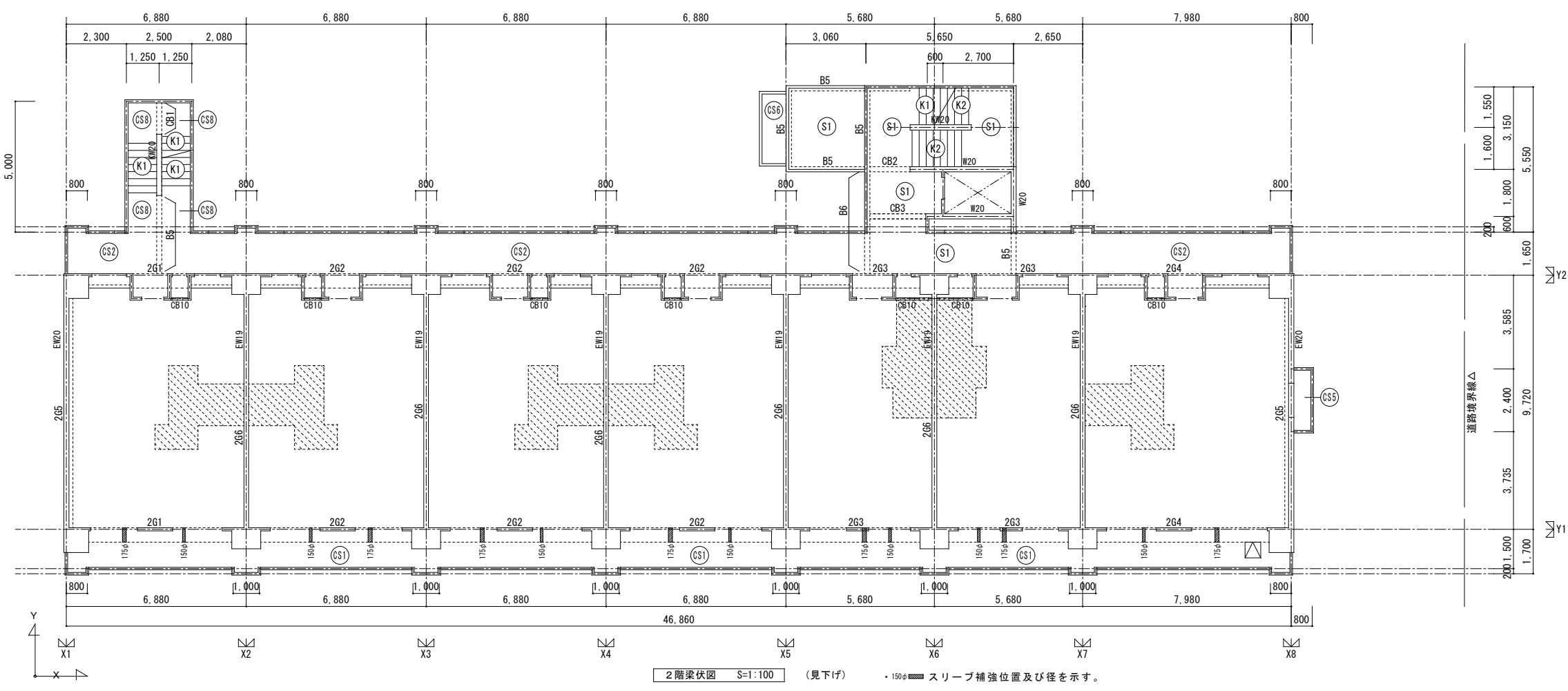
梁貫通孔補強材：MA XリブレンK型 同等品  
 (実験により性能が確認され、(財)日本建築センターの  
 評定・評価を受けた物を用いること。)

株式会社 丹羽英二建築事務所	上和田住宅建築工事(第1工区)	図面番号
一級建築士登録番号 第184619号 濱田 仁	地下ビットスリーブ伏図	縮尺 A1: 1/100 A3: 1/200 No. 89
検図	製図	設計 平26年 3月
愛知県建設部建築局公営住宅課		



スリープ補強リスト

径	梁符号	階	箇所数
150	G1	3~5	各1
		6	1
		7	1
	G2	3,4,6	各3
		5	3
		7	3
	G3	3	2
4		2	
5		2	
6		2	
7		2	
G4	3~5	各1	
	6,7	各1	
175	G1	3~5	各1
		6	1
		7	1
	G2	3,4,6	各3
		5	3
		7	3
	G3	3	2
4		2	
5		2	
6		2	
G4	3~5	各1	
	6,7	各1	



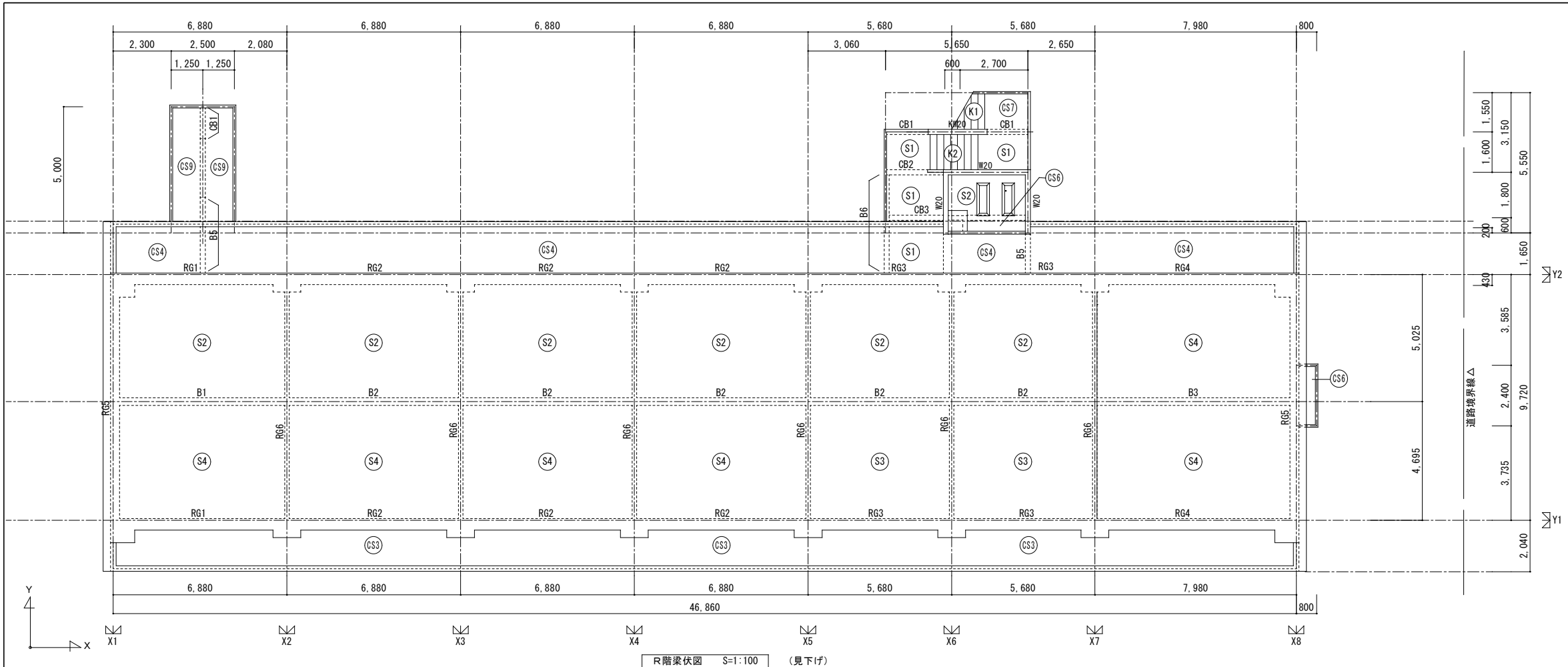
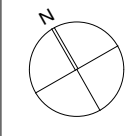
スリープ補強リスト

径	梁符号	箇所数
150	2G1	1
	2G2	3
	2G3	2
	2G4	1
175	2G1	1
	2G2	3
	2G3	2
2G4	1	

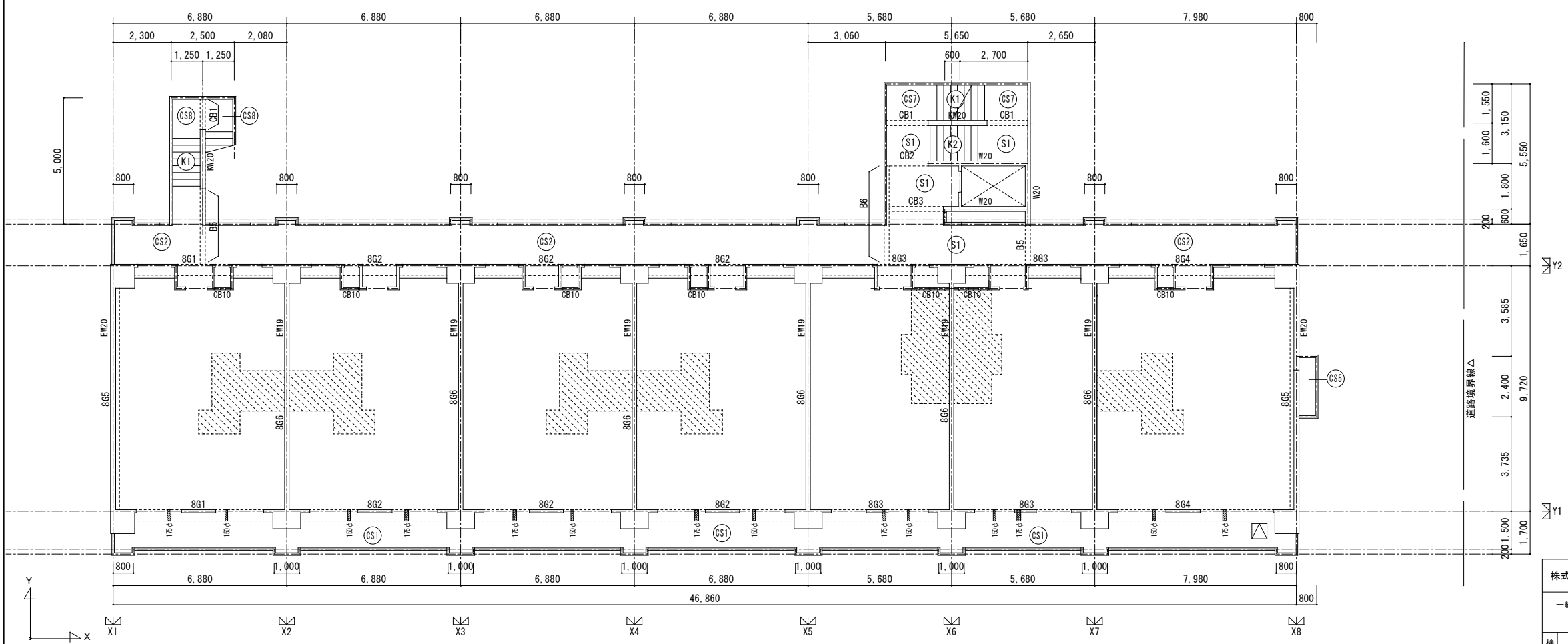
梁貫通孔補強材：MA×リブレンK型 同等品  
 (実験により性能が確認され、(財)日本建築センターの  
 評定・評価を受けた物を用いること。)

株式会社 丹羽英二建築事務所	上和田住宅建築工事(第1工区)	図面番号
一級建築士登録番号 第184619号 濱田 仁	2階・3~7階スリープ伏図	縮尺 A1: 1/100 A3: 1/200
検 図	製 図	設 計 平26年 3月
愛知県建設部建築局公営住宅課		





R階梁伏図 S=1:100 (見下げ)



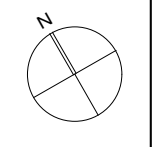
8階梁伏図 S=1:100 (見下げ) ・150φ スリーブ補強位置及び径を示す。

スリーブ補強リスト

径	梁符号	箇所数
150	8G1	1
	8G2	3
	8G3	2
	8G4	1
175	8G1	1
	8G2	3
	8G3	2
	8G4	1

梁貫通孔補強材：MAXリブレンク型 同等品  
 (実験により性能が確認され、(財)日本建築センターの評定・評価を受けた物を用いること。)

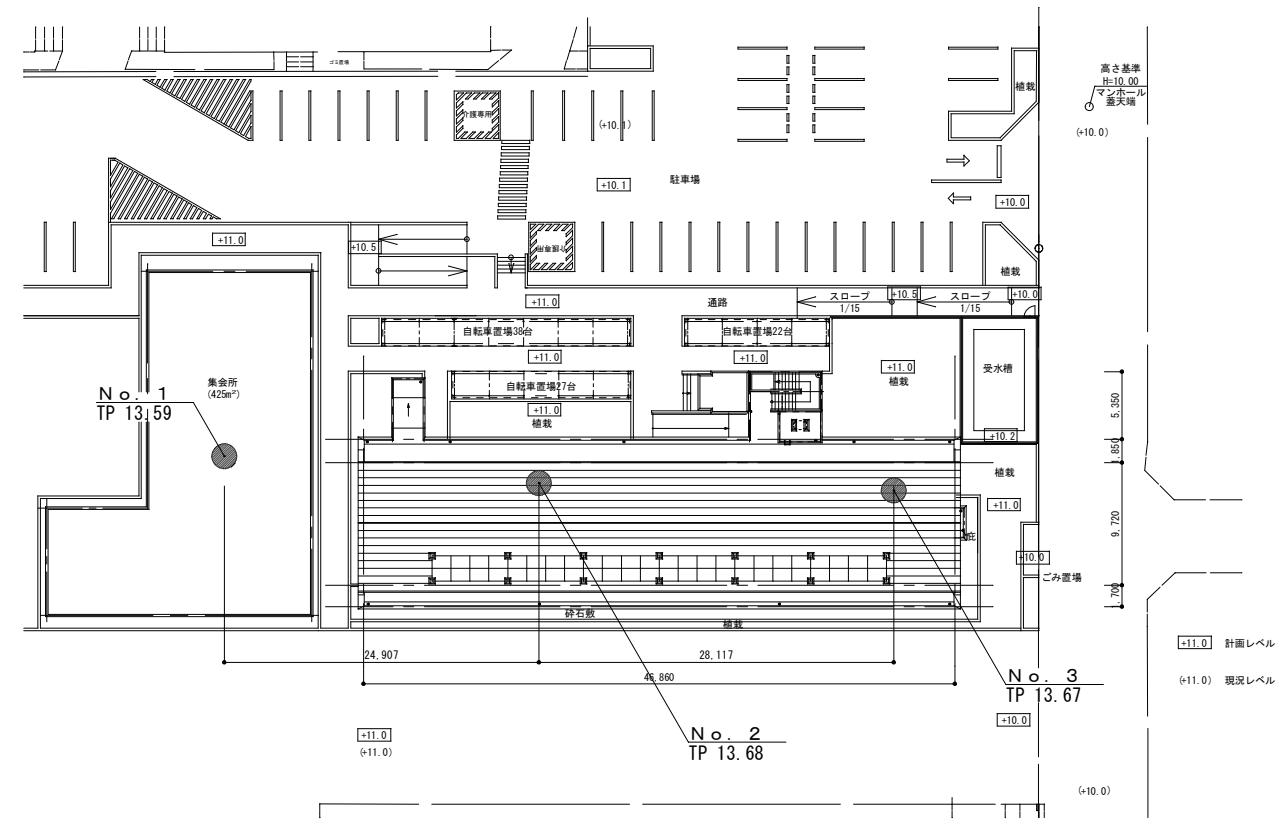
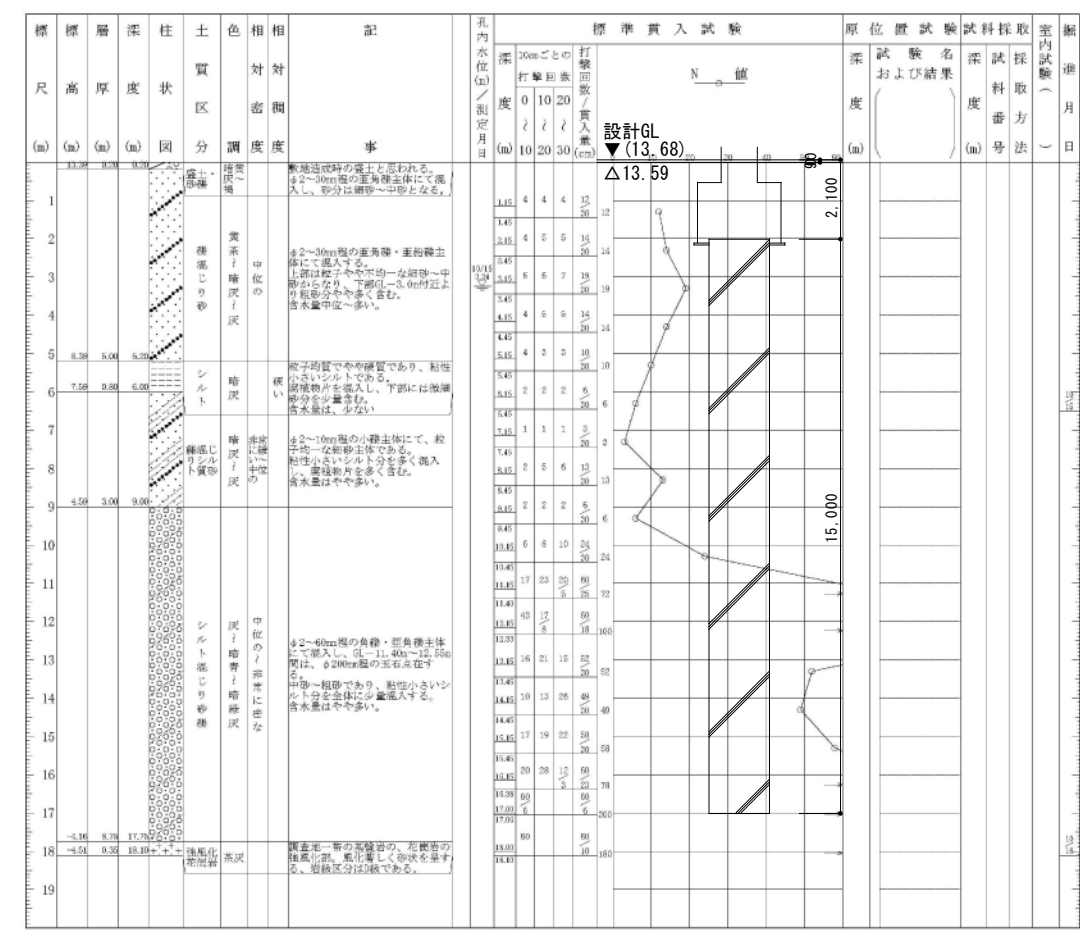
株式会社 丹羽英二建築事務所	上和田住宅建築工事(第1工区)	図面番号
一級建築士登録番号 第184619号 濱田 仁	8階スリーブ伏図	縮尺 A1: 1/100 A3: 1/200 No. 9 1
検図	製図	設計 平26年 3月
愛知県建設部建築局公営住宅課		



ボーリング柱状図

調査名 上和田地質調査(第1次) ボーリングNo. \_\_\_\_\_  
 事業・工事名 \_\_\_\_\_ シートNo. \_\_\_\_\_

ボーリング名	No. 1	調査位置	岡崎市上和田町 地内	北緯	34° 56' 5.8"
発注機関	愛知県建設部建設担当局公営住宅課	調査期間	平成 25年 10月 15日 ~ 25年 10月 16日	東経	137° 9' 4.7"
調査業者名	株式会社 アイコ 電話 (0565-48-6048)	照査技術者	吉田 一也	管財技術者	松浦 次夫 コア 鑑定者 山村 裕二
孔口標高	T.P. 13.59m	角	180° 上 90° 下 0°	方	北 0° 東 90° 南 180° 西 270°
総掘進長	18.10m	地盤勾配	約 0°	使用機種	エンジン
		試験機	YBM65DA型	ハンマー	落下用具
			NFD9型	ポンプ	半自動型
					GP-6型

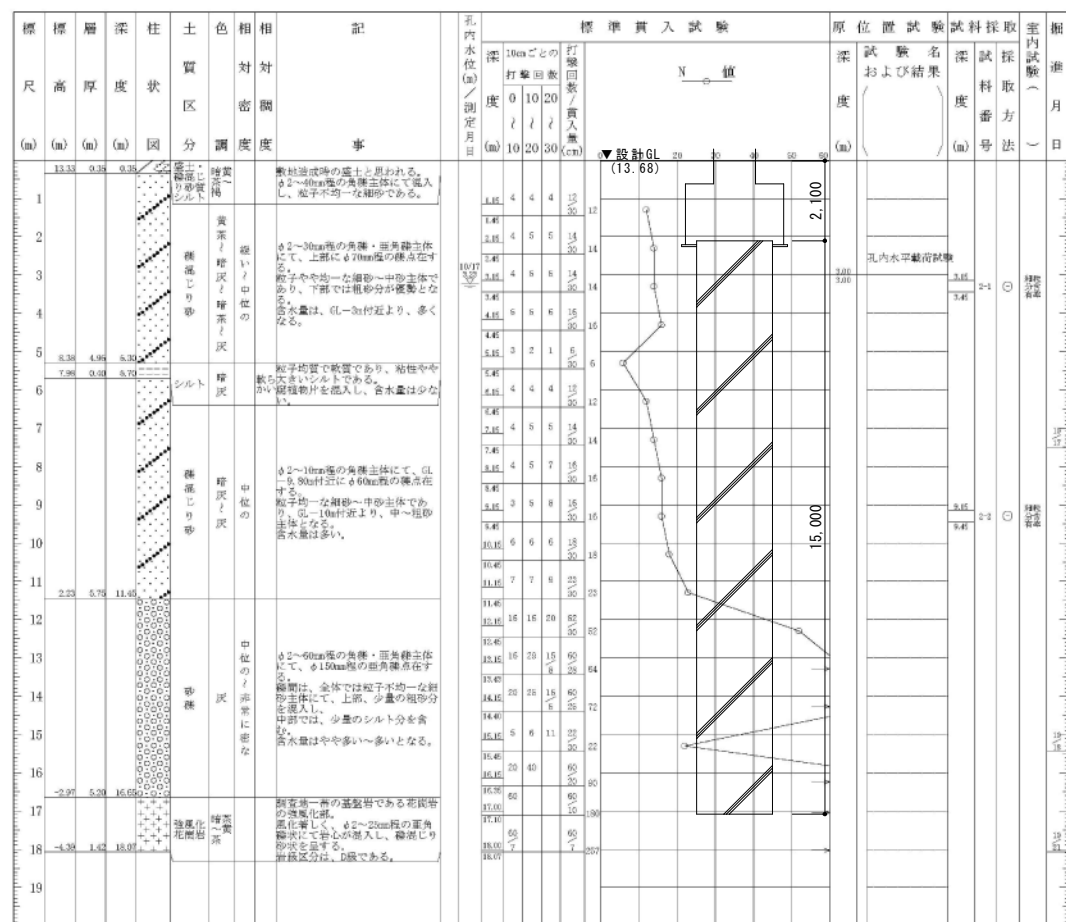


ボーリング柱状図

調査名 上和田住宅地質調査(第1次)

ボーリングNo. [ ]

ボーリング名	No. 2	調査位置	岡崎市上和田町 地内	北緯	34° 56' 5.2"
発注機関	愛知県建設部建築担当局公共建築課	調査期間	平成 25年 10月 17日 ~ 25年 10月 18日	東経	137° 9' 5.6"
調査業者名	株式会社 アイコ 電話 (0565-48-6048)	調査技術者	吉田 一也	管理技術者	松浦 次夫
孔口標高	T.P. 13.68m	角	180° 上 90° 下	方	北 0° 東 270° 西 180°
総掘進長	18.07m	地盤勾配	水平 0°	使用機種	試錐機 YBM05DA型
					ハンマー 落下用具
					ポンプ GP-5



ボーリング柱状図

調査名 上和田住宅地質調査(第1次)

ボーリングNo. [ ]

ボーリング名	No. 3	調査位置	岡崎市上和田町 地内	北緯	34° 56' 4.7"
発注機関	愛知県建設部建築担当局公共建築課	調査期間	平成 25年 10月 22日 ~ 25年 10月 23日	東経	137° 9' 6.3"
調査業者名	株式会社 アイコ 電話 (0565-48-6048)	調査技術者	吉田 一也	管理技術者	松浦 次夫
孔口標高	T.P. 13.67m	角	180° 上 90° 下	方	北 0° 東 270° 西 180°
総掘進長	18.14m	地盤勾配	水平 0°	使用機種	試錐機 YBM05DA型
					ハンマー 落下用具
					ポンプ GP-5

